

平成26年度
共同公開講座報告書

平成27年3月

一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

目次

1.	学生の力で地域資源を探して・活かそう！	1
2.	第3回「静岡2.0」フォーラム 今、私たちができる「地域」づくり	71
3.	静岡の食を支える農の6次産業化と地域振興	81
4.	大学共同授業「人間と環境」 ～「地球発」の新しい価値観の創造～	111

本報告書は、静岡県委託事業「平成26年度大学間等の連携による共同公開講座開催業務」を受けて、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムが開催した「共同公開講座」の記録を取りまとめたものです。

学生ので地域資源を探して・活かそう！

平成 26 年度
ふじのくに地域・大学コンソーシアム
共同公開講座
「学生のかで地域資源を探して・活かそう！」
報告書

常葉大学、常葉大学法学部地域法政策・実践センター、東京大学
静岡県清水港管理局、静岡市、静岡市まちづくり公社
しずおかオープンデータ推進協議会

はじめに

地域の活性化のためには、地域資源¹を活かすことが重要である。地域資源の活用に学生の若い活力を吹き込むことで、新たな事業展開の可能性もある。さらに、学生が地域資源の発掘や開発に関わることで、地域で生きる人材の養成にも資することができる。

第一回の「学生による地域資源を活用したビジネスの可能性」では、他県（島根県、福島県、茨城県など）でのまちづくりやインターンシップを通じ、学生の移住や企業への就職が紹介された。静岡市でも、静岡・清水の中心市街地活性化の現況を踏まえ、まちなかや商店街で学生がボランティアではなく、インターンシップとして、職業体験をする必要性が共有された。今後の地域資源を活用した学生インターンシップの土壌作りが期待される。

第二回の「学生による地域資源を活用したアートイベント『ミナトブンカサイ 2014』」では、清水日の出地区の石造倉庫群の歴史的価値が再認識され、地域資源として重要なだけでなく、コンバージョンやリノベーションによる新たな価値の創出の可能性が示された。港湾地域の倉庫群の活性化が世界的な傾向となっており、海外の事例紹介が清水日の出地区の活性化の弾みとなると考えられる。なお、造形学部の実践発表を通じて、倉庫街が地域資源として活用され、アートが地域の活性化に結びつく可能性が示された。

第三回の「学生と地域資源としての文化・景観」では、横浜市から、地域資源がオープンデータといった情報技術と結びつくことで、地域に活気をもたらすことが示された。静岡市には、鎌倉時代、室町時代からの歴史的な地域資源も多く残されている。伝馬町では、歴史を地域の誇りとして、商店街を盛り上げている。静岡市は、東海道だけでなく北街道等、古くからの街道や歴史的な地域資源を有することから、駿府城公園を中心として広域的に歴史的な地域資源を活用し、歴史まちづくりを行うことも検討に値しよう。もっとも、歴史的な地域資源を保存していくためには、行政頼みではなく、オランダのように税のインセンティブを付与した取り組みにより、民間、個人がサポートできる仕組みづくりも重要である。

関連企画として、学生がまちづくりに取り組む姿を発表する機会を設けた（東京電機大学による「CitySwitch みなとふじ 2014 清水港日の出地区再生 日中韓国際ワークショップ成果発表会」、東京大学都市デザイン研究室、常葉大学造形学部を主体とした「ミナトブンカサイ 2014」）。また、静岡市、しずおか・モビリティ研究会、株式会社シマノのご協力により、シンポジウム「自転車をまちづくりに活かす オープンデータを視野に入れて」を開催することができた。学生や市民が地域資源を自転車で探す楽しみを共有し、今後のまちづくりについて考える機会となった。

なお、第三回の公開講座では、常葉大学造形学部の学生（安武伸朗准教授指導）によるグラフィックレコーディングが行われ、議論を可視化することで、参加者の情報共有を図る試みがなされた。一連の公開講座のポスターは、常葉大学造形学部の学生（土屋和男准教授指導）によって製作された。

¹ 本公開講座では、広く「地域資源」という文言を使用する（2頁の分類を参照）が、中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律（「中小企業地域資源活用促進法」）では、「地域産業資源」という文言が用いられている。

1 自然的・経済的・社会的条件からみて一体である地域（以下単に「地域」という。）の特産物として相当程度認識されている農林水産物又は鉱工業品

2 前号に掲げる鉱工業品の生産に係る技術

3 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているものとあり、上記3つのいずれかに該当すれば「地域産業資源」になるとする（「中小企業地域資源活用促進法」法第二条第2項）。

なお、静岡県では、地域経済の活性化を図るため、国、市町、産業支援機関等と連携して中小企業地域資源活用プログラムを積極的に推進している。

http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-510/chiikishigen/documents/chiiki-shigen_list.pdf

平成 26 年度 公開講座および関連企画 実施日程

9月6日	第一回 公開講座	<p>「学生による地域資源を活用したビジネスの可能性」</p> <p>「静岡・清水の中心市街地活性化の現況」 松浦 高之（静岡市役所商業労政課・課長）</p> <p>「CitySwitch でまちのビジョンをつくる」 山代 悟（ビルディングランドスケープ代表、大連理工大学客員教授）</p> <p>「市街地・商店街活性と学生インターンシップ」 宇賀田 栄次（静岡大学学生支援センター・特任教授）</p> <p>パネル・ディスカッション</p> <p>山代 悟 松浦 高之 宇賀田 栄次 黒瀬 武史（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・助教） 一ノ瀬 彩（茨城大学工学部都市システム工学科・助教）</p> <p>司会： 柴 由花（常葉大学法学部・准教授）</p>
	関連企画	<p>「CitySwitch みなとふじ 2014 清水港日の出地区再生 日中韓国際ワークショップ成果発表会」</p> <p>山代 悟（ビルディングランドスケープ代表、大連理工大学客員教授） 東京電機大学</p>
10月12日	第二回 公開講座	<p>「学生による地域資源を活用したアートイベント『ミナトブンカサイ 2014』</p> <p>「地域資源としての清水港日の出地区 都市デザインから見たその可能性」 黒瀬 武史（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・助教）</p> <p>「近代産業遺産のコンバージョン 世界の活用事例」</p> <p>I 土屋 和男（常葉大学造形学部・准教授） II 徐 妍（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・博士課程）</p> <p>パネル・ディスカッション</p> <p>原 隆一（静岡県清水港管理局・局長） 志村 真紀（横浜国立大学地域実践教育研究センター・准教授） 黒瀬 武史</p> <p>司会： 土屋 和男</p>
	関連企画	<p>「ミナトブンカサイ 2014」</p> <p>常葉大学造形学部（ライブペイント）、常葉大学ダンス部・軽音楽部、東海大学ジャズ研究会、ゴスペルサークル、鈴与、Shizuoka20z、みなとふじ準備室、ハワイ食堂 Lea Lea、MAP CAFE シズオカ、似顔絵じょんじょん、他</p>

11月15日	第三回 公開講座	<p>「学生と地域資源としての文化・景観」</p> <p>「地域活性化と税のインセンティブーオランダの文化保護政策を例として」 シグリッド・ヘメルス（エラスムス大学法学部・教授） 通訳今川俊一（静岡市都市計画課）</p> <p>「世界文化遺産・三保と富士山の文化的価値 熱海市伊豆山及び房総半島からみて」鈴木 佐（千葉県県土整備部用地課）</p> <p>「静岡の地域資源とアクセシビリティ：オープンデータの活用」 大石 康晴（しずおかオープンデータ推進協議会事務局長）</p> <p>パネル・ディスカッション</p> <p>長谷川 孝（横浜市政策局担当理事） 関川 清明（御伝鷹まちづくり株式会社） 石川 裕之（静岡市総務局行政管理部情報管理課） 大石 康晴</p> <p>司会： 柴 由花</p>
11月6日	関連企画 成果発表	<p>「静岡鉄道沿線と北街道の地域資源」</p> <p>常葉大学造形学部・法学部 静岡市商業労政課・公共資産経営課・都市計画課、静岡市まちづくり公社、静岡鉄道、太田町商店会、名入れ川村、しずおかモビリティ研究会、似顔絵じょんじょん</p>
11月15日	関連企画 シンポジウム	<p>「自転車をまちづくりに活かす オープンデータを視野に入れて」</p> <p>基調講演</p> <p>長谷川 孝（横浜市政策局担当理事） 神保 正彦（株式会社シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部企画部次長） 大石 博之（静岡市都市局都市計画部交通政策課補佐兼企画係長）</p> <p>パネル・ディスカッション</p> <p>長谷川 孝 神保 正彦 大石 博之 大石 康晴</p> <p>司会： 柴 由花</p>
11月16日	<p>関連企画 「散走」</p> <p>「散走フォーラム」</p>	<p>「自転車で地域資源を探そう」</p> <p>しずおかモビリティ研究会、しみず蔵倶楽部 静岡県・静岡市交通政策課・公共資産経営課・都市計画課 常葉大学法学部・教育学部</p> <p>基調講演</p> <p>白石 博昭（LIFE CREATION SPACE OVE 中之島）</p>

地域資源を教育に活かす—地域資源×学生から生まれるもの—

常葉大学教育学部 渋谷 恵

1. 地域資源と教育学部

➤ 地域資源と学校教育

「総合的な学習の時間」における地域学習（cf. 資料1）

新学習指導要領（小学校 2011 年～）伝統や文化に関する教育の充実

➤ 地域資源と生涯学習

2008 年 中央教育審議会答申（cf. 資料2）

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」

2. 常葉大学・大学院における地域資源×学生—教育学部の活動を中心に—

➤ 特別研究・課題研究における地域資源の取り上げ・授業実践

（例）「地域教材を生かした総合的な学習の時間—小学校における「遠州七不思議」の教材化を事例として—」

地域学習→教員となって現場での実践へ

➤ 大学による学生の地域貢献活動支援

Do-ing プロジェクト

学生による独自プロジェクトの企画・立案、大学による活動資金の提供、教職員のサポート

2014 年採用プロジェクト

「ま・あ・る」と清水をつなげ隊、シビックプライド研究会-4、“iVamos！静岡のグローバル人間 2014”

万葉植物園活性化プロジェクト、サイエンスフェスティバル 2014、水落マッププロジェクト、がん患者・家族を支援するためのネットワークづくり

➤ サークル活動における取り組み

生涯学習活動研究会「たぬきの仲間たち」（展示資料参照）

静岡市柅沢地区の古民家を活用して、小学生を対象とする自然・文化体験活動の企画・運営

川根本町における夏合宿企画

地域の祭りへの参加、川遊び、地域探索、伝統芸能鑑賞、地元食づくり

→学生自身が発見した里山の魅力を小学生に伝える

➤ 生涯学習学科学生を中心にした街づくりへの取り組み

「東海道スイーツ」提案（第3回公開講座にて掲示ポスター参照）

3. 学生と地域資源としての文化・景観

➤ 学生の目を通した「発見」「気づき」→ 学生の学び、意欲の促進+関わる人の意識の変化

➤ 人との関わり、つながりから生まれる気づき

➤ 将来、地域を担う人材としての学生という視点（教員となって現場で実践、社会人として地域で活動）

資料1 総合的な学習の時間における「地域資源」の活用

小学校学習指導要領（2011年度から） 学年及び時間数 3、4、5、6年生 70時間（週2コマ分）

目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

指導における留意点（地域資源関連抜粋）

- ▶ 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。
- ▶ 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。例えば以下のようなものなどである。地域や学校、児童の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。
- ▶ グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。
- ▶ 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

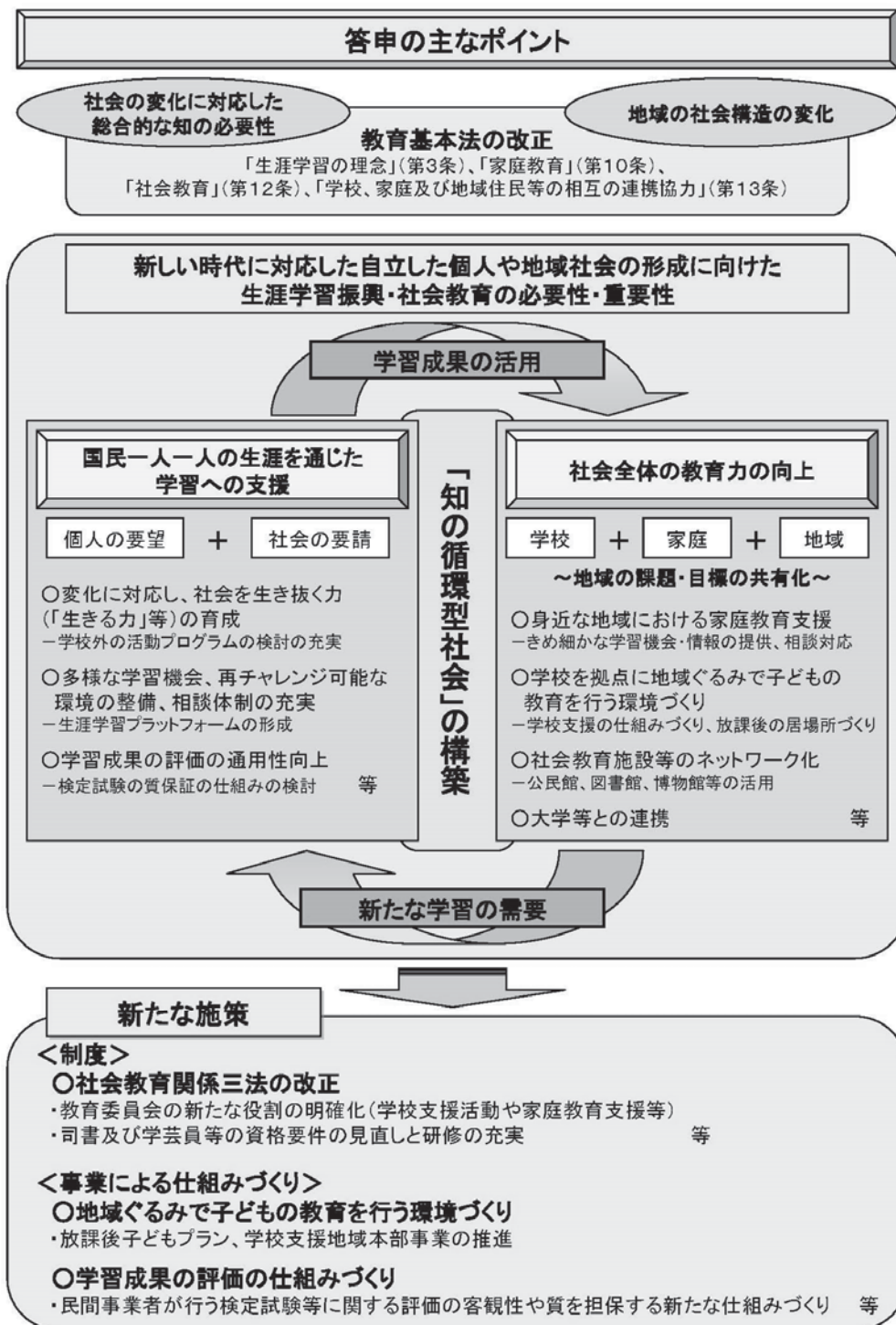
学校における課題の事例（「学習指導要領教師用解説」）

- ▶ 横断的・総合的な課題
 - ・ 地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観
 - ・ 身近な自然環境とそこに起きている環境問題
 - ・ 食をめぐる問題と地域の農業や生産者
- ▶ 児童の興味・関心に基づく課題
 - ・ 将来への展望とのかかわりで訪ねてみたい人や機関
 - ・ ものづくりの面白さや工夫と生活の発展
- ▶ 地域や学校の特色に応じた課題
 - ・ 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織
 - ・ 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々
 - ・ 商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会
 - ・ 防災のための安全な町づくりとその取組 など

→地域との関わりのなかで学ぶことの重要性

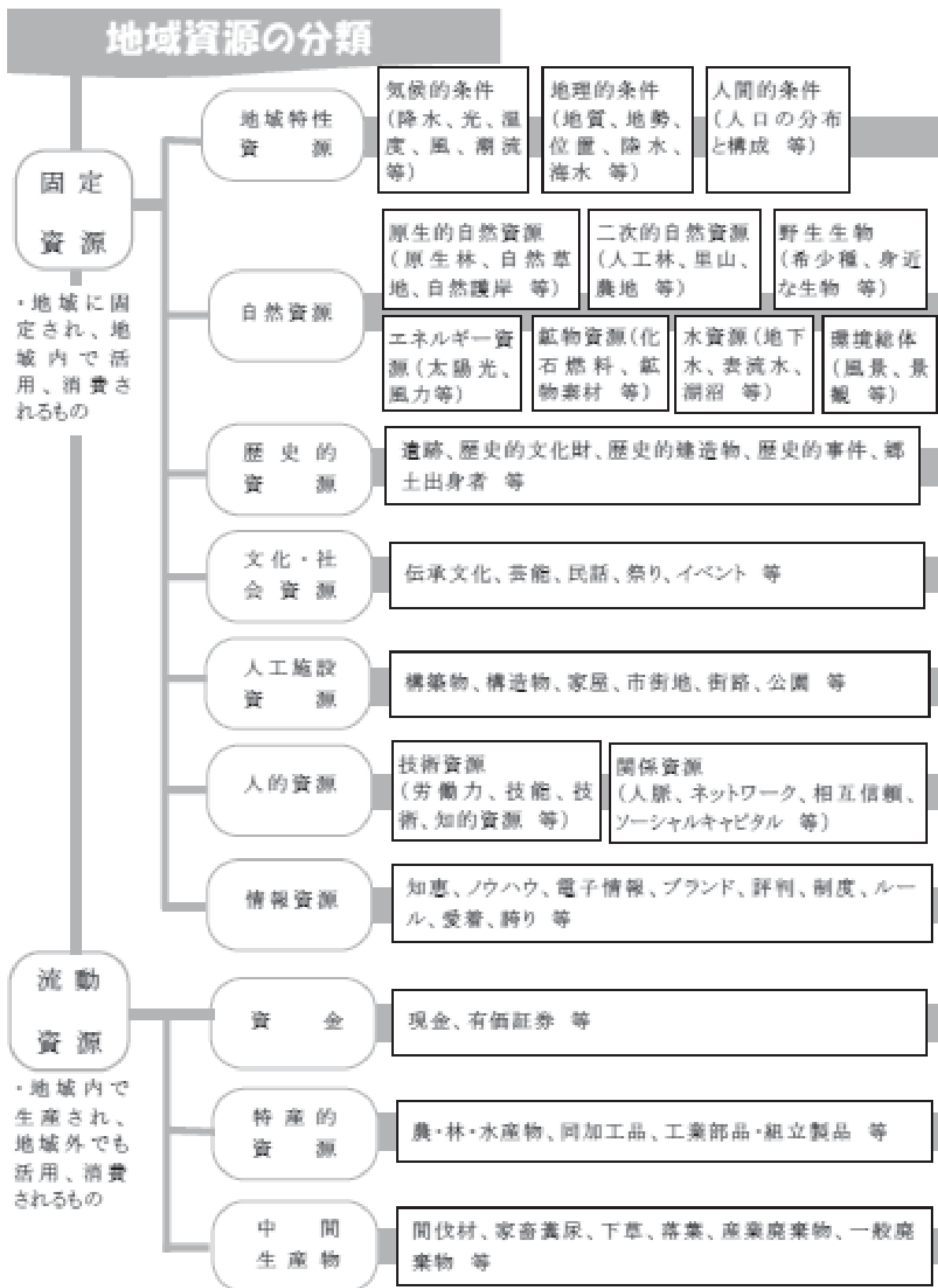
→教員自身が地域と関わり素材を発見・教材化

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」



中央教育審議会「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～（答申の概要）」、2008より転載。

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2010/03/01/1216827_1.pdf
 (2014年11月10日アクセス)



地域資源を活かした地域活性化策に関する調査研究会・財団法人 北海道市町村振興協会「地域資源を活かした地域活性化策に関する調査研究報告書」平成20年2月
<http://www.doshinko.or.jp/research/upload/201201301249772699.pdf#search=%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E8%B3%87%E6%BA%90%E3%81%A8%E3%81%AF> (2015年1月10日アクセス)

第一回公開講座

「学生による地域資源を活用したビジネスの可能性」（於：清水マリビル7階）

第1部は、「静岡・清水の中心市街地活性化の現況」について静岡市商業労政課松浦高之課長による「静岡・清水の中心市街地活性化の現況」報告の後、中国・大連理工大客員教授山代悟氏が「国際ワークショップCitySwichでまちのビジョンをつくる」と題し、島根県などで行ったワークショップや空き家を活用し、島根県出雲で観光客向けの情報発信の拠点をつくった活動などに関する講演を行った。

静岡大学特任教授宇賀田栄次氏は、「市街地・商店街活性と学生インターンシップ」と題した講演を行い、地域資源を活用した学生インターンシップの活動を紹介した。静岡市の「I Love しずおか協議会」で中心市街地活性化に取り組んだ学生を例についても報告。イベントの運営に関わり、社会への見識を深めたことが、学業の意欲向上にもつながったと分析した。

第2部は、「学生による地域資源を活用したビジネスの可能性」と題し、パネル・ディスカッションが行われた。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻の黒瀬武史助教が学生による喜多方の「蔵コロガシ」等の事例を、茨城大学一ノ瀬彩助教が「いばらきデザイン巡り」によるインターンシップの事例を紹介した。全国で行われた学生主体のまちづくりの事例を基に、静岡市での活動の可能性を話し合った。

会場からは、学生を地域の活動に誘導するための発火点は何かといった質問や、地域ボランティアの活動のヒントになった等の意見が出され、今後の地域の活性化に関して、活発な議論が行われた。

行政関係者や学生など約70人が参加した。

第一部 公開講座

1. 「静岡・清水の中心市街地活性化の現況」

松浦 高之（静岡市役所商業労政課・課長）

●中心市街地活性化基本計画

- ・都市計画法の改正（郊外の集客施設の制限）
- ・大店立地法（現法では、地元との合意形成は不要）
- ・中心市街地活性化法

→中心市街地の活性化を支援する制度が生まれた

- ・ドラッグストアのスーパーマーケット化。さらにコンビニの高機能化も進み始めた。

→コンビニの大型化とスーパーマーケットの小型化が同時に進んでいる。

例) ローソンストアやまいばすけっとの展開

●静岡市全体の状況

- ・事業所数は3割減少
- ・退店の理由は、後継者不足や商店街の活気のなさ。

空き店舗の減らない理由は、所有者に貸す意思がないという課題も。お店の構造が住居と一体になっている場合もあり、貸しづらい。一般論としては、郊外に大規模店舗、個店が厳しい。

- ・中心市街地活性化はなぜ必要か

まちの顔は、都心部であり、市民のアイデンティティ。法律の概念で言うと、都心強化の理由は、高齢化が進むなかでコンパクトなまちづくりを目指すということ。市街地整備（再開発事業等）、都市福利施設、居住環境の整備、商業の活性化の4つを柱の事業として、行政が計画をつくると補助がでるようになっている。

●清水区の現状

清水区の歩行者通行量は、H3からH18にかけて72%減少。

H9からH16で、年間小売販売額は、56%、商店数は32%減少

●中心市街地活性化へ向けた主な実施事業

【ハード面】都市機能向上：マリナートオープン、清水駅前ロータリーの整備
(静岡では美術館を葵タワーに持ってきたが、清水では市民文化会館を移設した)

- ・大店立地法の緩和（河岸の市とえじりあを対象に緩和）
- ・まちなか居住（再開発事業・都心マンションの建設）

【ソフト面】

- ・「ま・あ・る」（こどもクリエイティブタウン整備事業）の設置
- ・イベントの開催：七夕まつり等に加えて、コスプレ大会も。
- ・地元のキャラクターを活かした活動も進めている
→七夕祭りのときは、「ちびまるこちゃん」の縁日会場も作った。

●その結果・・・

- ・人口減少の度合いは依然よりも下げ止まる。
- ・国から高い目標数値を持ってくるように言われるらしい。
- ・観光交流客数、震災があったH23が最低であったが、最近に戻ってきている
- ・歩行者通行量：H22～H24はイベントがあるときに計測した値である。イベントをやると人数が増えるということがわかった。これからさらにどのような対策や仕掛けをつくるかが今後の課題である。

●まちに求められていることは何か？「モノからコトへ」

- ① まちの「女性化」・・・女性に愛されるまちでないと、まちに足を運んでもらえない。

(女性化の例 エステサロンや美容院など)

- ② コミュニティ・・・商店主とお客の仲が良い。
- ③ 観光・・・港や三保松原、久能山との連携（清水の特徴）

●静岡都心の状況・・・「中心市街地活性化」への取り組み

【ハード面】葵タワー、呉服町タワー、セノバ等の建設

【ソフト面】イベント：大道芸ワールドカップの開催

- ・現状

<歩行者通行量から>

- ・美術館の存在・・・予想数の約二倍（ロビーへの入場者数38万人）
→まちの仕掛けとしてはうまくいっている

2. 「CitySwitch でまちのビジョンをつくる」

山代悟（ビルディングランドスケープ代表、大連理工大学客員教授）

●まちづくりと教育をどうつなげるか？

- ・自分の仕事に関して：実務として、はとばキッチン設計「港の見えるレストラン」

- ・DIY アーバニズムについて

公共のサービスが足りなければ自分たちでつくる。

- ・学生アイデア：一瞬で本質を見抜いている
→実際の場面に、何か生かせないか。

●出雲での活動 「CitySwitch」の始まり

- ・ジョアン・ジャコビッチ女史（オーストラリア）との出会い

これからは地方都市にこそ問題が生じる：大都市でないところと海外の都市の知恵の交換

主旨：市民と学生と一緒に学ぶまちづくり

- ・出雲大社参道の町屋の改修

まちの人との会話から始まる。

模型作りや設計のみならず、「価値の共有を体験を通じて行う、伝えるという」ことについての教育。

- ・「おもてなしステーション」での市民との共同作業。（若者から子供まで）

●インドネシア・バンダアチェでの活動

- ・カフェ空間の提案・プランニング

- ・ジョアン・ジャコビッチ女史、インドネシア現地大学教授との共同

・出雲プロジェクトに参加したインドネシア学生も「CitySwitchの活動を自国でもやりたい」→過去に津波被害の経験

- ・オーストラリア、インドネシアの学生の共同

●「CitySwitch みなとふじ2012」と「CitySwitch みなとふじ2014」

2012：清水港の湾をめぐるネットワーク（日本・オーストラリア）

ドリームプラザエリアから三保エリアまで

2014：防潮堤や地域資源をとりこんだ港周辺のアクティビティ（日本・中国・韓国）

- ・みなと周辺のまちあるき／アイスブレイク・コミュニケーション／提案

●出雲での活動

- ・空き家の利活用

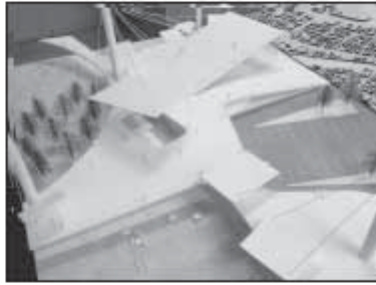
- ・指導した学生が出雲へ移住：出店、実践者へ（セルフビルドでの改築作業）

→一年間の議論と工事で2月にリフォーム完了。

立地が悪いものの、「わざわざ足を運ぶ場所」へ変容

●ひとりからはじめるまちづくり

- ・議論ばかりするのではなく、手が出る実践から。
- ・地域に寄り添う専門家の必要性
- ・「もののDIY」と「ことのDIY」



D.I.Y. Urbanism
 -短期集中ワークショップ
 -大学のスタジオでの発展
 -現地関係者との議論
 -そして実現へ

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 ひとりから始めるまちづくり

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 合意形成 から
 トライアンドエラー へ

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 コンサルティング から
 ファシリテーション へ

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 ものD.I.Y.
 ことのD.I.Y.

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 自分の課題を
 自分で解決できるひとを育てる

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 学生、そこから訪れた人々は
 一瞬で本質を見抜く

D.I.Y. Urbanism
 :::Built your own city-life:::
 あとは大人が頑張る、
 それだけです、。

3. 「市街地・商店街活性と学生インターンシップ」

宇賀田 栄次 (静岡大学学生支援センター・特任教授)

●インターンシップ推進の背景

- ・フリーターの増加、雇用のミスマッチ、大学全入時代→大学教育の質の問題
- ・就活解禁時期の後ろ倒し→就活解禁日前に優秀な人材に接触したい。(企業側の希望)

⇒インターンシップの存在：就業体験として学生と接触。

- ・一方で、「インターンシップ」の定義や概念のゆらぎも

●「I love しずおか 協議会」の取り組み

- ・ボランティアではなく、インターンシップとしてまちなかに学生を巻き込む。
- ・毎週社会人と共に会議を行いながら、イベントへ向けて活動する。
- ・なぜインターンシップなのか？：当事者意識を持たせた活動へ。
- ・新たな価値の見出しに関しては、普段関わっている大人だけでは弱い。

→普段とは違う流れを作り出すための、学生の存在。

・サマーインターン振り返り調査の結果：地域資源の大切さは感じているが、実際にこの期間に見つけ出すことまでは難しかった。しかし、「地域にもっと関わりたい」「地域をもっと知りたい」という気持ちの芽生えは伺える。→意欲を持った学生をどう成長させるかが、大学の課題。

行政・商店街連携 インターンシップ

平成26年度夏季静岡大学で実施。5名参加。インターンシップを通して、「行政」「商店街」「個店」それぞれの立場から「商店街活性」という課題について考え、提言をまとめるプログラム。

行政側からのレクチャ、商店街見学、個店での実習、商店街イベント(夜店市)実習

協力先: 静岡市商業労政課、鷹匠一丁目商業発展会

静岡市商業労政課・鷹匠一丁目商業発展会との連携インターンシップ

キキ商店街連携 インターンシップ

応募 (7月4日締切)	応募用紙を就職支援課へ提出 (用紙は就職支援課(共通A棟3階)にあります)※参加費0円	学生の皆さん、こんにちは。 鷹匠一丁目商業発展会の杉山です。 私たちの商店街では、8月23日(土)に開催する夜店市にたくさんの皆さんに足を運んでもらえるよう、学生の皆さんの知見や力を借りたいと考え、静岡市商業労政課と静岡大学の協力を得て今年初めてインターンシップを企画しました。 数力のある下記の5つの店舗が就業体験先になります。 皆さんの笑顔と柔軟な発想で商店街を盛り上げてほしいと思っております。ご応募お待ちしております。
事前学習 (8月上旬)	静岡市商業労政課による商店街の現状と課題について学習 / 商店街・店舗見学	 (有)菓料製菓杉山園 杉山啓雄
就業体験 (8月中旬)	5つの店舗に1名ずつ担当し、店舗や商品の特徴を理解、「夜店市」に向けた準備	
夜店市参加 (8月23日)	夜店市当日、担当した店舗の出店スペースの設営準備から販売までの業務を補助	
事後学習 (8月下旬)	行政・商店主と交え、商店街活性化に関する提案をまとめます	


 西洋食業PaPa
(ニッポンパスタ)


 グッドキング
(オジジ&レイ)


 87's Baker's
(パンケーキ)


 ショクラファン
(ケーキ・洋菓子)


 フロー45
(生花)

ご相談・お問い合わせは 学生支援センター 宇賀田 ougata@ipc.shizuoka.ac.jp まで

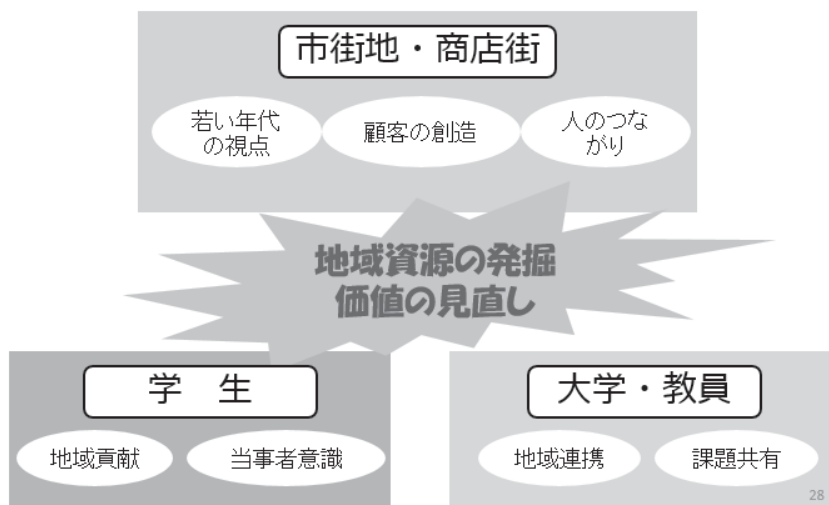
行政の支援	商店街の現状	個店の現状
<ul style="list-style-type: none"> ○静岡市は全国的に見れば「元気」 ○買い物は「女性化」している ○「ゾーニング」が厳しい地域 ○各商店街に対して担当職員を配置 ○熱意を持って支援している印象 ○後継者問題などの共有が図られている ○すべての商店街の現状を把握できない 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型店との共存 ○周辺商店街との交流も図っている ○アーケードなどの維持費用もかかる ○店主の高齢化、後継者問題 ○「朝市」の開催 ○地域に愛されている印象 ○「鷹匠」=おしゃれ のブランド ○商店街としての情報共有意識が薄い 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力的な店主、商品、サービス ○常連客などの強い結びつき ○良品質、安心感、信頼性の高さ ○自由性が高くお客様の要望に応えやすい ○外から商品やサービス、価格が見えにくく、新規客は入りにくい ○発信力の弱さ ○地域に対する思いのバラツキ

学生からの提言

- 周辺の教育施設(幼稚園～大学)との結びつきを強める(月ごとの「作品展示」など)
- 「朝市」や「夜店市」などから新規客への誘導(家族連れ対象の朝市メニュー、休憩・食事場所として開放)
- 中学生の職場体験を商店街で積極受け入れ
- 季節ごとにターゲット客を想定したメニューづくり
- 大型店や周辺商店街との積極連携
- 行政による積極広報

27

学生インターンシップ＝地域活性



28



第二部 パネル・ディスカッション

話題提供①：黒瀬武史

●地域資源を持続的に活用するための場づくり

- ・福島県喜多方の事例「蔵コロガシ」

まちづくり寄り合い所：週に2～3回、宴会を開催

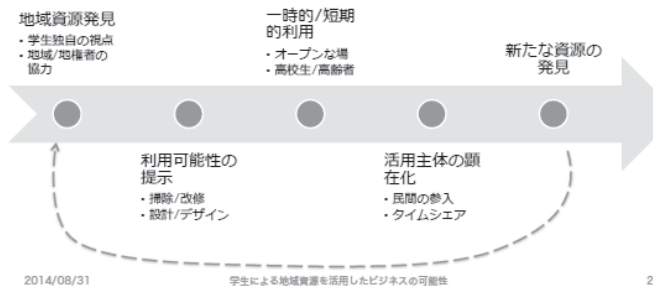
→初代まちづくり寄り合い：カフェ開業へ

- ・千葉県佐原市「さわらぼ」

地元高校生との共同

話題提供：地域資源活用における学生の力

- ・地域資源を持続的に活用する第一段階を担う
 - 蔵コロガシ：福島県 喜多方
 - さわらぼ：千葉県 佐原



初代まちづくり寄り合い所の場所でカフェ開業



二代目 まちづくり寄り合い所を掃除・引越



話題提供②：一ノ瀬彩

●茨城県での事例「いばらきデザインセレクション」

- ・茨城の優れたデザインを選定、企業や地域のPR活動
- ・小冊子の作成→さらに発展として運営に関して学生インターンを募集。
- ・このような活動を通じて、県内の企業へそのまま就職へ。
- ・県内の企業へ目を向ける学生が増えてきた。

プロモーション活動「いばらきデザインセレクション」を活用した2タイプのインターンシップ事例紹介

●「いばらきデザインセレクション」・「いばらきデザインフェア」運営補助

- ・茨城県の優れたデザインを選定・PR 2005～
- ・茨城県の産業イメージや地域イメージ向上、中小企業支援

インターンシップ受入方法

- ・県庁で2名募集 2011～
- ・夏期2週間受入

インターンシップの取組み

- ・応募促進にむけた企業調査
- ・審査会準備、応募企業との調整
- ・審査会の運営補助
- ・カタログ編集、撮影補助
- ・フェアや交流会の運営補助

- ・公務員志望(庁内でも倍率高い)
- ・県内外の大学生が参加
- ・県内のデザインマインドが高い企業のリサーチ
- ・県内企業・行政への就職



「いばらきデザインセレクションカタログ」毎年選定されたモノやコトを紹介する小冊子



「いばらきデザインフェア」いばらきデザインにスポットをあてた展覧会 東京・茨城で開催

●「いばらきデザイン巡り」デザイン巡り隊の活動

- ・モノづくりの背景を魅せる
- ・いばらきデザインをライフスタイルに取り入れる仕組みづくり

インターンシップ受入方法

- ・デザインセンターで募集
- ・長期フレックス受入

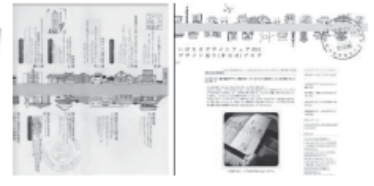
インターンシップの取組み

- ・デザイン巡り企画・実施
- ・デザイン巡り広報活動

- ・デザイン系志望
- ・県内の大学生が参加
- ・県内のデザインマインドが高い企業との交流
- ・県内企業への就職希望増加



デザイン巡り年印帳



選定されたスポットを巡るためのHP運営



選定されたスポットを巡るルート作成、企業との調整、現地レポート



パネル・ディスカッション

【パネリスト】

山代 悟 / 松浦 高之 / 宇賀田 栄次

黒瀬 武史 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・助教)

一ノ瀬 彩 (茨城大学工学部都市システム工学科・助教)

司会： 柴 由花 (常葉大学法学部・准教授)

【コメント 柴由花】

- 行政による仕掛け、行政により支援。
 - ・平成19年度ごろから補助金の交付
 - ・静岡県：地域資源のリストの作成、ビジネスの仕掛け・発掘へ。
- 体制は整えつつも、これらを活用するきっかけや人員が重要。

【コメント 山代悟】

- 専門化から多能化へ
 - ・ひとつの知識や経験のみでは「食っていけない」状況

- ・「学生」であるだけでなく、社会人と学生が連続したような学生像へ。
 - ・一人の人間がたくさんの名詞を持って、たくさんの人格・要素が必要な時代ではないか？
- これを発掘する場としての地域の学びや活動

【コメント 宇賀田栄次】

●インターンシップや地域活動の意味

- ・大人だけではなく、学生（大学生・高校生）が混ざったコミュニティ成立のきっかけに。新しいコミュニケーションを築いていくことで、新たな価値を発見できるのではないか。
- ・若い人を使っていくだけの、度量や技量を大人が持たなければならない。
- ・静岡のようなコンパクトなまちなら実現できるのではないだろうか。

【コメント 松浦高之】

●まちを元気にさせるためには、「若者・馬鹿者・よそ者」が重要

- ・学生はまさにこの3つである。
- ・商店街に人を戻すには？：消費行動の改善（スーパーではなく、個人商店へ）
- ・課として推進していること、学生のインターンシップの推進

<フロアから>

【常葉大学 渋谷】

・10代後半から20代全体の学生だけではなく、「学ぶ意欲を持っている人」に対して学びや知の循環を考える。

- ・まちづくりと学びはさまざまな場面で関わっていけないのではないか。
- ・「さまざまな世代のかかわりをつくる」発火点とは？

→返答：黒瀬

・地域資源に関して：学生から見て「昔はここはよかったんだよー」だけでは大人の昔ばなしに過ぎない。具体的な写真や細かな語りがあれば、地域資源への可能性を見いだせる。

大人についても、「この子達に教えてあげないといけないな」という感覚を持つように。

- ・古い写真展のようなものはその場で終わってしまうが、その後をどうつなげていくかが重要。

→返答：一ノ瀬

・地方都市であっても、「おもしろい大人と会える」ということがあれば、学生にとっては刺激が見いだせる。大都市にでかけなくても、地方内での刺激や人との出会いが重要ではないか。

【常葉大学 土屋】

- ・空き店舗に関して、所有者に貸す意思がない原因はなにか。

→返答：松浦

- ・自分の住居内に他者が入ってくるのを好まない。
店舗となると、水回りの設備などは住居用と別に増設しなければならない。
- ・所有者：貸さなくても生活できる程度の金銭的余裕。

→返答：柴

- ・住まいだけなら固定資産税が安いという金銭的な理由もある。

【市民（75歳・男性）】

- ・イベント時（港まつりや七夕まつり）は若者もいっぱい来るのだが、普段はいったいどこに？不思議。
- ・ハードやイベントは一過性なのではないか。これのみにまちづくりを担わせるのはよくない。他の要素が必要な気がする。
- ・今回の公開講座はさまざまなアイデアを頂いた。ボランティア活動をやっているので今後参考にしたい。
- ・地域づくりは「おばあちゃん」がキーワード。ばあちゃんカフェでも夕食会でも。まちのなかには「ばあちゃん」の存在が重要ではないか。
- ・「活性化」の意味とは？活性化ということばが横行しすぎているが、内実がわかりにくい。

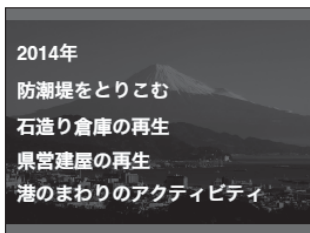
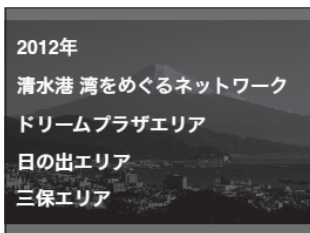


関連企画

「CitySwitch みなとふじ 2014 清水港日の出地区再生 日中韓国際ワークショップ成果発表会」

日の出埠頭の将来像のデザインについて東京電機大学の学生による発表

日中韓の学生が清水港の日の出エリアの再生をめぐって4日間のワークショップを行い、それをもとにそれぞれの大学のスタジオで提案をブラッシュアップし、発表。



第二回公開講座

「学生による地域資源を活用したアートイベント『ミナトブンカサイ 2014』」（於：清水日の出地区）

ふじのくに地域・大学コンソーシアム、静岡県（清水港管理局）、静岡市（都市計画課、清水港振興課、清水駅周辺整備課、商業労政課、まちづくり公社）と連携し静岡市清水区の日の出地区にて共同公開講座を開催した。

会場は倉庫街の特設会場。「地域資源としての清水港日の出地区 都市デザインから見たその可能性」、「近代産業遺産のコンバージョン 世界の活用事例」について講演が行われた後、パネルディスカッション・質疑応答が行われた。

行政、市民、学生など約 70 人が、メモを取りながら、倉庫街の活用のあり方に熱心に耳を傾けていた。

第一部 公開講座

1. 「地域資源としての清水港日の出地区 都市デザインから見たその可能性」

黒瀬 武史（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・助教）

●日の出埠頭の歴史

- ・江戸時代の清水は、巴川河口の川湊として栄えていた。現在の港橋付近、清水町・本町が、港の中心。
→日の出埠頭は、その頃は向島と呼ばれていた。
- ・明治時代に入り、外洋に面した港を築造することを決め、民間の力で最初の波止場を完成。明治 32 年には、外国との直接貿易が可能な開港場に指定され、茶の輸出で清水港は徐々に成長してゆく。
→現在の静岡鉄道も最初は静岡市内から波止場までお茶を輸送するために建設された。
- ・第一次修築工事が完了した大正初期。
→ドリームプラザ前の船溜が新たに設けられ、浚渫土を利用して J オイルミルズの土地が埋め立てられる。
- ・第二次修築工事・・・大正 10 年から昭和 13 年まで 15 年以上かけて行なわれた大工事。
→この事業のポイントは、それまで沖合に停泊して舳を使って波止場まで荷物を運ぶかたちから、大型船が岸壁に接岸して荷降ろしを行うスタイルへの転換。
→船から降ろした荷物を直接上屋に保管し、鉄道や道路でスムーズに陸上輸送へつなぐ計画思想。
→もう一つのポイントは、埋立てにより上屋の陸側に民間用の倉庫用地と臨港道路を合わせて計画した点である。この民間向けの倉庫用地に建設されたのが、ミナトブンカサイの会場でもあるこの砂糖保税倉庫である。

●倉庫が作られた背景

- ・倉庫が計画されたのは、昭和初期の世界恐慌の最中であり、当時の鈴与商店は新たな取扱貨物を検討。その中で当時の若手社員が着目したのが、台湾産の砂糖と米であった。

→鈴与は、政府に掛け合い早々に砂糖移入場指定を受け、砂糖の輸入を開始。台湾製糖会社は保管料の支払いを約束、倉庫単体で収益をあげることが可能になったことも画期的だった。これにより、倉庫の建物にきちんとした投資を行うことが可能となる。

・倉庫材料として伊豆石の使用

→砂糖は温度変化や湿気を嫌うため、防火性能・防湿性能を備えた伊豆石が使われた理由なのではないかと推測される。本町周辺にも多くの伊豆石の蔵が残っており、当時清水において倉庫に伊豆石を使うことは、極めて自然な選択だったと見られる。

→石造倉庫群は、近代的な倉庫と蔵のちょうど中間に位置する存在とも考えられる。

●第二次大戦後から現在へ

・対戦によって清水の中心市街地のほぼ全域が焼失し、日の出埠頭も北側はほぼ完全に焼失した。しかし砂糖保税倉庫は、運良く焼け残る。戦後に再建された倉庫もその多くは、戦前とほぼ同じスタイルを踏襲しており、三角屋根が道路の両脇に立ち並ぶ日の出埠頭の特徴的な風景が形作られる。

→倉庫は現在まで戦前からほとんど姿を変えていない埠頭内の道路や貨物線の跡地も残っている。日の出埠頭は、明治から戦前まで、清水港が大きく発展した時代の港の中心であり、最先端であった。

・現在も倉庫群は使われ続けている。

→使われなくなった空間は美しく保存しても、やはり空間として生きた感覚を失っていく。しかし、日の出埠頭倉庫群は現役の物流倉庫として使われ続けていたからこそ、この倉庫群の生きた魅力が伝わってくるのではないだろうか。

2. 「近代産業遺産のコンバージョン 世界の活用事例」

I 土屋 和男 (常葉大学造形学部・准教授)

●日の出埠頭倉庫群の建築的特徴について

・木骨石張り、平屋建て、瓦葺きの倉庫は、昭和8年頃から昭和20年代にかけて逐次的に建設されたと見られる。

・この「石造倉庫」は、建築構造的には鉄筋コンクリート造の基礎の上に木造の骨組みをつくり、その外側に切石を張ったものであり、基本構造は木造。石が張られることによって横方向のひずみを止めている。

・伊豆石の使用・・・石は凝灰岩の切石で、伊豆から運ばれてきたものと思われる。

→石を木骨に張る蔵は、幕末から明治期を中心に、駿河湾、遠州灘の沿岸および河川流域に相当数がつくられたと見られるが、日の出埠頭の倉庫群は最大の事例。

・外装材に凝灰岩を用いるのは、防火性能を期待してのことであるが、平瓦やしっくいを用いる土蔵に比べ、工程が少ないので速くでき、同形の規格材を用いるので大面積の施工も容易であることが利点。

・倉庫群は、港湾機能の近代化に伴って建設された。前面の12m道路に駐車したトラックから、荷を台車ごと引き入れることのできる幅の広い引き分けの鉄扉を備えている。

・内部も近代的な大量物流に対応し、できるだけ障害物となる柱が少なく、室内も高い大空間が設計されている。

・このような将来を見据えた設計によって、これらの倉庫群はその後の変化にも対応し、現在でも、内

にそのままフォークリフトが乗り入れて荷下ろしを行っている。

→きわめて機能に特化した建築物であるにもかかわらず、80年以上の長きにわたってほとんど形を変えることなく使い続けられてきたことから、当初の計画の先見性が伺える。

●近代産業遺産の再生・活用

・現在、低成長、縮小時代を迎え、建築ストックの有効活用を各地で模索。

→建築を改修する「リノベーション」、用途転用を計る「コンバージョン」は、近代化を通過した国の共通の課題。

・先進地のヨーロッパにおいても、港湾、発電所、工場のような、近代化に伴って建設された大規模施設のコンバージョンは、比較的近年のこと。これらは当初は都市郊外に置かれていたが、建設以後の都市の拡大、産業の変化にしたがって、次第にその位置付けを変えてきた。

→例えばイタリア、ジェノバの港湾地区(1995)、トリノのフィアット自動車工場・リンゴット(2002)、そしてロンドンのテムズ河畔の火力発電所を現代美術館に変えたテート・モダン(2000)など。いずれも近代化遺産として建築物が改修され、新たな機能を与えられるとともに、まとまった敷地をもった、新たな都市形成の核として計画された。

→これらは近代という時代を伝える歴史的な存在であるとともに、より広域な都市計画と一体となって今後の都市の発展の拠点となる場所となる。

・リノベーション、コンバージョンは、建築物の長寿命化であり、経済的にも有利な点がある。だが、新築では決して得られない不思議な光景が生まれること、古びた材料や遺物が新しい空間に独特の価値を与えることこそが魅力。

→この魅力に、昔を懐かしむ世代よりも、むしろ若い人が気づき始めている。

II 徐 妍 (シュウ ヤン) (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・博士課程)

●中国の産業遺産の活用について

・中国の産業遺産の活用も最近始まった。1990年代後半、中国の産業構造は大規模に転換し、この期間古い工場などを再利用する方法について議論された。

→産業遺産の保存と活用についてのシステムはまだないが、実際の事例はたくさんある。

・上海：早期に行われた産業遺産活用の代表

・2006年、中国の産業遺産保存のため、国家文物局“無錫の提案”が公布。上海、北京などは市の政策として産業遺産の再利用をサポート。その後、より積極的な活用が行われる。

・活用の種類は、オフィス、美術館、商業施設などいろいろな形態として使用。産業遺産エリアに関しては、中国で非常に人気がある創造産業パークに加えて、都市のオープンスペースへの変換もよく見られる。

●中国の事例紹介 1 広東の造船所跡地公園

・この公園は、工業用地から都市オープンスペースに変換された。

・広東省の造船所は、地元の小規模な造船所で、1953年に設立したが、1999年に破産。2001年、公共のレクリエーション活動のために、総合的な都市のオープンスペースとなる。→煙突などの工業美的な

特徴を残しながら、もともとこの土地の植生であるガジュマルの木を使用するなど、自然を取り入れたリノベーション。

●中国の事例紹介 2 蘇州河エリア

- ・上海の水運における蘇州河の利用は 1930 年ごろから始まり、多くの物流倉庫が建設されると同時に人口も大幅に増加した。しかし、1980～1990 年代に、この地域の倉庫は次第に放棄され、環境汚染が深刻な問題となる。
- ・1990 年代、台湾の建築家が、会社をこの地域に設立。周辺環境の向上と産業遺産保存のためのアピールを行う。その後、アーティストが徐々に蘇州河地区に住み始める。
- ・上海市政府は、この地域を上海現代建築文化の保存地域に指定し、積極的に活用を推進。

●中国の事例紹介 3 798

- ・中国で最も有名な産業遺産活用の事例。ユニークなスタイルのバウハウス・アーキテクチャや最先端のアートイベントがあり、毎年多数の観光客が訪れている。
 - ・798 の統計によると、2011 年に、各種展示会、パフォーマンス、ファッション、出版など、総数 2000 以上の文化芸術活動が開催される。30%以上の外国人観光客を含め、200 万人以上の観光客が訪問。
 - ・798 は、1950 年代ソビエト連邦の援助として、東ドイツが設計・施工を担当していた工場であった。1980 年代から、工場の活動は徐々に低下しました。2002 年以降、低い賃貸料のために、北京外から多くの芸術家や現代美術機関が集まるようになり、コミュニティ・アートや現代美術などを含めた 798 を形成。工場跡のスペースに応じて、異なる機能を導入して、長期および短期のレンタルを可能としている。現在はアートスペース、ファッション通販、バー、レストラン、オフィスなどの利用
 - ・上海蘇州河の事例ではそれぞれのアーティストによる倉庫活用が別々に形成されていた。賃借人がそれぞれリース・メンテナンスをしており、統一された管理はない。
- しかし、798 は、併設されている工場の部門が管理し、現在は北京市の管理部門が管理している。

●中国政府の対応

- ・こうした成功事例に触発され、2006 年から中国政府は政策支援を提供。
- 工場や他の工業団地から創造産業に転換することが多くなる。
- ・工場を所有する会社も、工場の土地の利用に対する態度を変え始めた。
- 創造産業は上海蘇州河のような自発成長型から、北京の 798 のような全体的なブランドタイプに転換していった。一つの会社の管理のもと、テナントとして業種の割合が調整され、周辺環境が整備されるようになる。

第二部 パネル・ディスカッション

【パネリスト】

原 隆一（静岡県清水港管理局・局長）

志村 真紀（横浜国立大学地域実践教育研究センター・准教授）

黒瀬 武史

司会： 土屋 和男

●志村

- ・ 高校生まで清水区で過ごすのが、立ち入らない。
- 倉庫があることすら知られていない、日の出地区のエリアは一般の人が立ち入るような場所ではなかった。
- ・ 通学範囲内だったが、立ち入ることはなかった。白紙地帯。
三保までは、マリンロードよりも一本西側の道路を走る。
- ・ 「なぜ港が見えるような清水ではなかったのだろうか？」
港付近は工業エリアになっていて、市民が海に接することがほとんどない。
- ・ 折戸湾は夕暮れの時間にレインボーカラーに染まる。夕日も「光の道」と言われ、
レインボーカラーと光の道を見てしまったら三保から離れられない。
→ そのようなことも清水市民には知られていないのはもったいないこと。
- ・ 日の出埠頭だけをフューチャーせず、全体と協調するような形でまちづくりを。
安全な道、きれいな海、きれいな富士山を見ながら、通勤、通学できるような海沿いエリア。
- ・ 工業開発が始まって 100 年たって、今こそ水辺に近づける瞬間になったのではないか。

●原

- ・ 港湾計画では、日の出の地区は賑わいを創出しようというエリア設定。
→ 最近では、客船の入港もある。26 年度は 14 艘。今後は、ダイヤモンドプリンセスという巨大客船も来航。できるだけ大きな船に来てもらいたい。
- ・ SOLAS フェンスの問題。にぎわいづくりの時の妨げに。
→ 外国からの物流を新興津ターミナルの方へ移行するのがよいか。
- ・ 倉庫については、現在も使われており、利用はまだ先。
→ しかし、日の出が国内貨物だけになると使用頻度は落ちるのではないか。
空きがでたら、活用の可能性がある。
- ・ しかし、いざ活用となった時に、維持管理して使用するのか、取り壊すのか。
現在のドリームプラザ前のテルファークレーンもつぶすか、残すか、議論があった。
→ 結果、県がお金をかけて残そうと腹をくくった。
- ・ 倉庫街に関しても、誰が維持管理をするのか、そろそろ議論を始める必要があるのではないか。保存のためには改修費や維持管理費等のコストについての議論が重要である。

●黒瀬

・倉庫街は以前から映画の撮影に使われていた。

→少し前の港の風景というのは、あまり残っていない。ワクワクする雰囲気。

・コスプレの撮影会で使うのもこの倉庫街あたり。「誰かが写真をとりたい場所はなかなか作れないのではないかな」

・しかし、企業も行政もいきなり全部管理は難しい。市民の声が必要。

日の出地区に関心のある市仲間をふやすのが、ミナトブンカサイ開催のきっかけ、目標。

税金を投入するには、「日の出地区をそのまま残したい」と思う市民が多くいれば可能か。

ディスカッション

【土屋】

・若い人たちがこの場所の魅力が気づくことが重要ではないか？

【志村】

・「まずは中が見たい」という感覚。

→ボリュームが大きいので使用には、スタジオや芸術活動の場という可能性があるのではないかな。

→これまで倉庫として使っていたので、他の用途で使うには、改修の必要があるかも。

→大きな空間が何棟もあるので、それをどうやって埋めるか。

・ポートランドの事例「パールディストリクト」：港の倉庫、アートカレッジとしての利用

→アトリエとして使用、卒業後も卒業が寄り付く。コーヒーショップやバーなどの居場所もある。物流との混在は、デッキにより、歩行者と高さの分離。

【原】

・今、港に必要だと思っているのは、「音楽」ではないか？

・ドリームプラザの前でジャズフェスティバルを現在やっている。

→しかし、一日限りではなく、もっと気楽に音楽に親しめるとよい。

・ニューオーリンズ：古い小屋でジャズをやっている。飲みながら歩ける。

●フロアから質疑応答

【男性】

・今日一番印象的なセリフ「七色の折戸湾」

ここの場所のポテンシャルはきっとあるのではないかな。

→清水の魅力の情報発信をもっとやっていくのが必要では。

【伊藤 光造 理事 NPO法人 地域づくりサポートネット】

・次郎長生家の管理を行っている。

港：廻船業→清水の歴史をストーリー化して発信するのがよいのではないかな。

・この場所：アウトレットモールになりそうな雰囲気でもあるが、それではなく、学生や行政、企業いろいろがまじりあって関わる場所がいいのではないかな？いろいろな人が関わる場所は世界でもまだまだ少ない。

【男性】

・生まれも育ちも清水であるが、現在東京。

清水のポテンシャルはもともとあるが、それを生かすことができないまちだと思う。

多くの人が港の再開発を考えるが、他の港へ行ってしまう。

→バイタリティ溢れる学生や若者を歓迎する体制を作りあげることが大切。

・今後も地方の生き残りにかんしては、競争にさらされていくので、受け入れる側がどう受け止めていくかが大事。



●総括（黒瀬）

・「使い続ける努力」＝使い手が途切れないようにする努力が大切ではないか。

賑わいではなく、現在の物流として使いつづけてもよい。つかってみたいと思う人が使えたり、アクセスできるプラットフォームがまだ整備はされていない。

→発信やコンタクト先のプラットフォーム形成が重要。

（終了後、東京大学学生による日の出埠頭歴史解説ツアーを実施）



関連企画

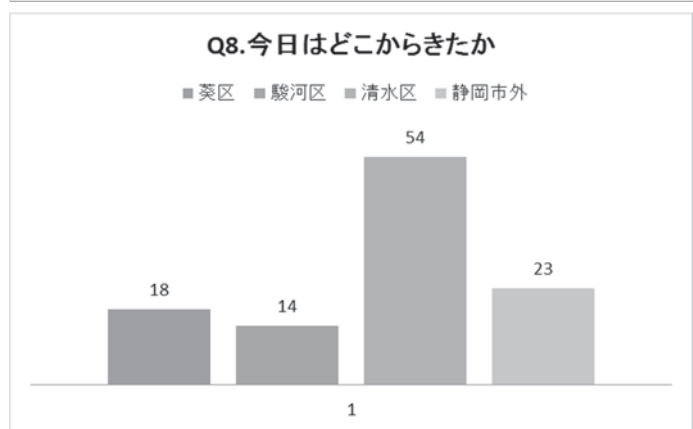
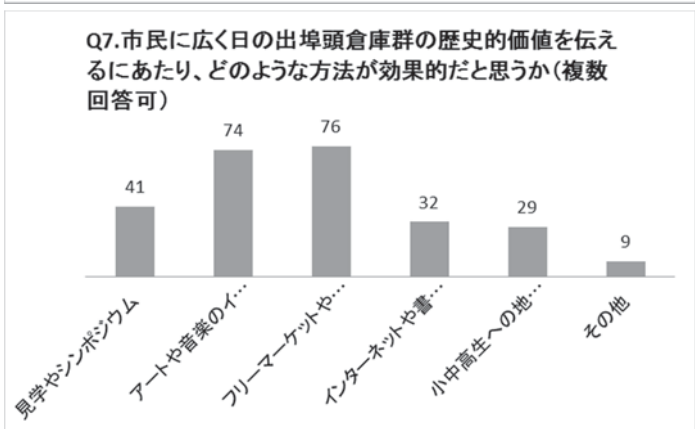
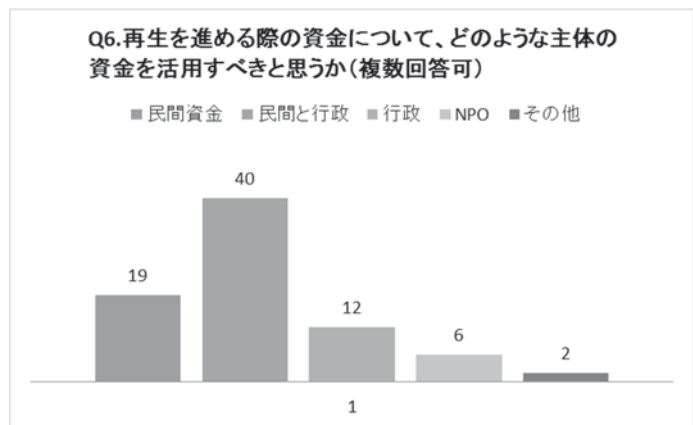
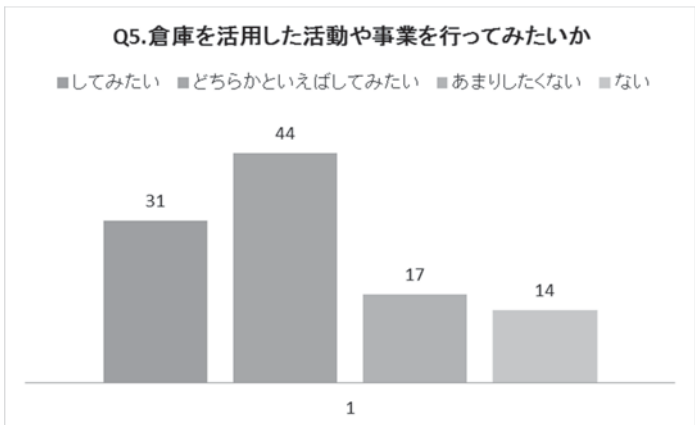
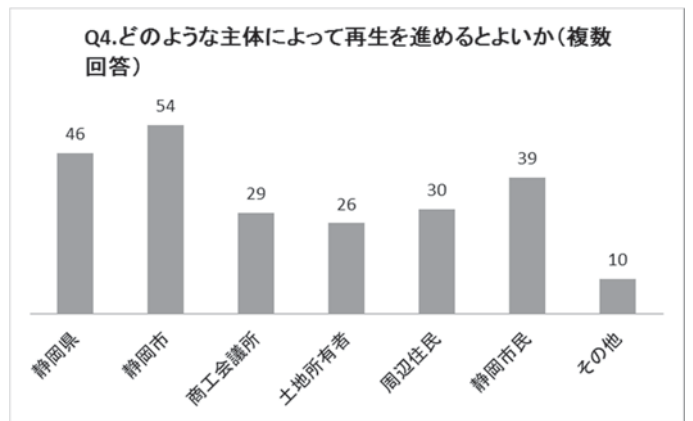
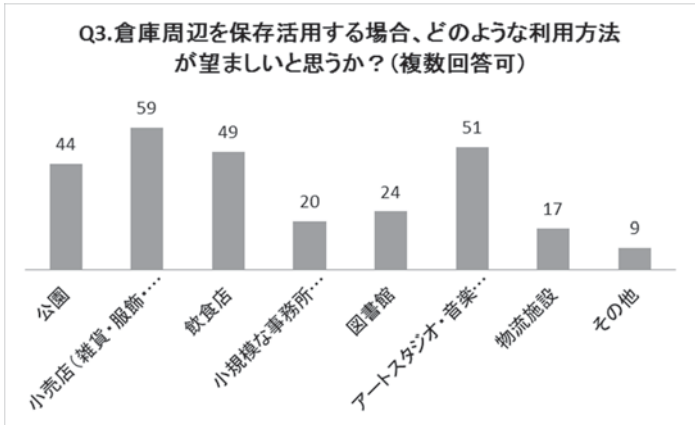
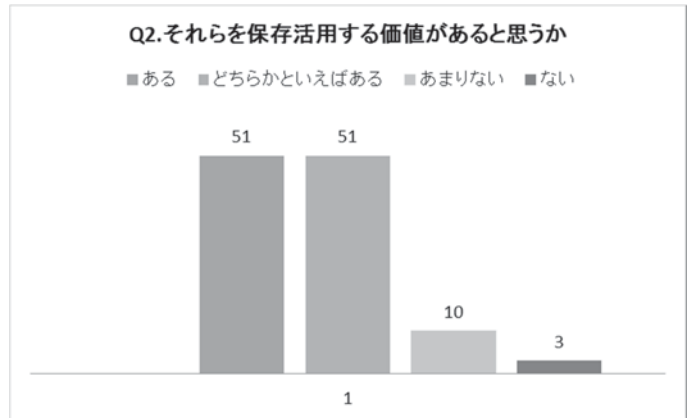
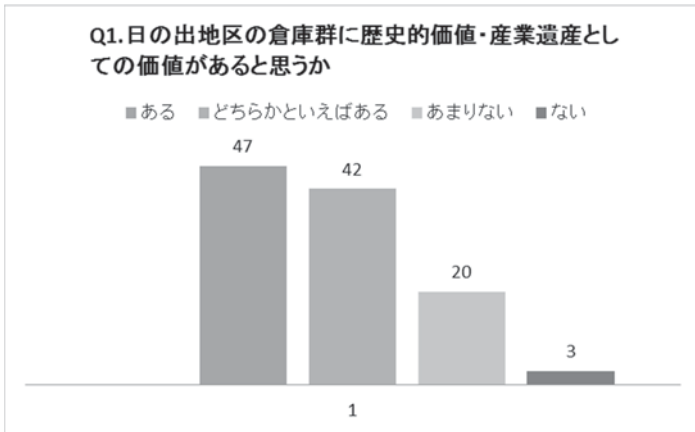
「ミナトブンカサイ 2014」

公開講座と並行して、造形学部と東京大学都市デザイン研究室との共同企画が開催された。地域資源の活用実験の実践発表として、沿道事業者と行政のご協力の下、道路を全面的に占有し、倉庫街がふだんとは違う空間に変貌した。

造形学部のライブペイント、ダンス部によるパフォーマンス、軽音楽部によるアコースティックライブ、東海大学ジャズ研究会、地元のゴスペルサークルによる演奏、さらに地域の企業、団体（鈴与、Shizuoka20z、みなとふじ、ハワイ食堂 Lea Lea、MAP CAFE シズオカ、似顔絵じょんじょん）の出店に、教育学部、法学部の学生による運営サポートも加わり、約 400 名の来場者を迎え、夜まで港の雰囲気を盛り上げた。



ミナトブнкаサイ 2014 来場者アンケート（東京大学）配布 350（うち回収 115）



関連企画「静岡鉄道沿線と北街道の地域資源」(於：常葉大学水落校舎)

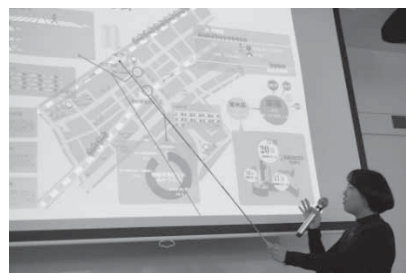
コーディネーター：常葉大学 造形学部 安武伸朗准教授・法学部 柴由花准教授

参加者：静岡市商業労政課・公共資産経営課・都市計画課、静岡市まちづくり公社、静岡鉄道、太田町商店会、名入れ川村、しずおかモビリティ研究会、似顔絵じょんじょん、常葉大学法学部 田中克志教授、造形学部 土屋和男准教授

昨今、情報の可視化が言われており、情報を文字だけでなく、デザインで伝えることが求められている。

静岡鉄道沿線や北街道（ジャストライン静岡－清水線）には地域資源がたくさんあることから、造形学部の学生（専攻科目「インフォメーションデザイン基礎C（2年生）」）が、静岡鉄道の各駅を中心に、周辺にある情報を「観察」「取材」「収集」して、実利的+研究的に意味のあるインフォメーショングラフィックを制作した（パネル B2 サイズ 515mm×728mm）。新静岡、日吉町、音羽町、県総合運動場、美術館前、草薙、御門台、桜橋、新清水の駅ごとに、沿線の、目に見えない価値を明らかにするという課題に取り組んだ（WHAT IS THERE MAP）。他方、法学部の学生（2年生）も、北街道の歴史的資源を再発見し、北街道地域資源 MAP を作成した。

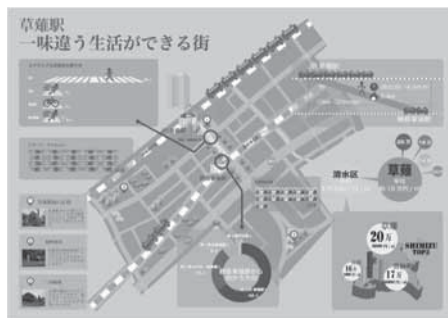
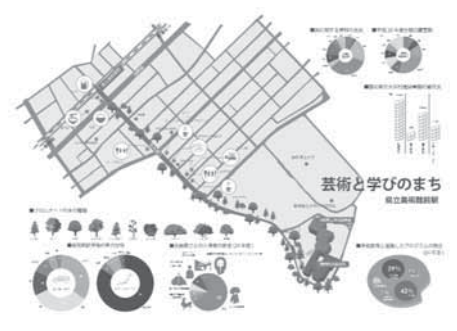
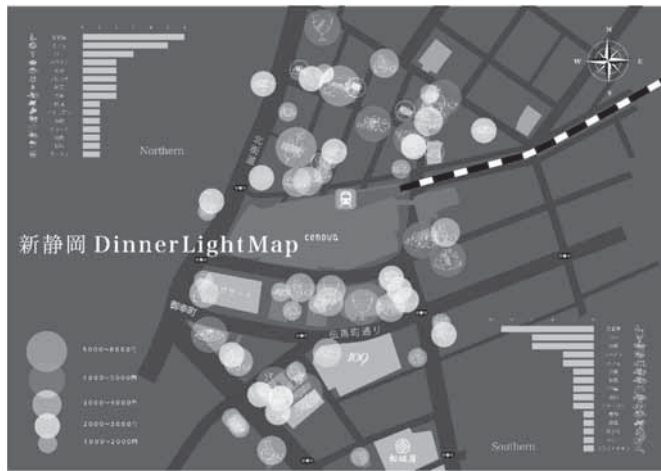
参加者からは、「まちづくりをする上で、まちの歴史を知ることは重要」、「地域の見せたい魅力をアピールすることが必要」、「Map を毎年バージョンアップして欲しい」といった意見が聞かれ、学生の視点による、地域の歴史を生かしたまちづくりや新規ビジネスの可能性を感じさせた。こうした学生の取り組みが地域の良さを生かした新しい街づくりや新規ビジネスの可能性検討の一助になることと思われる。



WHAT IS THERE MAP

静岡鉄道沿線には何があるのか

常葉大学 造形学部ビジュアルデザインコース2年【インフォメーションデザイン基礎C】



「北街道地域資源 MAP」

法学部 法学・政策学基礎演習Ⅱ（2年生）柴ゼミ

**北街道～清水橋
歴史まちづくりプロジェクト
(水落～大内観音)**

常葉大学「法学・政策学基礎演習Ⅱ」
法学部 柴ゼミ

2014.11.06

**歴史まちづくり (歴史まちづくり法
地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律)**

歴史まちづくり法(H20～)は、歴史的風致の維持向上を図ろうとする市町村が策定する歴史的風致維持向上計画を主務大臣(文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣)が認定し、その取組を支援するもの。計画の認定都市数は現在44都市。



平成26年3月
国土交通省都市局公園緑地・景観課「歴史まちづくり法に基づく5年間の取組み成果」

**駿府城からの回遊性
北街道(水落～清水橋)の豊富な歴史的資源を活かす**

- 大御所家康公は駿府城天守の真下から清水港まで船を運ばせた。現在の北街道の道路の真ん中には水路があり、上土で巴川と合流し清水港に通じていた駿府城からの水路があったため、歴史的資源が今も多く残されている。
- 奈良時代の名残り 先宮神社
- 今川時代の名残り 今川ゆかりの寺
- 徳川時代の名残り 家康・清水湊・お万の方・由井正雪
- 静岡大火(昭和15年)の名残り 寺町から移転
- 戦争時代(日露～第2次世界大戦)の名残り 戦争遺跡

北街道とは

- 北街道は全長13Km。東の起点は、庫原川横百詰で、西は江川町交差点である。鎌倉時代初期、源頼朝によって東海道(中世東海道)が設置され、江戸時代、新たな東海道の開設とともに、旧東海道は北街道と呼ばれるようになった。
- 横内川は、昭和はじめに現在、北街道の下を暗渠(あんきょ)として流れている。
- 江戸時代、家康は、駿府城修築がなつたとき、駿府郊外の上地(あげつち)を經由して巴川水路を掘削(くさく)した。
- 清水湊に着いた貨物は、巴川を通り、上土で横内川に入り、三の丸から水路を経て二の丸の舟入から本丸堀に直結していた。
- 北街道の大部分は、静岡県道67号静岡清水線(静鉄バス北街道線)と重複する。静岡市都市計画マスタープランでは、築区内及び隣接する清水区との日常的・社会的な交流活動を支えるため、北街道線を東西発展軸として位置づけ、軸としての形成を促進する、としている。もともと、北街道沿線に、かつてのような賑やかな人通りはなく、東西発展軸としての機能は失われている。

2. 名入れ 川村 築区横内町102

創業・残っている写真が昭和初期なので大正時代からあるのではないが、ネットでは天保8年から営業となっている。

現在店主さんは5代目で息子さん6代目で後継が決まっているそうだ。始めから名入れの営業をしていたのではなく、最初は竹屋さんだった。しかしそれを替わって名入れに変更。その後手ぬいでも染めるようになり、タオル染めるのは現在の店主さんから始まった。

お店の名前を変えることで注文が取れなくなってしまう場合があるため昭和30年に店名を「名入れの川村」にした。



6. うなぎ 池川支店 (築区横内町67)

- 創業100年以上。
- 昭和6年の写真によると、横内川でうなぎの泥を吐かせていた。



7. 株式会社 ナカノ (築区水田町12)

- 明治27年4月1日 創業「仲野商店」米穀類販売 初代 仲野実吉
- 明治35年 二代目 仲野熊一郎
- 昭和15年 三代目 仲野栄一
- 昭和22～23年 はきもの問屋
- 昭和38年 住宅設備 灯油プロパン 燃料販売
- 昭和48年5月22日 「株式会社ナカノ」設立
- 四代目 仲野田郎
- 昭和48年8月 仲野ビル完成
- 平成13年 太田町商店街歩道工事
- 平成17年10月 五代目 山本雅裕代表取締役社長に

<http://netami-nakano.co.jp/company/index.html>




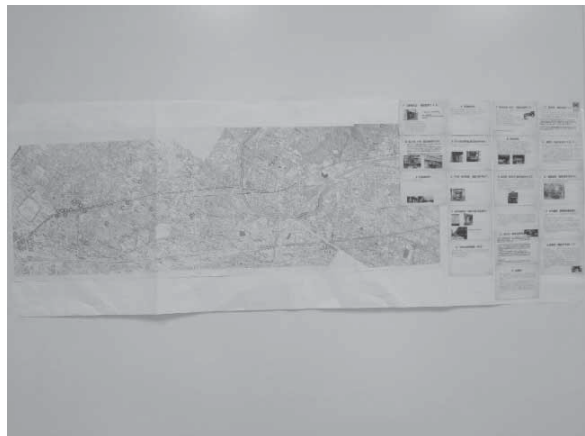
8. 先宮神社

- 創建は、49代光仁天皇(奈良時代 宝龜9年(778年))。
- 伝説①:早稲で困っていた農民の前に1人の美女が現れ、神楽を与えた。すると急に雨が降った。農業神である保食神(ウケモチ)が祭神である。伝説②:浅間大神がここで足をすずいだことより、元は足瀧神社(あしすじんじや)と言われていた。地図上で見ると浅間神社から真っ直ぐ東に伸びていることから、先にある神社ということで先宮神社と称されるようになった。古来武門武将の崇敬篤く、武田勝頼、徳川家康等しばしば社領その他を寄進せられたとあり、静岡で最も古い社。



9. 来迎院 英長寺(築区横内町102)

- 創建は慶長14年(1609年)。家康公より献上されたと伝えられる南蛮屏風があるという。南蛮屏風は、家康公が英長寺で囲碁を楽しんでいる時に隙間風がり、その寒さを防ぐために寄贈したという。また地内には真勝寺という寺があり、その寺の傍らには家康公がお茶の水に使用したという名水が湧いていた井戸(三弥井戸)があったという。

第三回公開講座

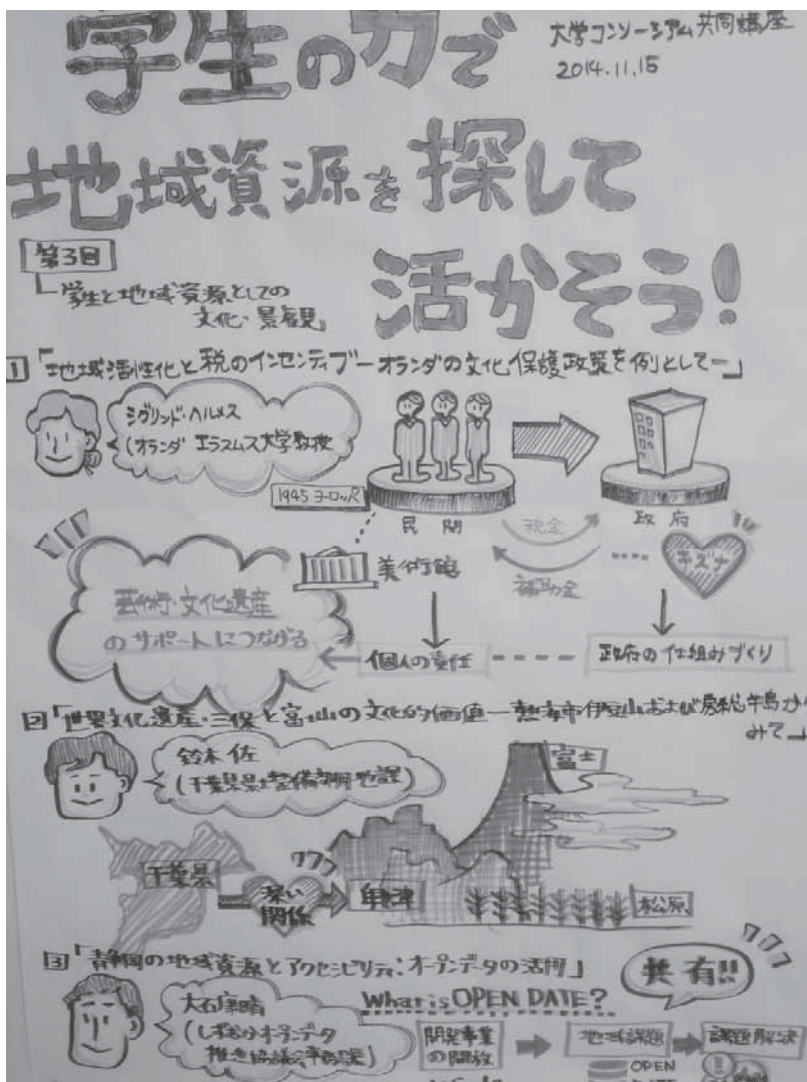
「学生と地域資源としての文化・景観」（於：常葉大学水落校舎）

第三回公開講座では、「地域活性化と税のインセンティブーオランダの文化保護政策を例として」（シグリッド・ヘメルス教授 エラスムス大学法学部）、「世界文化遺産・三保と富士山の文化的価値 熱海市伊豆山及び房総半島から」（鈴木 佐氏 千葉県県土整備部用地課）、「静岡の地域資源とアクセシビリティ：オープンデータの活用」（大石 康晴氏 しずおかオープンデータ推進協議会 事務局長）の講演が行われた。

続くパネルディスカッションでは、長谷川孝氏（横浜市政策局担当理事）が横浜市におけるオープンデータの取り組み、石川裕之氏（静岡市総務局行政管理部情報管理課）が静岡市の Wi-Fi 天国について紹介し、関川 清明氏（御伝鷹まちづくり株式会社）は、商店街における歴史まちづくりについて紹介した。オープンデータと地域資源を使ったまちづくりの可能性について、ディスカッションが行われた。

公開講座と並行して、本学造形学部安武伸朗准教授と学生によるグラフィックレコーディングが行われ、議論の流れを可視化することで参加者の議論を盛り上げた。

第一部 公開講座



1. 「地域活性化と税のインセンティブーオランダの文化保護政策を例として」

シグリッド・ヘメルス (エラスムス大学法学部・教授) 通訳今川俊一 (静岡市都市計画課)

●はじめに

- ・文化財の保護に、民間の力が求められている。

●寄附の重要性

- ・文化・遺産財団の財政基盤 (政府の補助金だけではなく) の拡大: より多くの資金
- ・財務基盤の強化: 個人の寄附は、政治的・経済的な変化にセンシティブではない
- ・社会的基盤の強化: 民間の寄附は公共との絆を創出し、育成する機会を提供する。
- ・所得控除で民間の寄附を支援

異なる要件: 日本は比較的厳格。オランダは小規模な NPO に対して寛容。米国はその中間。

- ・文化、遺産財団の責任: 税のインセンティブを利用可能にし、それらを公開する。

●ボランティアのための税のインセンティブ

- ・ボランティア: 絆を作るため、コストを削減するために重要
- ・オランダ: 報酬が年間€1500 (約 21 万円) 未満である場合、所得税は課税されない
- ・費用と償還を拒否された報酬は寄附として控除できる可能性
- ・法人税: ボランティア付きの寄附

●物納

- ・物納の場合、価値の 120%
- ・寄贈者は、どの博物館に受け入れてもらうか自由に決定
- ・物納は、国有財産になることを意味する。国は物納されたものを博物館に貸し出す。
- ・厳格な規制や要件が適用される。
- ・日本ではインセンティブは、あまり使用されていない?
- ・政府や美術館の責任

●個人所有の文化遺産の維持: 歴史的建造物のための税制上の優遇措置

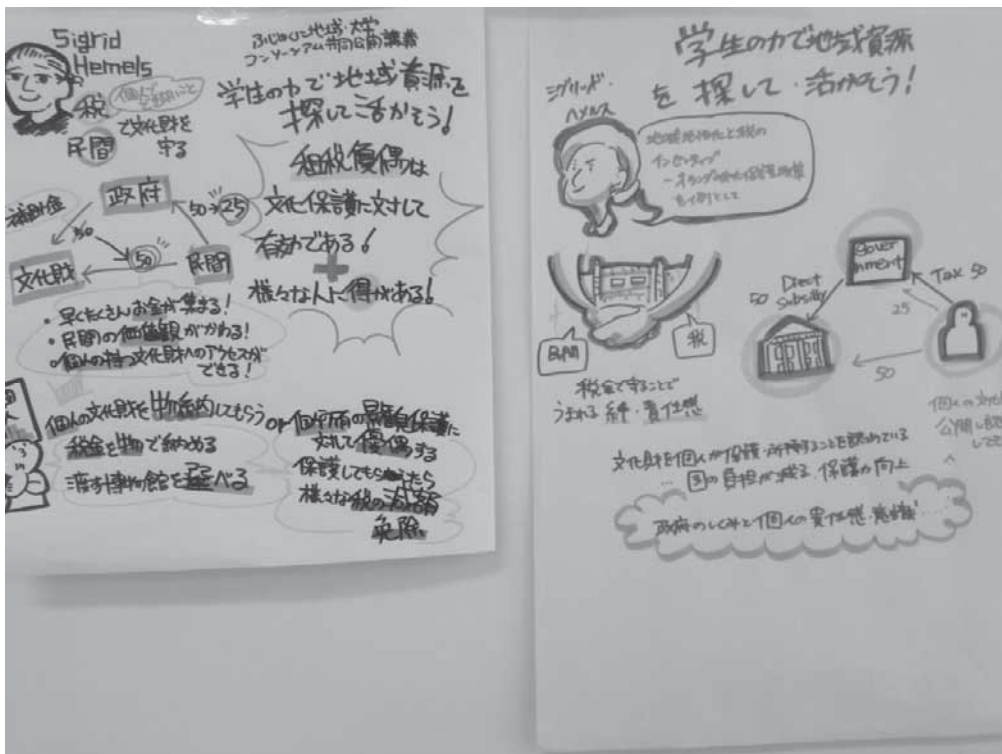
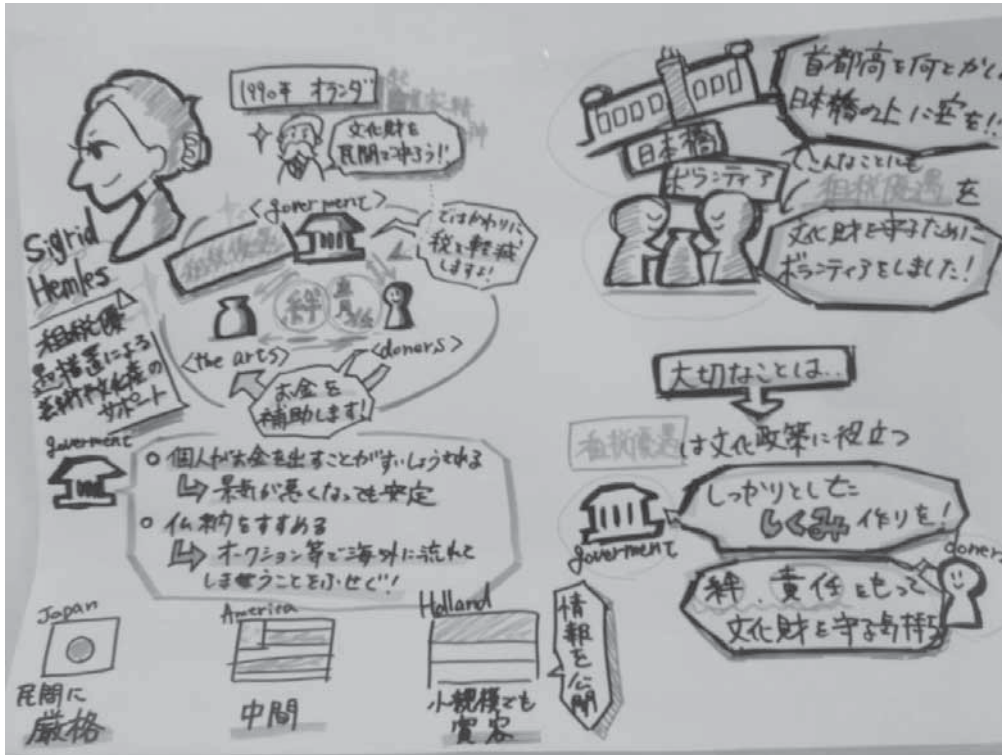
- ・多くの歴史的建造物 (政府は維持できない)
- ・税制上の優遇措置の背後にある考え方: 自らの家の世話: 歴史的建造物を維持するインセンティブ
- ・歴史的建造物を所有している個人は、一定のコストを控除することができる
- ・歴史的建造物に対する不動産税の軽減

●自然景観 (個人所有) のための 税制上の優遇措置

- ・オランダ国内の不動産: 最低 30% が森林であれば、自然遺産 (建物が 1 棟)
- ・最低 5 h a
- ・不動産を保全する義務
- ・1928 年以来: 相続税を支払うために相続人が売却や分割をするのを防ぐため

●まとめ

- ・税のインセンティブは文化政策の目的を達成するための重要な役割を果たしうる
- ・政府の責任: 税のインセンティブを効果的・効率的にすること
- ・財団の責任: 税のインセンティブを使って公共にアピール。財団の活動と公共とを結びつける、絆を創出



2. 「世界文化遺産・三保と富士山の文化的価値 熱海市伊豆山及び房総半島からみて」

鈴木 佐 (千葉県県土整備部用地課)

● 富士山・三保松原・清見関は一体

世界文化遺産申請書の中でも、富士山（浅間神社・村山興法寺）と三保の松原と一体として、登録されたが、昔から強いつながりがある。

さらに清水市興津の清見関（清見寺）も一体であった。

● 富士山・村山修験の発祥地 伊豆山権現

①伊豆山権現

別当寺院中世密巖院近世般若院

②伊豆山権現は三島・箱根とともに山岳宗教メッカに。

村山修験道の発祥

④ 廃佛棄釈の影響で惨憺たる結果に。

世界文化遺産→「山岳宗教遺跡」として保存活動。

● 房総半島から見た「富士山・三保の松原・清見関（渦）」

同じ黒潮交流の「遠州・駿河・伊豆」の3カ国と房総3カ国は関係が深かった。

[三カ国と房総半島]

1 熊野神社の分布静岡県102社千葉県189社

[伊豆国と房総半島]

- 1 伊豆石が房総半島に千葉県内に伊豆国産の板碑多し
- 2 源頼朝の旗揚げ真鶴岬（もしくは熱海市伊豆山）から房総半島へ
- 3 伊豆国御家人・工藤祐経、千葉常胤の娘婿に。
- 4 日蓮上人伊豆へ流罪

[駿河国・遠江国と房総半島]

- 1 日蓮上人の父祖は遠江国の貫名一族。
- 2 駿河田中藩の飛地1万石が下総国藤心（千葉県柏市）に。
- 3 横須賀藩主の大須賀康高・忠政親子の祖先は千葉一族。
- 4 遠州勝間田一族の内田氏、下総国香取郡で大名に。
- 5 掛川城主・北条氏重の養父は下総国岩富城主の北条氏勝。
- 6 幕末、駿河遠江にいた大名が房総半島へ移封。（静岡の人材流出・流入）

遠州：掛川藩→松尾藩、浜松藩→鶴舞藩、横須賀藩→花房藩

相良藩→小久保藩

駿州：小島藩→桜井藩、田中藩→長尾藩、沼津藩→菊間藩

①浮世絵に描かれた房総半島からの富士山

葛飾北斎 富嶽三十六景

「神奈川沖浪裏」の風景は、江戸（東京）湾内での海上からか

波の絵のモデルは房総の彫刻師・波の伊八「武士伊八」が彫った行元寺欄間（いすみ市）の影響を受ける。

「上総ノ海路」 木更津市沖か

「登戸浦」 千葉市中央区登戸登渡神社付近

歌川広重 不二三十六景

「上総木更津海上」 描かれた地は、現在の木更津市沖（以下 地名は現在の想定地）

「下総鴻の台」 市川市国府台

「上総鹿楚山鳥居崎」 富津市鹿野山

「上総天神山海岸」 富津市湊

「安房鋸山」 富津市と鋸南町にまたがる鋸山

歌川広重 富士三十六景

「鴻之台とね川」 市川市国府台付近

「下総小金原」 松戸市～鎌ヶ谷市にまたがる小金原

「上総黒戸の浦」 木更津市小櫃川河口付近

「上総鹿埜山」 富津市鹿野山

「房州保田ノ海岸」 鋸南町保田海岸

②富士山信仰全国にも多く存在 房総半島にも多くの「浅間神社」「小富士」あり

ア) 富士の付く地名

印旛郡富士（現在白井市富士）、千葉市中央区富士見、浦安市富士見、木更津市富士見、流山市富士見台、富津市富士見台貝塚、富士見台古墳群

イ) 浅間の付く地名

浅間前（印西市）浅間前新田（我孫子市）浅間山一号墳、浅間山古墳（印旛郡）

浅間（あさま）神社・・・柏市、富津市、流山市

浅間（せんげん）神社・・・浅間大神（匝瑳市）浅間神社（千葉市稲毛区・

松戸市・香取市・銚子市・山武市・いすみ市、木更津市、君津市、富津市）

③昭和60年に富士山頂でみつかった銅製の「不動明王懸佛」は上総国が生産地

・「源春」「内匠助泉重」は不明

・「大工和泉守光吉」は上総鋳物師集団。

その棟梁・大野氏は鎌倉大仏を鋳造。

④羽衣伝説

「三保の松原」と「千葉市の池田の池」

羽衣伝説も全国に多いが、千葉の地名発祥のその名に「羽衣伝説」がある。

平成20年～24年ごろ、千葉市では「羽衣伝説」をモチーフでシンポジウムを実施していた。

⑤清見関に房総半島に由縁の女性が？

ア) 菅原孝標女

「更級日記」で上総国から京へ戻るときに清見関を記述。
 清見が関は、片つ方は海なるに、関屋どもあまたありて、海までくぎぬきしたり。けぶりあふにやあらむ。清見が関の波も高くなりぬべし。おもしろきこと限りなし。（更級日記抜粋）

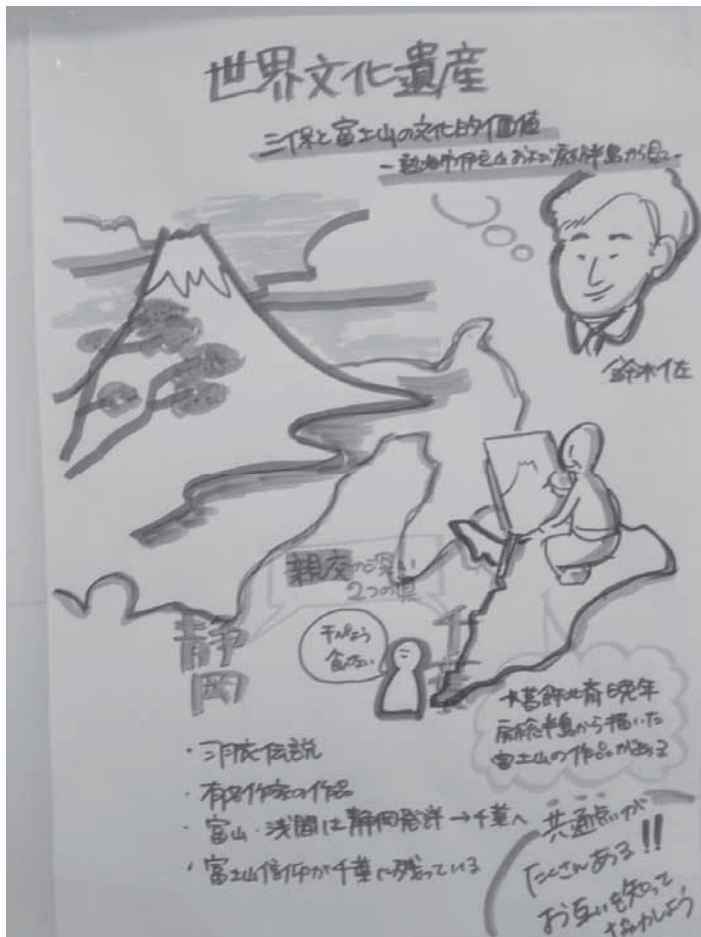
イ) 清見関長老・如法尼

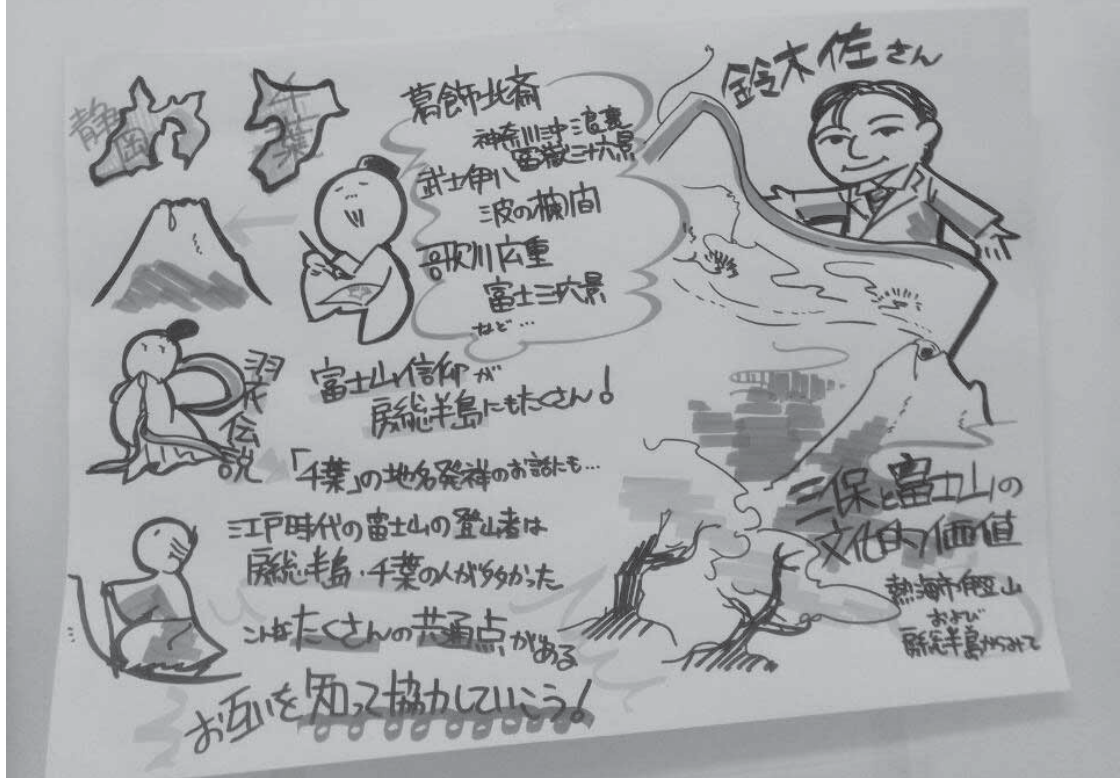
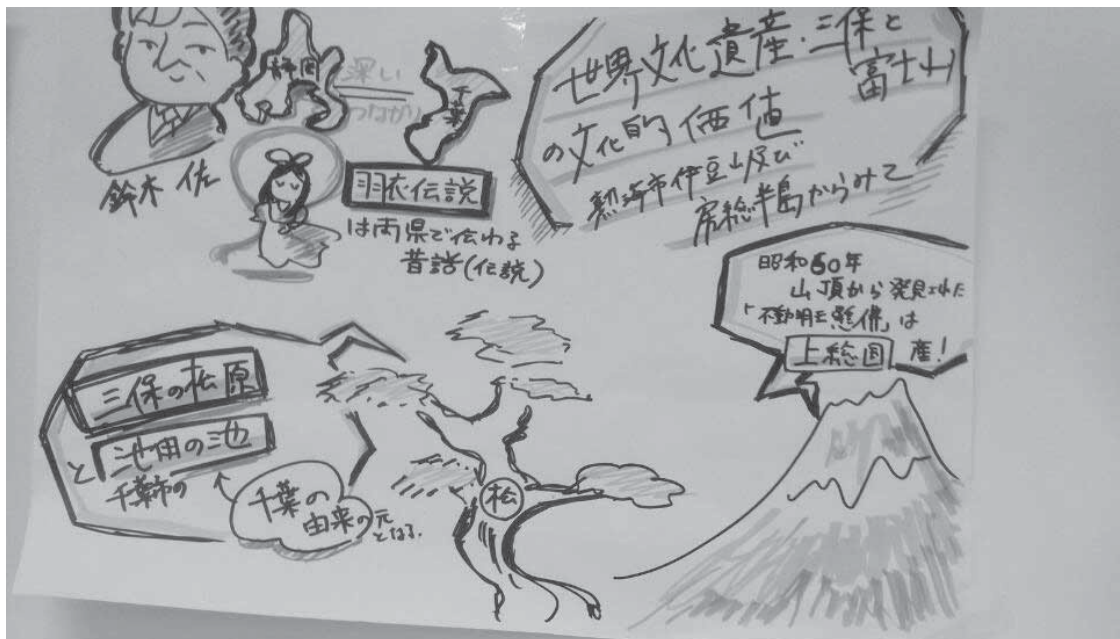
清見寺は禅宗寺院。現在臨濟宗妙心寺派。
 聖一国師（静岡市藁科出身）の弟子・関聖和尚が改宗。
 清見関長老（住持）に如法尼がいる。如法尼は千葉氏女房。下総国守護・千葉氏の妻とされる。鎌倉尼五山の太平寺の開山。

⑥ 江戸時代富士山表口登山者調べ「道者帳」から房総人多し

安永二年～文化一二年（出典：遠藤秀男著世界遺産富士山表口「村山」の歴史より）

1位	尾張国（愛知県）	502人	7位	安房国（千葉県）	68人
2位	近江国（滋賀県）	487人	8位	美濃国（岐阜県）	64人
3位	武蔵国（東京都・埼玉県）	280人	9位	常陸国（茨城県）	58人
4位	信濃国（長野県）	234人	10位	甲斐国（山梨県）	58人
5位	下総国（千葉県・茨城県）	212人	11位	相模国（神奈川県）	30人
6位	上総国（千葉県）	99人			





3. 「静岡の地域資源とアクセシビリティ：オープンデータの活用」

大石 康晴 (しずおかオープンデータ推進協議会事務局長)

●OPEN Licensed DATA

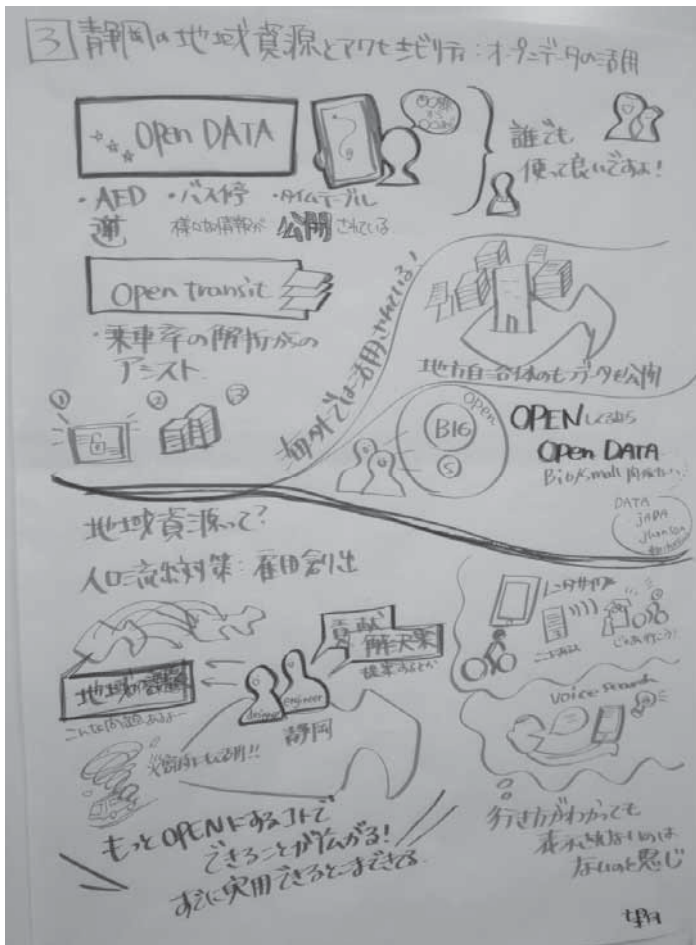
What is OPEN DATA?

近接概念との相違点

OPEN DATA		Public Domain			
著作権			利用ライセンス		
著作物 (第10条1項)	権利発生	権利存続	プライベート ドメイン	許諾必要	個別許諾
		権利消滅		許諾不要?	クリエイティブ・コモンズ
		権利制限		法的安定性 CC-BY 4.0	
	権利不発生				
非著作物 (第10条2項)					
事実の伝達にすぎない雑報及び時事の報道					

Issue Driven Open Data

人口流出対策：雇用創出



3 静岡の地域資源とアクセシビリティ: オープンデータの活用

2!!

OPENデータを活用すると

場所が分かるし行き方が分かる...
 ↳バス・電車の運行の意が分かる!
 具体的なルートが分かる

...そもそもOPENデータは?
 ニアセンスの1つ

データがあると
 便利でイイね!
 もっと活用できなかな



みんながもっと
 情報公開は
 データを活用はうな

大石康晴さん
 (静岡オープンデータ
 推進協議会 代表理事)



今世界中で活用されている

地方自治体がもっているデータ課題を公開

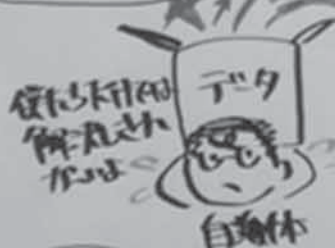


静岡
 ガイフ!

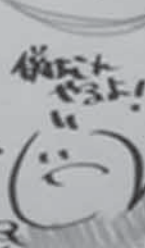
人・モノ・金の動向
 がわかる

市民もこれを見て考える地域資源

人口流出
 雇用・生産



OPEN
 協力
 公開



自分たちが持っているデータ
 をみんなで見つめて活用できる!!
 (クラウド・サイト・WEB等)
 (2014年)のITネット

そもそも
 私たちが持っているのはデータ? 課題?
 システムでなくても、著作権で問題あると公開できない...

技術は
 実用段階
 活用したい、役にたい
 みんなが便利なものほしい!!

自分たちが持っているデータ
 をみんなで見つめて
共有
 みんなが住みやすい社会
 にしていきませんか?

パネルディスカッション

16:00-16:55

木下 大由 氏
 岩田 由花 氏
 岩田 裕之 氏

横浜中の目指す所
 ・市民主導
 ・協働・共創
 ↓
 市民企業・自治体
 全員の協働
 ホラニアソカ

とこれ OPEN DATE
 を使ったわけは...
 公共
 民間
 根.NPO ニズ
 ↓
 イノベーション!!
 ↓
 専門家 ニズ

事例
 'Yokohama Art Spot
 WHERE DOES MY MONEY GO?
 かなごの育ち
 東海道中アソカ旅

実現したい事例を私に話しています!

官民連携
 ①地域活...
 ②銀光地帯...
 ③災害対策

Shiz Pass 水が自由にかかる工夫
 をたくさん考えています

Wi-Fiで静岡をつなげる
 外国人も大人も子供も

→ せがでは、日本中・世界中 Wi-Fi 天国

石川 裕之 氏
 (静岡中核局局長)

静岡のあつら
 地名やまつり
 消えつつある...
 良き見聞!

関川 清明 氏
 (UPA 広報まちづくり (株))

みちをさがし
 ... 地球の歴史
 田んぼの文化

見えない声
 たくさんを
 紹介しま

OPEN DATE を活用する以外に...

Q 心置きなく
 OPEN DATE
 は活用できる
 石川

Q 報せも活用が
 できるか?
 技術
 X
 政府

PPP による
 学校やまちづくり
 静岡のまち
 ありて
 愛と地域おこ

根拠の中にも
 ないところ
 の存在が
 実現

色んな
 連携を
 EX 車海差

国官産学
 の連携が
 OPEN DATE
 交流を

誰が
 その目的が
 地域は

何の
 成果
 を出して
 いるか

関川

話題提供 I : 長谷川 孝 (横浜市政策局担当理事)

「オープンデータ 横浜の挑戦」

1. 横浜市政策支援センター

- ①政策立案基礎情報拠点機能 市民意識調査、将来人口推計、GIS
- ②政策課題の調査・研究機能 横浜会議、市民生活白書
- ③政策立案支援機能 各種研究会、「調査季報」(1963～)

2. 東海道中ぶらり旅 by チームよこはま

旧東海道の宿場町の名所旧跡を訪ねる街歩きをサポート
 名所・旧跡等の情報は横浜市のデータを活用
 関係自治体が連携し他の旧宿場町への拡大も (目標は53次!)

3. 横浜市の取組みの特徴

「市民主導」、「協働・共創」、「お金を(なるべく)かけない」、「オープンデータの理念を忘れずに！」

4. 横浜市オープンデータの推進に関する指針(2014.3 策定)

①基本的な考え方

意義・基本原則・推進体制等

②具体的な取組の方向性

- ・WebサイトをOD化の基盤として再整備
- ・Webサイト上の公開情報は原則OD化
- ・既存データはニーズの高いものを可能なものから順次対応
- ・二次利用の条件は原則CC BY

Open Date

open government ↑ Liked opendate
open Science

オープンデータ活用

- ・避難所までの道のり
- ・AED ・バス停
- ・タイムテーブル

私たちが求めるのは
Date? 問題解決?

- ・地域に貢献できない
- ・技術を生かせる
- ・実践が中心
- ・雇用創出・地方創生

この地域は
鬼滅の
刃

リアルタイム 運行情報
混雑具合が見られる!

表示されないデータは、
無いデータと同じ!

ぜひ、静岡発の
データオープン化を!!

移動手段
自転車+車 ecc...

Real Time
Open Date
配信基盤

公共機関に
データ提供
したい!

おなかを
満たす
ために

たぶん...
●●の行き方は?
バスの運行状況は?
次の車両は混雑する?

検索中...
オープンデータ
出ました!

着
海外での利用

OPEN DATE

地域課題
解決
地域資源

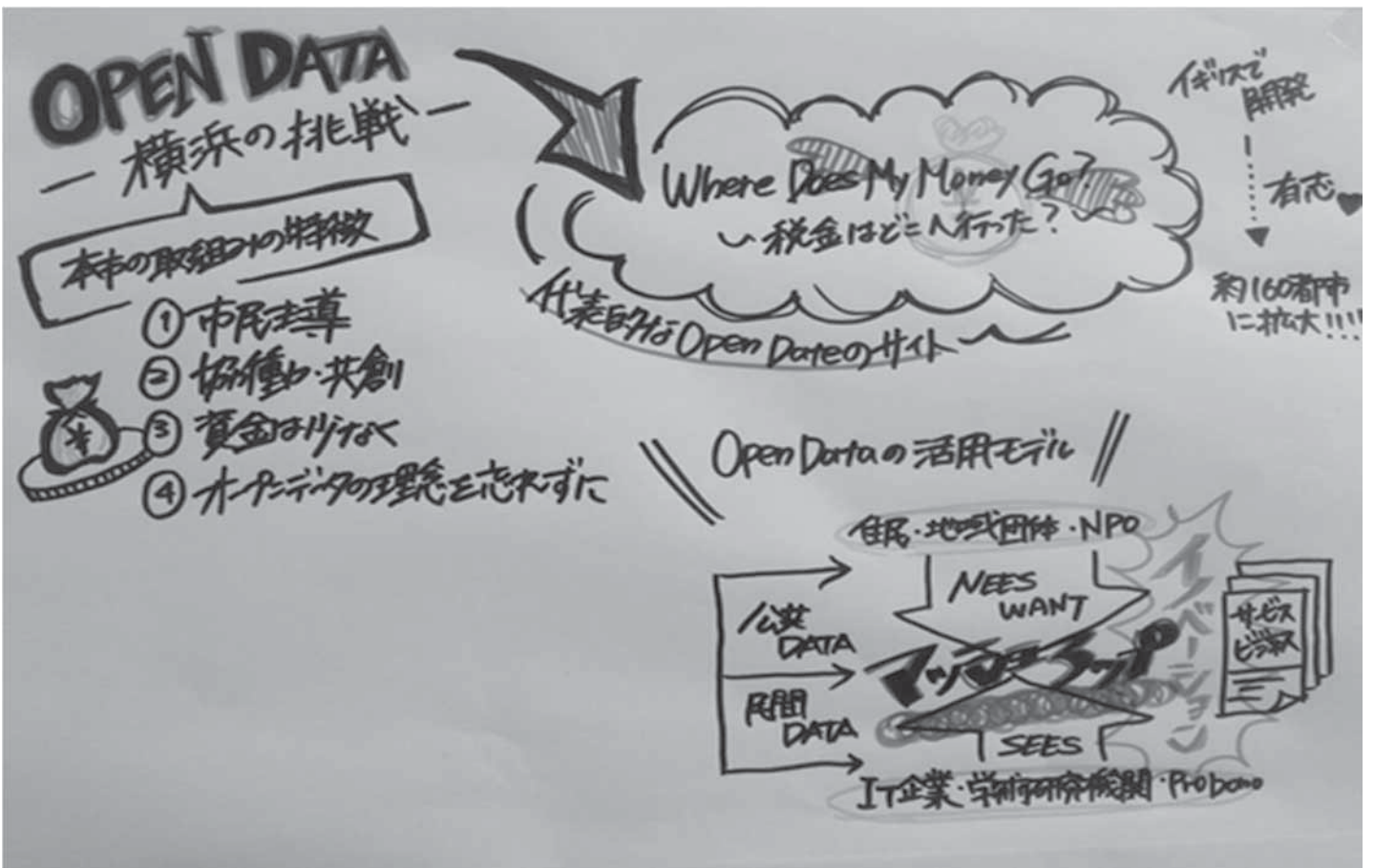
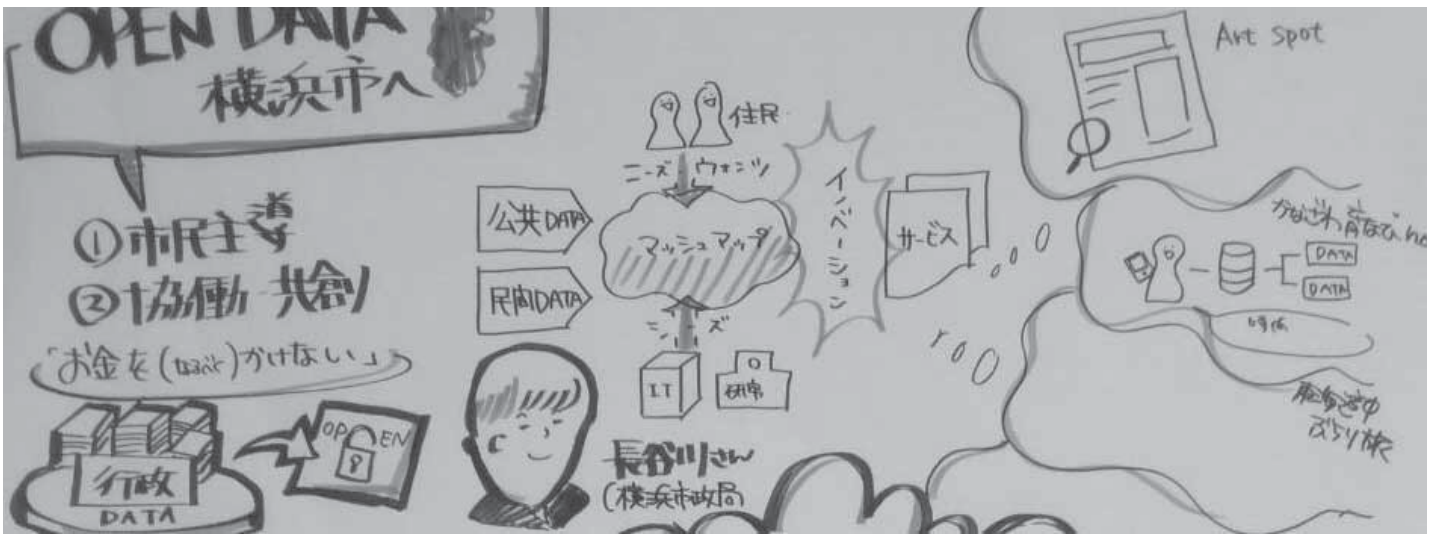
技術
DATE
OPEN DATE

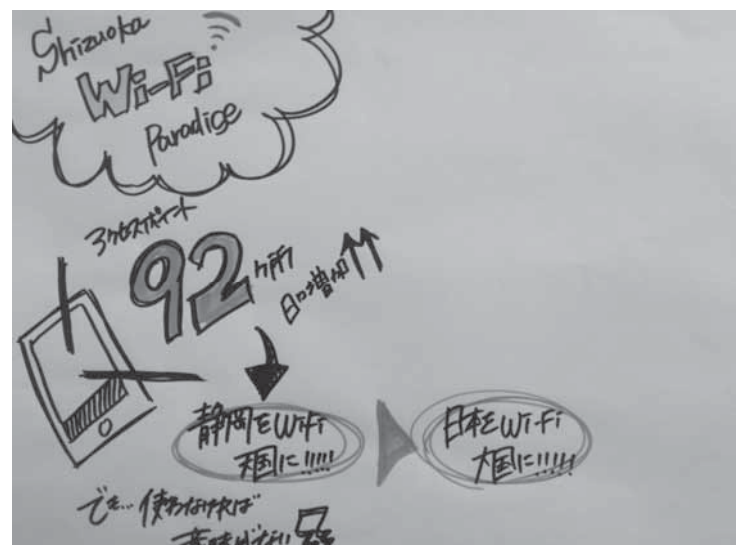
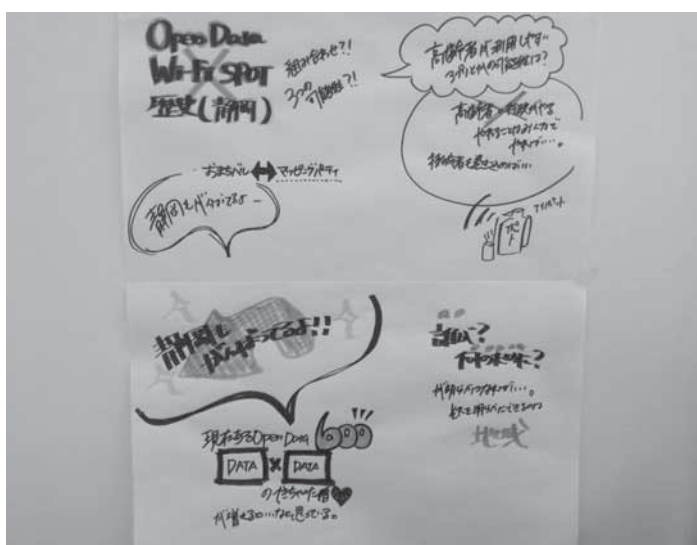
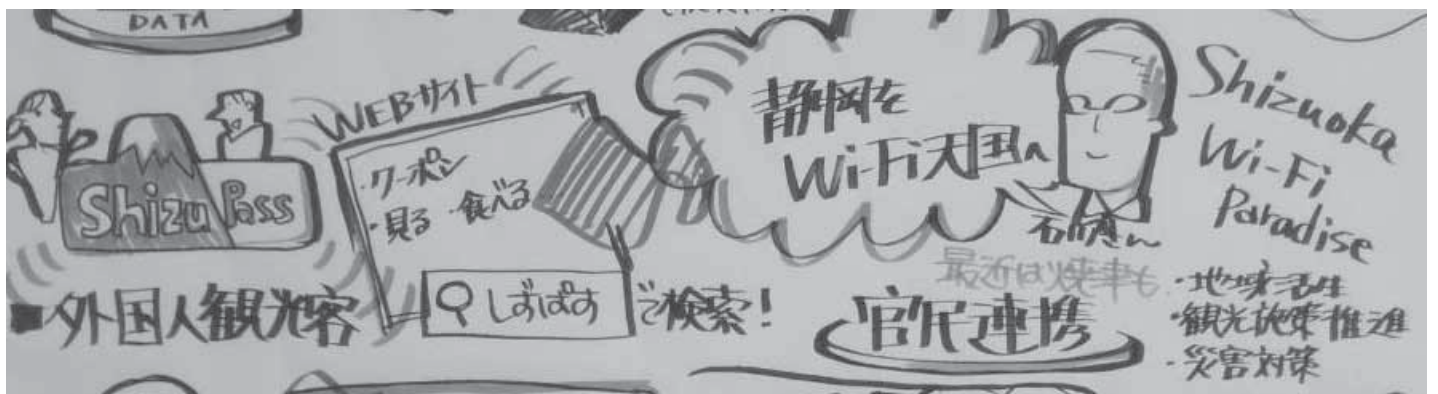
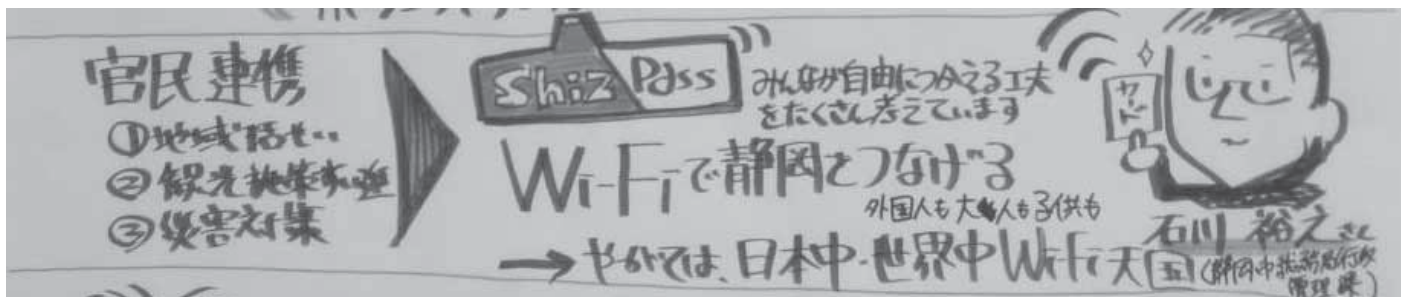
静岡の地域資源を
OPEN DATEで
つくりこよう!!

実用化...
にサイクル
にサイクルで...
どこまでいけるの?

わかる
使えるんじゃない?
行ってみたい!

地域資源のつながり
自転車から
地域資源のつながり



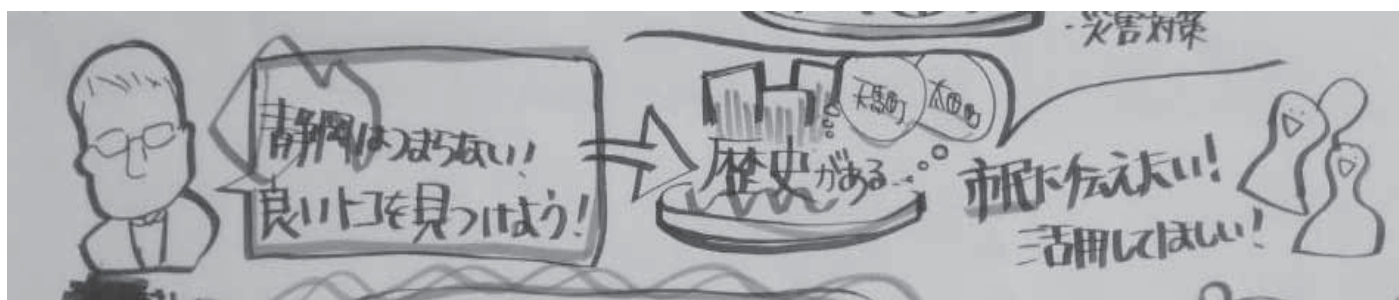
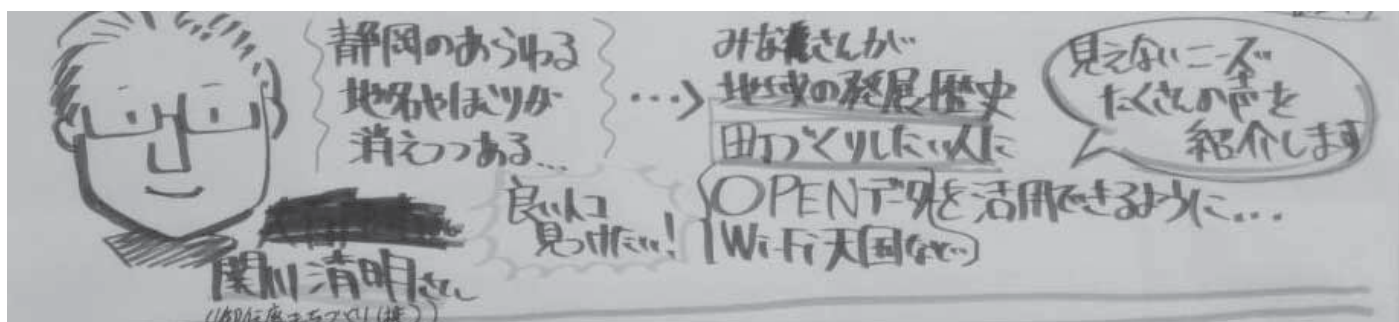


話題提供Ⅲ：関川 清明 （御伝鷹まちづくり株式会社）

伝馬町は、歴史のあるところ。東海道、久能街道からお城へと通じる。地域資源（歴史）を使ったまちづくり。歴史を誇りに発信しようということで、まちづくり会社を立ち上げた。



伝馬町「もぐさ屋 小山忠次郎商店」



パネル・ディスカッション

【パネリスト】

長谷川 孝 （横浜市政策局担当理事）

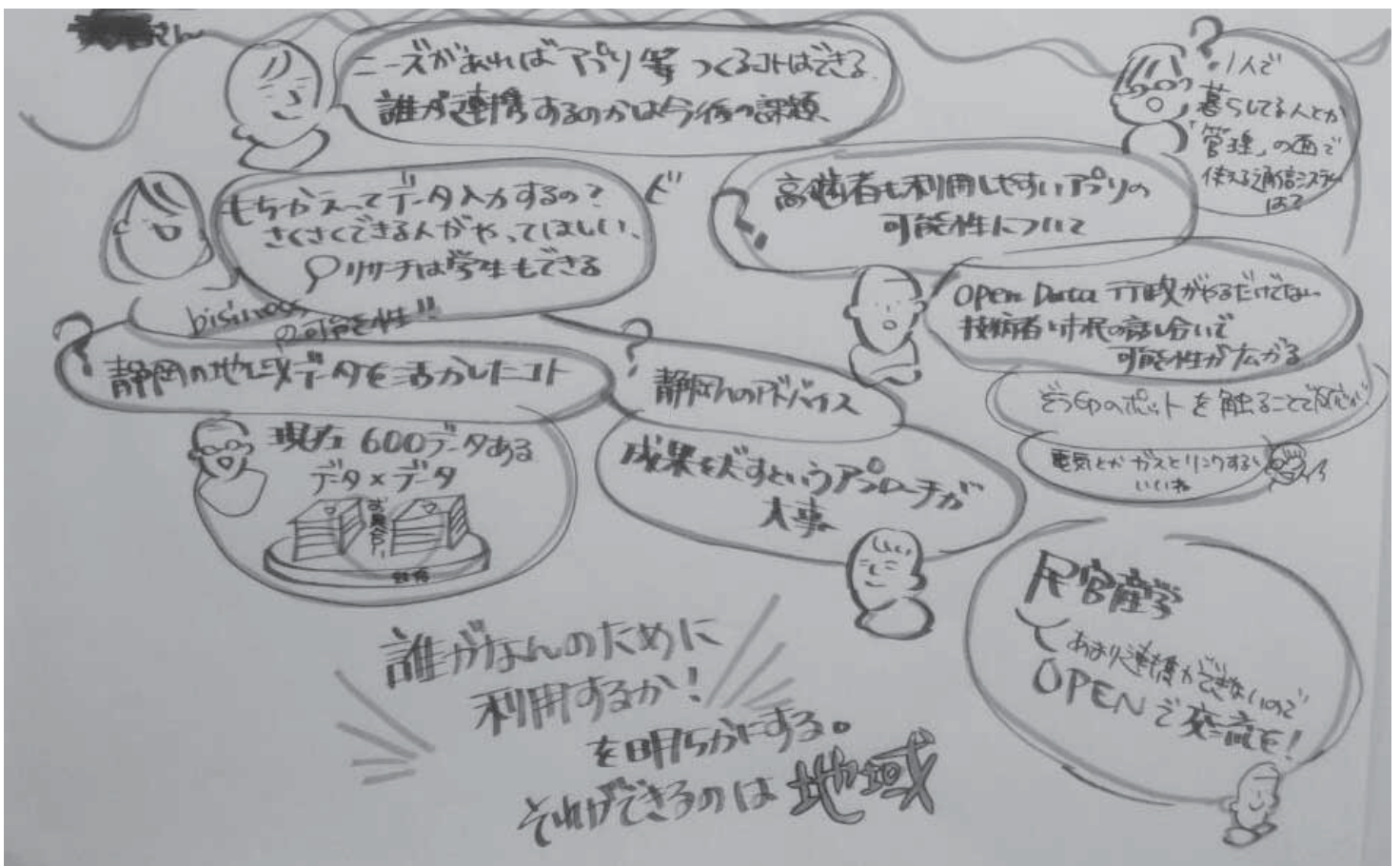
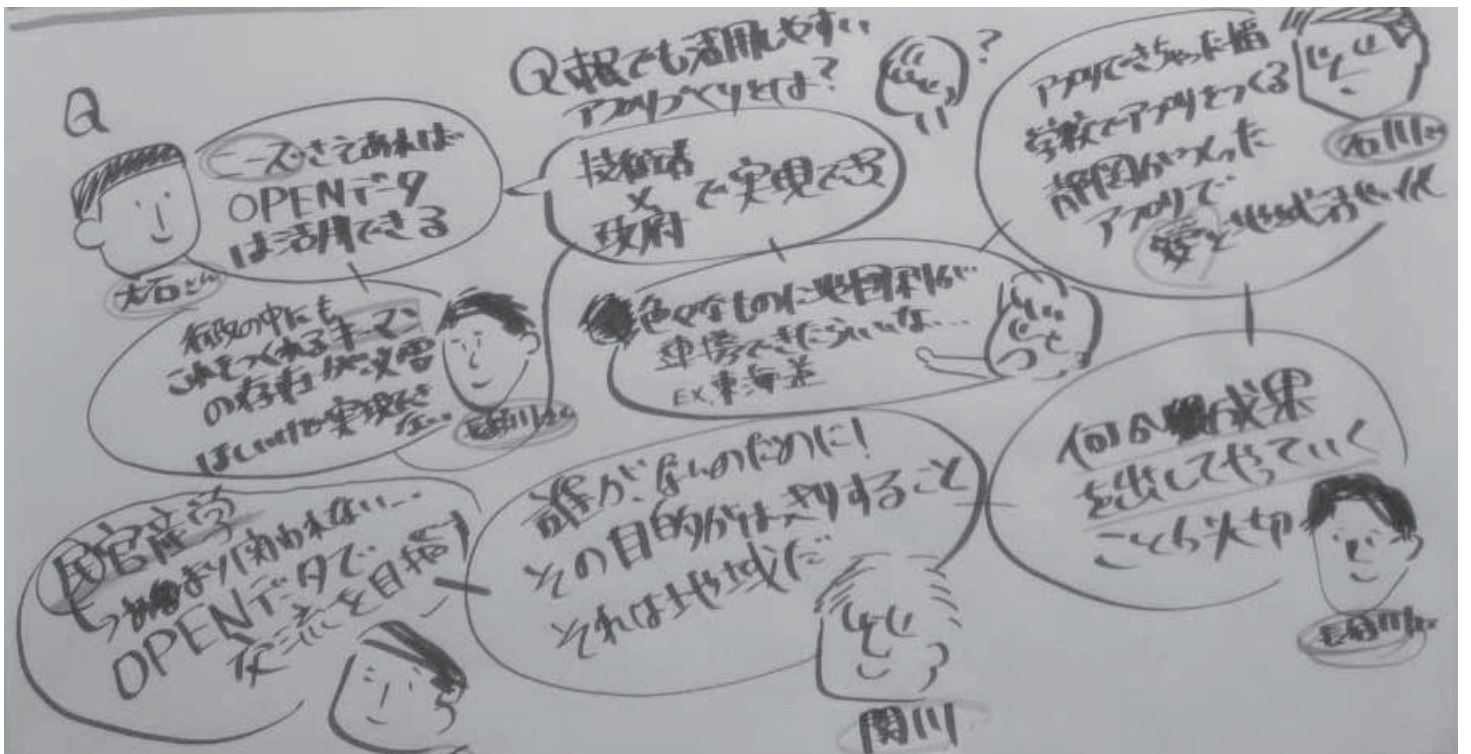
関川 清明 （御伝鷹まちづくり株式会社）

石川 裕之 （静岡市総務局行政管理部情報管理課）

大石 康晴

司会： 柴 由花





関連ポスター展示

1. 「東海道スイーツ」 教育学部 生涯学習科

東海道スイーツ

東海道二峠六宿を多くの人に知ってもらえるよう
平成の東海道スイーツを開発するプロジェクト!!

2 静岡市まちみがきプラン評価委員会
グループ4 発表
政策の柱「地域文化のみがきあげと発展」
「地元産業の活性化」
岩崎菜摘 増田華々 川村涼香 望月裕花
先輩委員: 深野裕士

3 **理想と現実**
理想: 東海道スイーツの魅力を多くの人に知ってもらうこと
現実: 東海道スイーツの魅力を多くの人に知ってもらうこと
GAP: 理想と現実の差
東海道スイーツ

4 **なぜ東海道スイーツ??**
各宿には元々、伝統的なお菓子が存在していた
スイーツは幅広い客層からの支持がある
おしゃべりな、甘いものが好きな女子大生の情報発信力に期待出来る
東海道リレーイベントの連携のシンボルになる
お土産にスイーツは最適

5 **課題となっている
広報の手段は...?**
各宿事業の広報主体...WEBやSNS
しかし、WEBやSNS以外の認知が低い
そのため、あえてSNS以外の方法を主体に!
事業に「多くの人を巻き込む」仕組みを作ることで東海道宿場を広報!

6 **期待できる効果**
多くの人を巻き込む
観光客の増加
地元産品の認知度向上
地域活性化
観光客の増加
地元産品の認知度向上
地域活性化

7 **課題**
・予算の面
・静岡二峠六宿街道観光協議会との連携がとれるか
・製造～販売に協力してくれるお店への協力の依頼ができるか
・多くの人に事業へ参加してもらう工夫

8 **まとめ**
現状課題
効果的な広報の実施
提案
スイーツ = 媒体

丸子に行きました♡
@丁子屋

関連企画

シンポジウム「自転車をまちづくりに活かす オープンデータを視野に入れて」

基調講演「オープンデータの活用」

長谷川 孝 (横浜市政策局担当理事)

本市の取組みの特徴

「市民主導」
「協働・共創」

「お金を(なるべく)かけない」
「オープンデータの理念を忘れずに！」

オープンデータの活用モデル

LOCALGOOD YOKOHAMA

新機能追加！(2014.10.24)

スペイン発のOSS「GOTEO」を利用したクラウドファンディング、スキルマッチング、スマホ等を利用した投稿機能を追加！

横浜市オープンデータの推進に関する指針 (2014.3 策定)

➢ 基本的な考え方
意義・基本原則・推進体制等

➢ 具体的な取組の方向性

- WebサイトをOD化の基盤として再整備
- Webサイト上の公開情報は原則OD化
- 既存データはニーズの高いものを可能なものから順次対応
- 二次利用の条件は原則CC BY

(参照) <http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/opendata/>

今年度の取組方針

- オープンデータを進める基盤づくり
- オープンデータを活用した地域課題解決の仕組みづくり
- オープンデータによる地域経済の活性化

(2014.6.24 市長会見にて公表)

中期計画案をテーマにしたユース・アクション

- 本市の中期計画(策定中)の共有・協働・共創
- 若者(15~25歳)を対象としたアイデアソン・ハッカソン

10/19	アイデアソン	参加者にてアイデアソン・ワークショップ等を随時開催
12月	ハッカソン	データビジュアライズ部門 アプリ開発部門
1月	表彰式	

活用

アプリコンテスト@Kanazawa

➢ 金沢区主催、経済産業省・IPA等共催

「豪華」賞品あり！！

10/23	募集開始
11/24	アプリ制作ワークショップ
12/10	募集終了
1月	表彰式

新たなオープンデータ取組方針 (その1：基盤づくり)

- 統計データ・GISデータ等のOD化
- 市Webサイトの再構築・OD対応
- データカタログサイトの整備
- 県内自治体の連携の仕組みづくり

新たなオープンデータ取組方針 (その2：地域課題解決の仕組みづくり)

- 「LOCALGOOD YOKOHAMA」への協力
- 政策の創造と協働のための「横浜会議」を活用したフューチャーセッション等の開催
- 「かなざわ育なび.net」の機能拡充

新たなオープンデータ取組方針 (その3：地域経済の活性化)

- 企業ニーズの把握
- 横浜信用金庫様とのオープンデータ活用のための研究プロジェクト
- 不動産情報ストックシステムの試行(国土交通省事業に協力)
- 2020年をターゲットに「海外からのお客様へのおもてなし」のためのアプリ・サービスの開発

不動産情報ストックシステム (イメージ)

H27試行運用を目指す

(参考) 横浜市中区4か年計画2014~2017
～人中心企業も輝く横浜へ～(要綱)(抄)

1 「情報による創造」がより実現できる未来のまちを創る

「わかり」と「期待する未来」

① 国・自治体の共同での取組や、本市が保有する各種のオープンデータ化、連携のための仕組みの活用、検討などを積極的に進め、民間の創意やアイデアを引出していくことにより、未来のまちを創っていく予定です。

民間を創出する活動の場を充実し直す

● 横浜会議・共創プラットフォーム

● 様々な主体が互いの強みを活かし、地域課題や社会的課題に対応し、未来のまちを創出するために、オープンデータを基盤として「フューチャーセッション」を積極的に開催していく予定です。

● ICTの活用により本市の政策課題をわかりやすく表示し、民間と行政がオープンデータに基づき、アクションを実現するためのプラットフォームを構築します。

オープンデータを創出します

● 本市が保有する公開データをわかりやすく活用し、その活用を進めることにより、地域課題・社会的課題の解決を目指していきます。

● 観光や子育て、医療、福祉など多岐にわたる分野において新たなビジネスやサービスを創出し、経済の活性化や中小企業振興を図っていきます。

これからの課題

- そろそろ(オープン)データ活用の「わかりやすい成果」が求められるのでは？
- そのために必要なプラットフォームは？

 - データのプラットフォーム(データカタログ)
 - 対話のプラットフォーム
 - オープンイノベーションのためのプラットフォーム

- どのように実現するか？

 - 主体・システム・プロセス…

産・学・民・官の連携

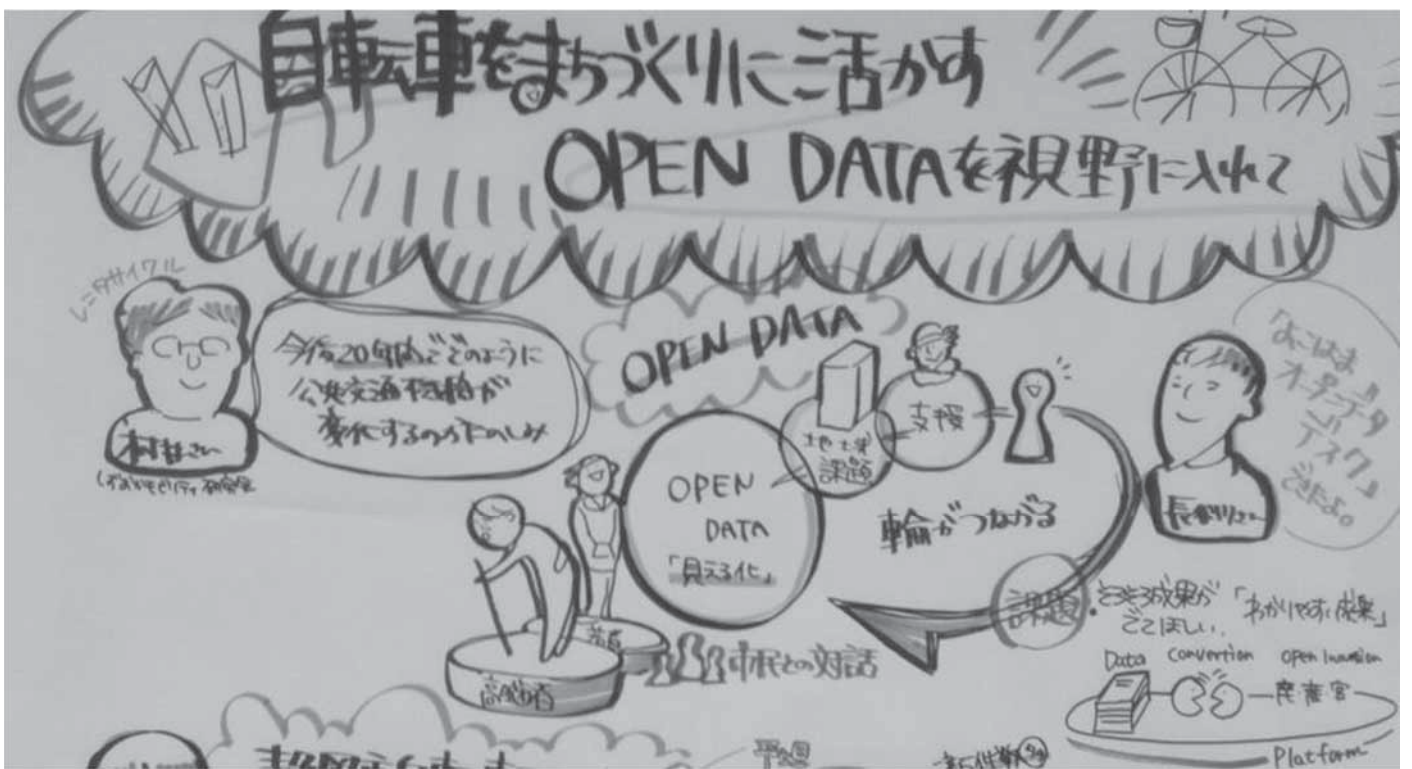
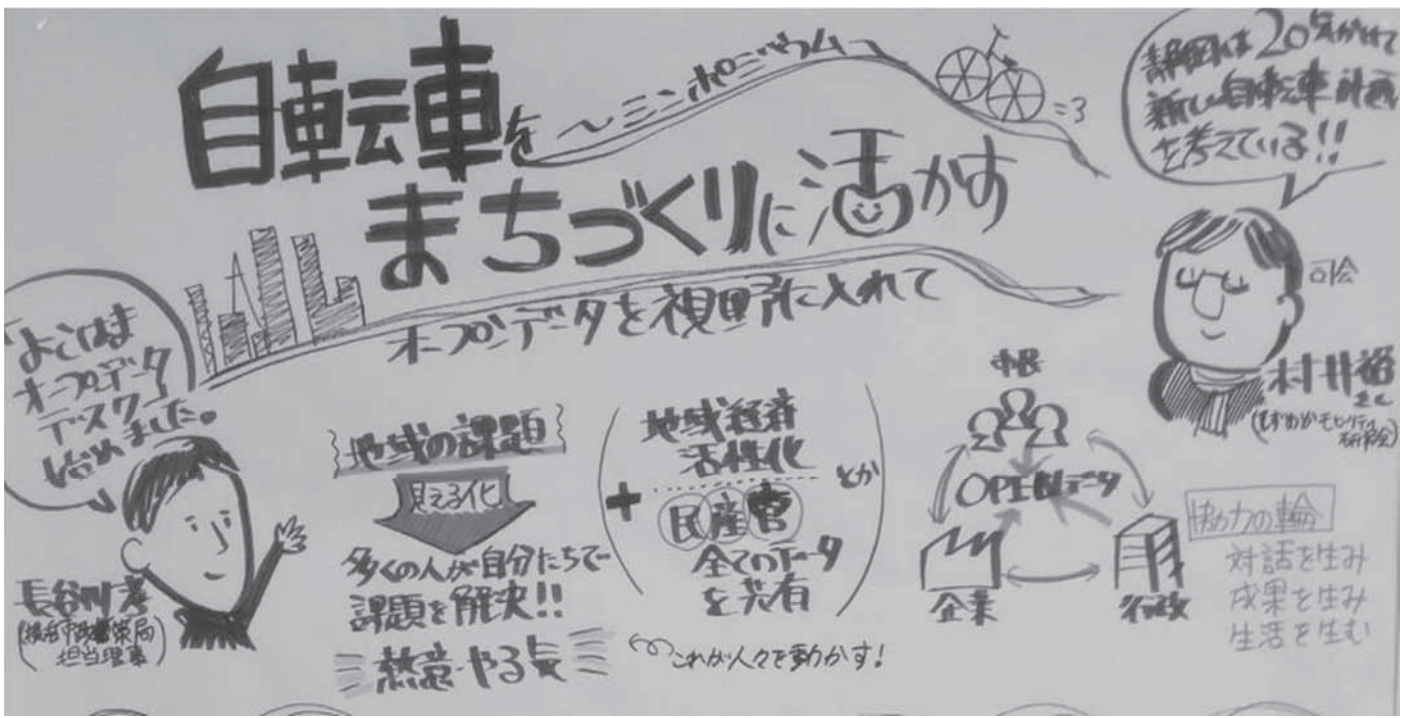
ということで…(とりあえず)

「よこはまオープンデータデスク」はじめました。

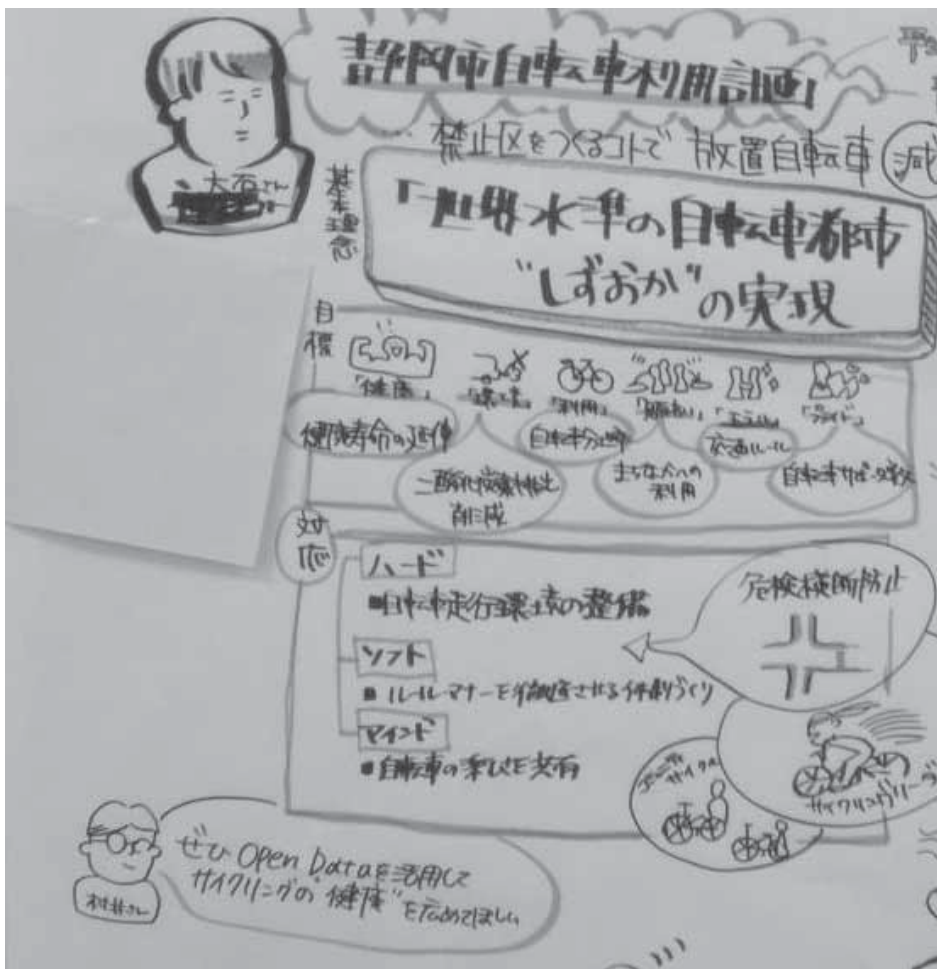
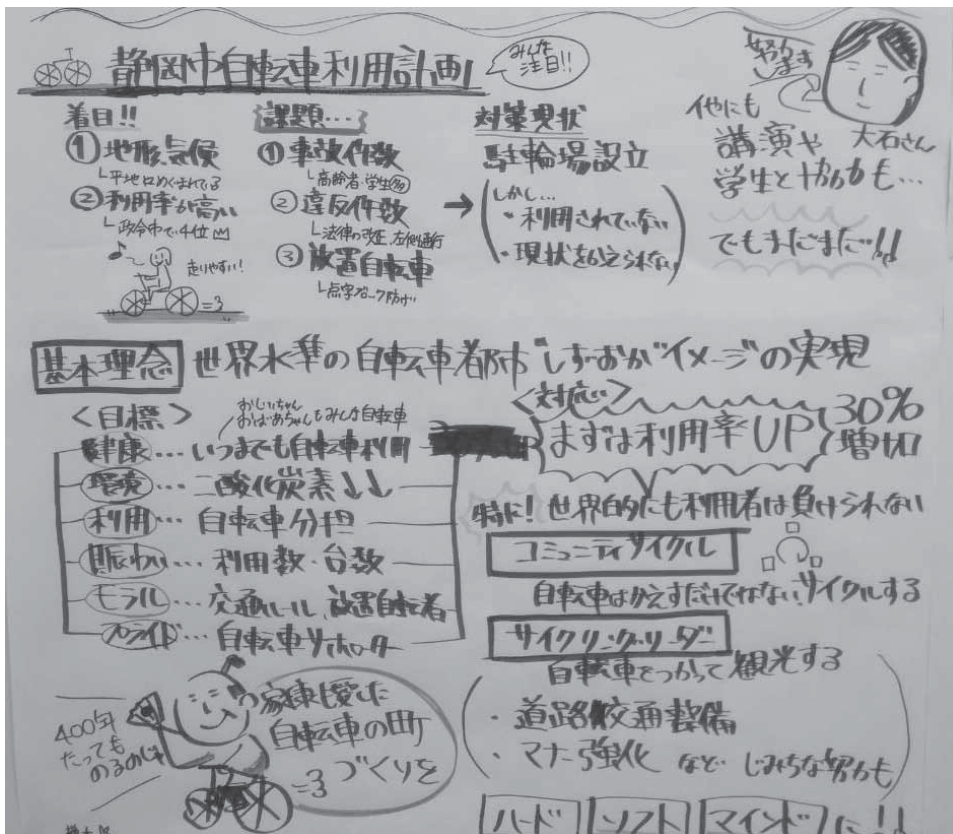
企業や大学、団体の皆様からの御提案・御意見・御要望…お待ちしております！ by #YOD

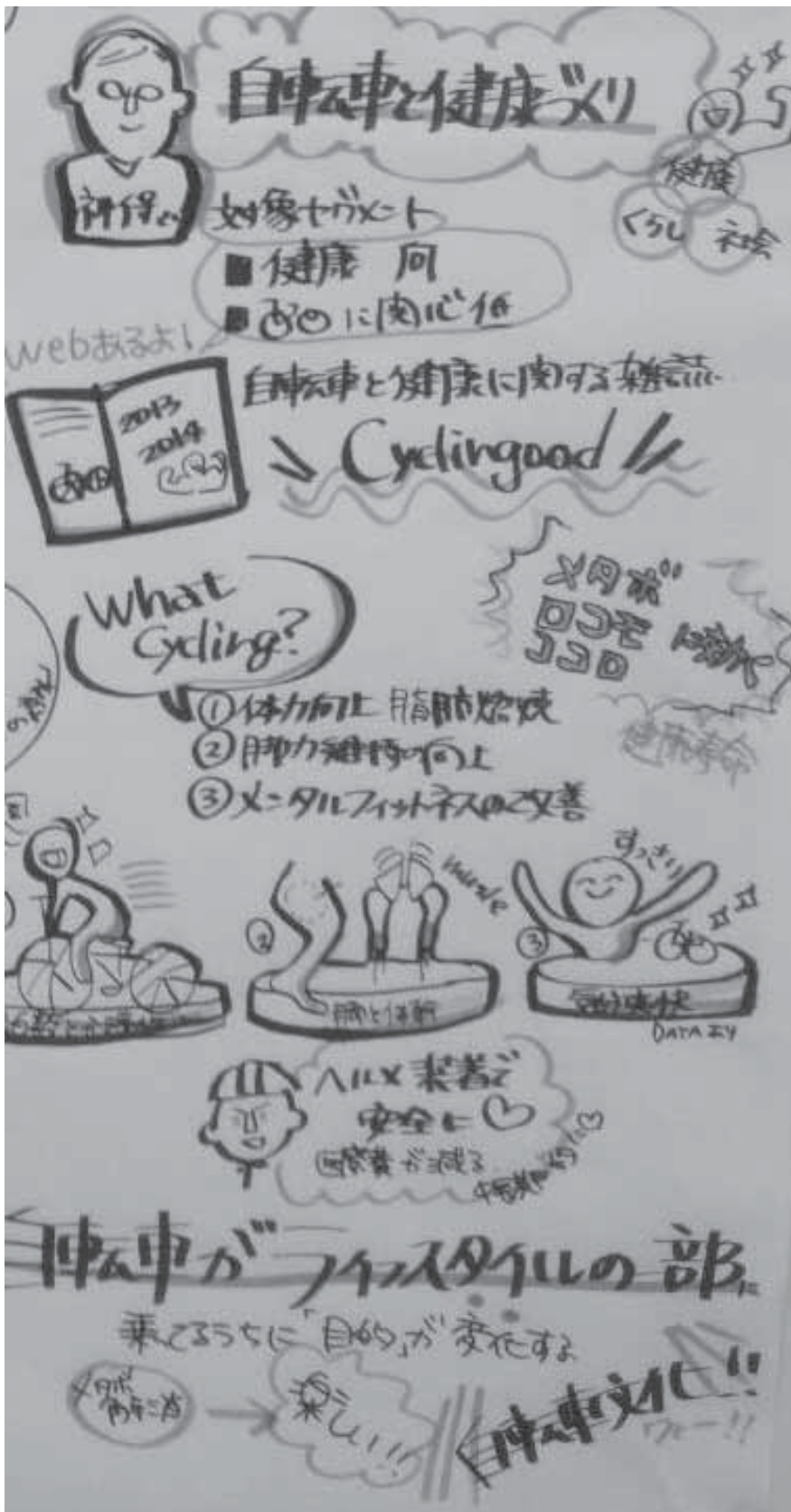
電話: 045-671-2066 (政策支援センター内)
e-mail: ss-seisaku@city.yokohama.jp

Do it ourselves!



静岡市自転車利用計画について—世界水準の自転車都市「しずおか」を目指して—
大石 博之（静岡市都市局都市計画部交通政策課補佐兼企画係長）





自転車と健康づくりに 関する活動



神保正典

(株) システムインテグレーション 代表取締役



自転車が健康に良いと知ってる?

背景: 働き手が減少 ↓ ↓
医療費負担の増加 ↑ ↑

健康寿命との差を縮めよう
21世紀の課題

Cyclingood

もっと健康の
情報にアクセスする
// WEBでも見よう!!

- ① 体力向上・脂肪燃焼
- ② 脚力の維持と向上
- ③ Xタボウェアの改善

自然-運動強度UP /
通勤通学にでも有効!!
心臓を大きく動かす体幹強化!!
インナーマッスル強化!!
自転車通勤に十分な
効果が得られる!!

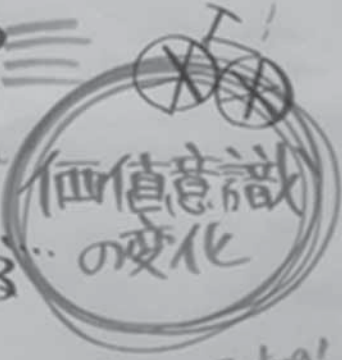
「Xタボ」ウェアが寿命を延ばす!!

自転車が
生活も体も
自由に
楽しむ

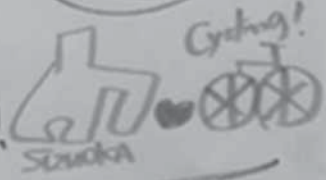
自転車を習慣化するには
ライフスタイルの一部

自転車文化が
健康を支える

あくまでも目的は自転車を知ることではない
1人1人の楽しみ方で目的は変化する



自転車好きの自転車で生活している
青甲田の人をもっと健康思考に!!



橋本

パネル・ディスカッション

「自転車をまちづくりに活かす オープンデータを視野に入れて」

【パネリスト】

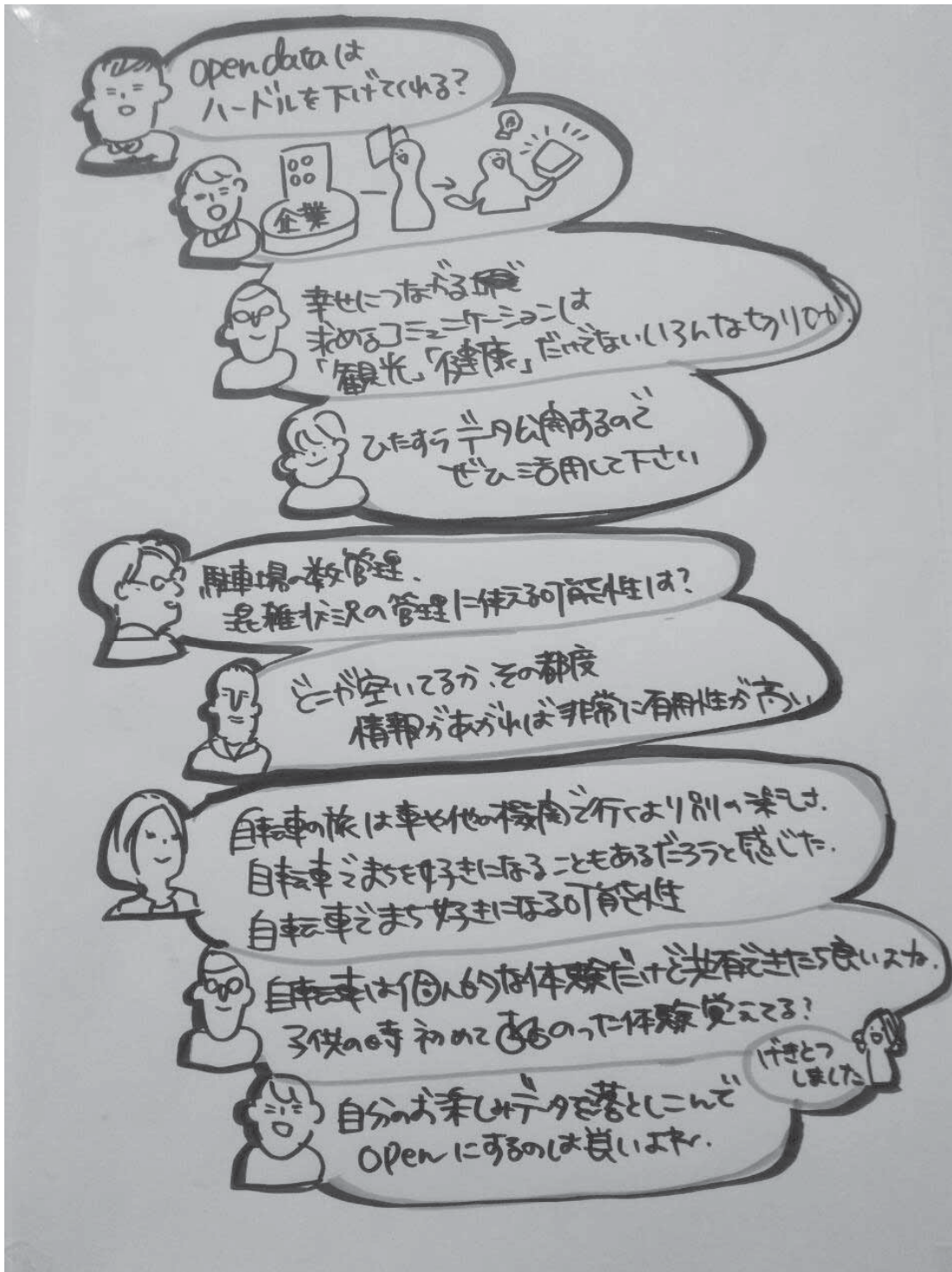
長谷川 孝 (横浜市政策局担当理事)

神保 正彦 (株式会社シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部企画部次長)

大石 博之 (静岡市都市局都市計画部交通政策課補佐兼企画係長)

大石 康晴

司会： 柴 由花





自転車MAPつく
 準備は完了、協力お願いします!!



自転車とまち



自転車は楽器。
 静岡は奏でよう



県役所の方から自転通勤!



実は自転通勤してます。



障害者に優しい
 まちづくり

自転車を明るいまちづくり

関連企画

「自転車地域資源を探そう」運営 しずおか・モビリティ研究会 協力 シマノ・OVE・常葉大学法学部

1. 「散走」

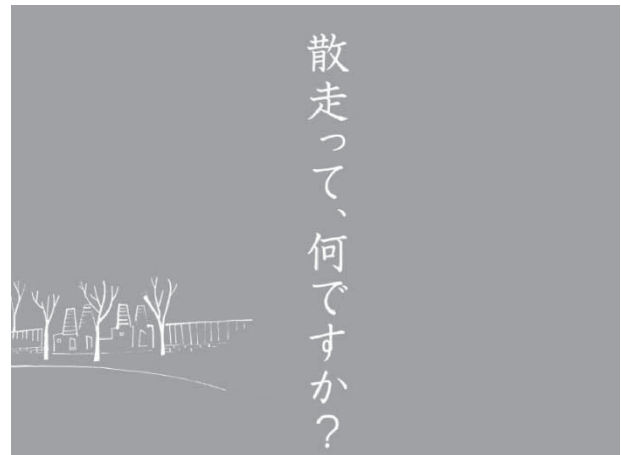
散走とは、目的を決めてから自転車で移動をすることです。つまり、自転車で何かを楽しむことということですが、今回参加して思ったことは、自転車で移動することにより体力をあまり使わないので気持ちよく移動ができるということと、移動距離が伸びるので今まで行ったことのないところに行けるので初めての発見ができるということです。散走は、その場へと移動して、目で実物を見ながら聞くことができるのが素晴らしいと思いました。(常葉大学法学部 2年 平口)



2. 「散走フォーラム」

散走終了後のフォーラムでは、基調講演の後、散走をした感想やどうしたら散走を広げていけるか、どのような散走をしてみたいかなどを行政担当者、常葉大学法学部・教育学部の学生等が話し合った。

基調講演 白石 博昭 (LIFE CREATION SPACE OVE 中之島)



散走って

自転車が目的ではなく、経験する楽しさを大切に。

様々なコト・モノに触れて感じる“経験”を通して価値感を広げ、他の人と共有する喜び。

自転車+「α」=散走

「α」= 楽しい・おいしい・気持ちいい

『文化芸術/歴史/地域/食/自然/風景etc.』

散走って

- 散歩をするような感覚で、ゆったりと気持ちよく。自転車で巡ることでの様々な発見や、出逢い。
- 新しい「発見」と「経験」を通して生活の価値と連帯感を生み出す
- ありふれた日常を、贅沢に過ごす感性を育む
- 屋外で感じる風や四季を味わいながら
- 自転車は、「線の旅」。移動の余白時間も楽しい。

6月7日(土) 10:00~12:00
散走フォーラムの様子



真庭市長より、「自転車まちづくり」へ向けたご挨拶

神シマノ神保次長よりご挨拶

「散走」は、観光地巡りではなく
そこにしかない資源を巡りながら、
そこにあるストーリーをご案内しています。

そもそも、散走は主催者と参加者のコミュニケーションの中で
興味や、関心ごとなどを探りつつ、
内容をアレンジ組み立てていく・・・。

そこが散走を御案内する側のセンスであり、
散走づくりの醍醐味とも言えます。



神シマノ白石より「散走」レクチャー

神シマノ阿部より「自転車と健康」レクチャー

OVE南青山散走スタッフ
松田より「散走」アドバイス

ディスカッション 散走をした感想・どうしたら散走を広げていけるか

神保
散歩
・ 自転車で行く景色に出会う人を楽しむ。
・ スポードで行く、サウズ

パンフ
↳ 自転車初心者のため。
昨日のセミナー
↳ 健康と自転車

白石さん (大阪府)

散走 = 自転車でも楽しむ遊び

↓
自転車で遊ぶ以外の楽しみ!

目的ももって自転車で
目的地へ行く。
軽い気持ち

散歩

・ 甲斐の気持ちで
↓
新しい発見と経験
↓
生活の価値、通感

・ 通感を特別に!

・ 四季。

大阪 中ノ島

ターゲット (女) 建築散走

→ 電車の特等時間おたいたい。

高低さのない走りやすいコース選が

大阪府立中ノ島図書館
地元の人にも楽しめるコース!

・ 歴史を矢の通りコース

写真散歩 (春夏秋冬)

- ・ カメラ片手に
- ・ どの季節も写真として、みんなに見せよう。
- ・ 季節にテーマが変化。
↳ 同じコースでも楽しめる。

OVE 中ノ島 散走

〈例〉

大阪七福神散歩

4月 オランダ } 店舗と
5月 イタリア } 同時開催

トワイライト散歩 (夏) 夜明け
↳ 暑さを避けた時間!

季節 土地柄 歴史 活かし。

OVE 南青山 (東京)

両国 さんぽ散歩

↓ 食べ物はみんな好き。

普段自転車に乗らない人に乗ってほしい
スイーツ ← 女子好き! 散走はか

・ カラで作。に弁当でピクニック

眷属同にも資源がある。

- ・ 日常の中に非日常がある!
- ・ 身近なところにある資源をどうやって探りおこすか
「SANSO」を日本発に!

興味?

・ 参加者は速く観光客?
↓ 地域から

大阪 ← ほぼ近畿圏。電車で1時間以内に来れる人が多い。

神保

・お昼に自転車は皆同じカゴ。

同じ ↓ 機能。

・コース。

大阪 店 ~ 店

南青山・裏の解散
兼合

① 質問 告知はどうしてる?

↓

A: 1か月前

↓

金額が出たのをご理解の為に困る。

② 希望者
リポーター率

3割 (青山)

半分 (大阪)

いきなり一人ご始めるよりは
あつらいがいい。

観望
女子 → 6.7割

お店に
来られる人 男子が9割 6.7割

年齢層 → 30.40代

1日 → 8000円

半日 → 3000円 ~ 4000円

最大 8% ← 9ヶ月ほどと
月が属する。 (半年性)

散歩
やる TPO が大切!!

× 東京の休日の朝: 気持ちよく
走れた。

お客様のご感想

②

・ きんじ 散歩

80代の方が参加

① のちのち 30年ぶりの交小生。

↓

「ママナリ出えろか?」

・ 下町散歩

・ モーニング散歩 華地: 賑 (おいしい)

・ オランダ散歩 ← オランダ使

自転車
写真とメール: DVD とお手紙
↓
散歩後 1週間後に送る

天気 → 雨だと中止。 年返金額

安全面、リスク

・ 保険に入っている

・ ヘルメット, グローブ 義務

・ 下見 → リスクの少ない道に。

★ 事故は一度もない。

安全第一

・ サイ2"合わせ

・ ① の使い方のおさらい } 最有力

神保 さん

何で面白い!! (4) 的

一人 散走

↓

多めにガイド付き〇〇に行かせる。

- ・年に1回だけ単発開催で済ませて、
- ・日常的に活用。

↓

新メニューに開けろって散走。

栗

オープンマーケット活用

地域資源 "

実は静岡の人が静岡の歴史を知らない。

若狭

↑

まだまだ魅力ある。

人口減、リソースない

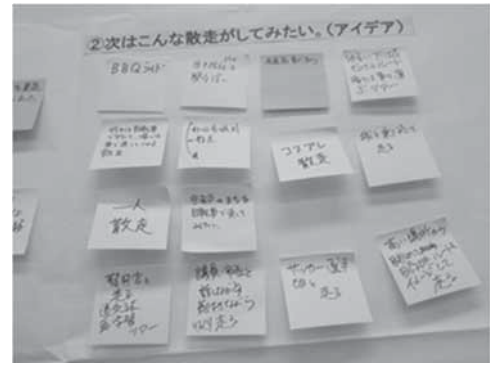
↓

静岡今再興してる!
今しか行かない!

・今更にはない方法

・若い人へのアウトプット

・静岡にシリコンバレー



●車の交通量などを考えると静岡よりも清水の方が散走をしやすいという意見がありました。どんな散走をしたいかでは、食べ物探しなどの他に下駄散走や家康公記念散走など静岡ならではの意見もありました。

大学生が散走へと興味をもつにはどうしたらいいのかをフォーラム中考えていましたが、あまり意見が思い浮かばずまとまりませんでした。サークル作りが今のところ大学生が一番参加しやすい形かと思います。(常葉大学法学部2年 平口)

●静岡と清水の見どころを自転車で走りながら周る企画だった静岡散走プロジェクト。初めて走る道や初めて見ること、知ることが数多くあり、単純に自転車で走る楽しさ以上のことを感じる事ができた。

散走を通して、静岡・清水の歴史資源は人目につきづらい場所や気づかない場所にあることが多いことがわかり、新しい資源がまだ静岡には隠されているような予感がした。それと同時に、歴史資源の解説がその資源の魅力や重要性を知る上で重要であることを感じ、歴史資源について知る人や知識を守り継いでいくことも大切であると感じた。

印象深く残っていることは、散走プロジェクトに参加している人たちが年齢・性別を問わず議論をし、楽しそうに話している姿だった。サイクルトレインの中では一般で参加した市役所職員の男性と OVE の方が静岡の魅力とサイクルトレインの良さを語り合っていて盛り上がっていた。

大学に帰ってきた後の話し合いでは、誰もが真剣に今日の一日や出されたテーマについて考えていた。「アイドルと散走！」とか「一年に一度『自転車デー』を」といった自分では思いつかなかったユニークな意見がたくさん出て、参加した方々の熱意を強く感じる事ができた。

自転車で走ることは健康にもよく、散走ではそれに加えて地域資源の有効活用も期待できるため、これからの発展が楽しみである。また散走には自転車に走りやすい街であることが重要であり、話しあいにも出たように自転車の乗り手のマナーや自動車側の意識、道路の整備なども必要になってくるので、これからのまちづくりにおいて自転車に乗る人の意見も取り入れられるように自分からも意見を発信できるようにしたい。(常葉大学法学部2年 長田)

おわりに

2013年の人口移動報告によると、静岡県は転出者が転入者を上回る転出超過が6892人で、最多の北海道（8154人）に次ぐ全国ワースト2位であった。静岡市（775人）と浜松市（411人）の両政令市でも人口流出が拡大している。こうした人口減少にはさまざまな要因が考えられるが、雇用の場が縮小しているのが大きいと考えられている。人口減少を食い止めるためには、雇用の創出を図り²、若者（学生）をはじめとした人口の県外流出を防ぐ必要がある³。

本公開講座および関連企画では、地域資源の価値を活かしたビジネスによって、学生の雇用を確保しかつ地域を活性化が可能かどうか多様な角度から検討を加えた。

公開講座や関連企画を通じて、静岡市における地域資源（清水日の出地区の倉庫群や北街道の歴史的な地域資源、静鉄沿線各駅の地域資源）を発掘することができたが、地域資源を活用するためには、行政によるハードの整備だけでなく、地域資源を使ったストーリーというソフトの充填が必要である。さらに、地域資源の価値を活かしたビジネスを創出するには、学生によるインターンシップや「散走」等を通じた地域資源の価値に気づく機会の創出もまた必要である。

現在の地域の大きな課題は、人口減少であるが、地域課題が解決されることによって地域資源にもなりうることが示唆された。オープンデータや自転車による「散走」はこうした解決の糸口になるものと思われる。

今回の公開講座ならびに一連の関連企画を通じて、大学間のみならず、行政や企業、市民団体の方々と連携することができた。大学が地域とともに課題を共有し、連携できる素地が形成されたと感じている。

公開講座、関連企画に携わってくださった多くの方々、ならびに大学コンソーシアム静岡からのご支援に心から感謝申し上げます。

以上

²「第1回大学生等就職フェア」におけるアンケート調査結果によると、静岡県に多くの人が住んでもらえるようになるために大切なこととして、全体、男女別、地域別のすべてにおいて、「仕事や就職先」の割合が最も高く、次いで「公共交通機関」となっている。

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-220/documents/02daigakuseiisikityousakeka.pdf>

³静岡県は平成26年7月に「人口減少問題に関する有識者会議」を設置した。

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-220/jinnkou.html>

平成 26 年度 ふじのくに地域・大学コンソーシアム共同公開講座

常葉大学 / 東京大学 / 静岡県清水海産物産局 / 静岡市産業振興課 / 静岡市まちづくり公社 / しずおかオープンデータ推進協議会

学生の手で地域資源を 探して・活かそう！

全3回開催

9/6
SAT

10/12
SUN

11/15
SAT

地域の活性化のためには、地域の資源を活かすことが重要です。学生が地域資源の発掘や開発に関わることで、地域で生きる人材の養成に役立ちます。また、学生の若い活力を吹き込むことで、新たな事業展開の可能性が生まれます。本公開講座では、講演やパネル・ディスカッションだけでなく、学生による地域資源の発掘と調査発表を通じて、地域の活性化について考えたいと思います。

主催：静岡県、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム
共催：常葉大学法学部 地域法政策研究・実践センター

第1回 学生による地域資源を活用したビジネスの可能性

9月6日(土) 14:00-17:00

(清水マリビル7階：静岡市清水区日の出町9-25 / 定員：100名)

第2回 学生による地域資源を活用したアートイベント「ミナトフンカサイ 2014」

10月12日(日) 12:00-19:00 (雨天の場合、10月19日(日)に順延)

(清水港日の出地区特設会場：静岡市清水区日の出町3 / 定員：100名)

第3回 学生と地域資源としての文化・景観

11月15日(土) 14:00-17:00

(常葉大学水産校舎：静岡市葵区水産町1-30 / 定員：200名)



申込み不要
入場無料！

★詳細はホームページにて

ふじのくに地域・大学コンソーシアム：<http://fujinokuni-consortium.or.jp/> / tel 054-249-1818

学生による地域資源を活用した ビジネスの可能性

9月6日(土)
14:00-17:00
会場：清水マリンビル7階

学生が地域資源を新たな視点で捉え直すことでイノベーションを創出することが可能になります。また、学生のインターンシップが地域活性化や地域資源の発掘につながることも考えられます。学生に地域活性化の配種剤として期待するだけでなく、学生による地域資源を活用したビジネスの可能性について、考えてみませんか。

公開講座とパネルディスカッション

国際ワークショップ
CitySwitch でまちのビジョンをつくる
山代 悟
(ビルディング・ランドスケープ主幹)

**市街地・商店街活性と
学生インターンシップ**
宇賀田 栄次
(静岡大学学生支援センター・特任教授)

静岡・清水の中心市街地活性化の現状
松浦 高之
(静岡市役所企画政策課・課長)

パネル・ディスカッション
山代 悟 / 松浦 高之 / 宇賀田 栄次
黒田 武史 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・助教)
一ノ瀬 彰 (筑城大学工学部都市システム工学科・助教)
司会：柴 由花 (東京大学法学部・准教授)

関連企画

海の機能変化にともない将来の再生イメージが議論されている清水湾日の出地区。ここに今年5月、東京理科大学、大連理工大学、ソウル科学技術大学から日中韓の学生が集い、日の出地区の未来像を導き出す4日間の集中ワークショップを行いました。今回はこのワークショップの成果をもとにそれぞれ発表させた提案をもちより、海の未来像を発表します。

「CitySwitch みなとふじ2014」
清水湾日の出地区再生 日中韓国際ワークショップ 成果発表会

9月6日(土) 10:00-12:00
(会場：漁港路14階展示室(マリンビル7階)の公開講座とは会場が異なります)

主催：東京理科大学、CitySwitch Japan
協力：大連理工大学、常葉大学、鈴木株式会社

清水マリンビル7階 | 静岡市清水区日の出町1-25
公開講座14階 | 静岡市清水区漁町1-19-1
展示室、新清水駅より徒歩1分
二階山の歩道「遊歩道フェルトール博物館」7分



東京電機大学 CitySwitch みなとふじ 2014

清水港日の出地区再生 日中韓国際ワークショップ 成果発表会

2014年9月6日(土)10:00-12:00
@ 清水マリンビル別館 (浪漫館 14階)

港の機能変化にともない将来の再生イメージが議論されている清水港日の出地区。ここに今年5月、東京電機大学、大連理工大学、ソウル科学技術大学から日中韓の学生が集い、日の出地区の未来像を描き出す4日間の集中ワークショップを行いました。今回はこのワークショップの成果をもとにそれぞれ発展させた提案をもちより、港の未来像を発表します。

開催日時：2014年9月6日(土)10:00-12:00

開催場所：マリンビル別館 14階展示室(浪漫館 14階)

静岡県清水区港町 2-10-1 浪漫館 14階

参加申込：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問い合わせ：CitySwitch Japan 事務局 cityswitchj@gmail.com まで。

主催：東京電機大学、CitySwitch Japan

協力：大連理工大学、晋慶大学、鈴与株式会社

関連イベント：

平成26年度 ふじのくに地域・大学コンソーシアム共同公開講座

「学生による地域資源を活用したビジネスの可能性」

日時：9月6日(土)14:00-17:00

場所：マリンビル7階

主催：静岡県、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

共催：晋慶大学法学部 地域法政策研究・実践センター





あなたはまだ
本当の清水を知らない。



ミナトフンカサイ

10月12日(日)
12:00-19:00

雨天の場合、10月19日(日)に延期
会場：清水港日の出地区特別会場

清水地区の発展に、街路は非常に誇りに行け、水産資源の活用が求められています。特に10月12日(日)は、この期間一時的に閉鎖される清水港が、臨時会場である臨時の開催です。清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。



「ミナトフンカサイ2014」コンベンション(1)

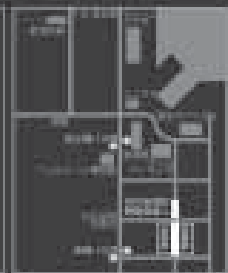
清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。

公開講座とパネル・ディスカッション 14:00-18:00

1、「地域発展としての清水港の活用可能性」清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。

2、「清水港の活用可能性」清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。

3、「清水港の活用可能性」清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。



清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。

清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。清水大学観音寺キャンパス(清水大学観音寺キャンパス)は、この臨時会場を特別会場に活用し、二日間開催した「ミナトフンカサイ」を2014年中開催しました。

常葉大学

造形学部ビジュアルデザインコース × 法学部

第12回地域活性化勉強会



静岡鉄道沿線と北街道の地域資源

What is there MAP 静岡鉄道沿線とは何か？インフォメーショングラフィック（地図）の研究

平成26年11月6日(木) 12:00-14:30

常葉大学 水落校舎内

静岡鉄道沿線や北街道（ジャストライン静岡-清水線）には地域資源がたくさんあります。

このたび造形学部の学生（専攻科目「インフォメーションデザイン基礎C（2年生）」）が、静岡鉄道の各駅を中心に、周辺にある情報を「観察」「取材」「収集」して、実利的+研究的に意味のあるインフォメーショングラフィックを制作しました（パネル B2 サイズ 515mm×728mm）。新静岡、日吉町、音羽町、県総合運動場、美術館前、草薙、御門台、桜橋、新清水の駅ごとに、沿線の、目に見えない価値を明らかにするという課題に取り組みました。他方、法学部の学生（2年生）も、地域政策学基礎演習IIにおいて、北街道の地域資源を再発見し、Mapを作成しました。昨今、情報の可視化が言われており、情報を文字だけでなく、デザインで伝えることが求められています。こうした学生の取り組みが地域の良さを生かした新しい街づくりや新規ビジネスの可能性検討の一助になることと思います。どうぞお気軽に見学にいらしてください。

11:30～12:00 受付・昼食

12:10～13:30 プレゼンテーション

造形学部9チーム（計29名）+法学部 柴ゼミチーム（計13名）

学生がパネルを用いて、取材や調査の過程と、明らかにした低価値情報を説明。

13:40～14:30 ピア・レビュー、講評（安武・柴ほか）

進行 常葉大学 造形学部准教授 安武伸朗・法学部准教授 柴 由花

主催：静岡県・一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

共催：常葉大学造形学部 法学部 地域法政策研究・実践センター

平成 26 年度 ふじのくに地域・大学コンソーシアム共同公開講座
 常葉大学 / 東京大学 / 東京電機大学 / 静岡県清水港管理局 / 静岡市商業政策課 / 静岡市まちづくり公社

学生ので地域資源を 探して・活かそう！

地域の活性化のためには、地域の資源を活かすことが重要です。学生が地域資源の発掘や開発に関わることで、地域で生きる人材の養成に役立ちます。また、学生の若い活力を吹き込むことで、新たな事業展開の可能性が生まれます。本公開講座では、講演やパネル・ディスカッションだけでなく、学生による地域資源の発掘と実践発表を通じて、地域の活性化について考えたいと思います。



学生と地域資源としての文化・景観

11月15日(土)
14:00-17:00

会場：常葉大学水蓬校舎
※場所は裏面参照

文化や景観は重要な地域資源です。オランダのアムステルダムを参考に、住民がどのように世界文化遺産を承継していくのか、その仕組み作りを考えます。また、文化や景観といった地域資源を活用するためには、アクセスのための情報が不可欠です。オープンデータを活用した情報発信を考えてみましょう。

公開講座とパネルディスカッション

1. 「地域活性化と税のインセンティブ
オランダの文化保護政策を例として」 演者あり

シグリッド・ヘルムス

(オランダ エラスムス大学法学部教授)

*本講座への参加費、懇話会費等は日本学生協会の協賛により無料です。

3. 「静岡の地域資源とアクセシビリティ：
オープンデータの活用」

大石 康晴

(しずおかオープンデータ推進協議会 事務局長、
Open Data しずおか、edf inc. 代表)

2. 「世界文化遺産・三保と富士山の文化的価値
熱海市伊豆山及び房総半島からみて」

鈴木 俊

(千葉県 国土整備部用地課)

パネル・ディスカッション

長谷川 孝 (横浜市政策局 担当理事) /
 関川 清明 (御伝達まちづくり株式会社) /
 石川 裕之 (静岡市総務局 行政管理部情報管理課) /
 大石 康晴 / 渋谷 薫 (常葉大学教育学部 教授)
 司会 栗由花 (常葉大学法学部 准教授)



申込み不要
入場無料！

★詳細はホームページにて：<http://fujinokuni-consortium.or.jp/>
 ふじのくに地域・大学コンソーシアム：tel 054-249-1818
 主催：静岡県、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム
 共催：常葉大学法学部 地域法政策研究・実践センター

第3回

学生と地域資源としての

文化・景観

関連企画1

シンポジウム

「自転車をまちづくりに活かす
オープンデータを視野に入れて」

11月15日(土) 17:30-19:30

会場：常葉大学水落校舎（申込み不要・無料）

長谷川 孝（横浜市政策局 担当理事）

村井 裕（しずおかモビリティ研究会）

神保 正彦（(株)シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部長）

静岡市役所交通政策課

ファシリテーター 柴由花（常葉大学法学部 准教授）



関連企画2

「自転車で地域資源を探そう」
第1回 シズオカ散走プロジェクトを開催します。

11月16日(日) 散走 9:30-14:00
フォーラム 14:30-16:30

静岡は自転車のまち。自転車散走+郡歌サイクリストレーンで、地域資源を周りにでかけましょう。散走終了後には、常葉大学水落校舎で街シマノのご協力をいただき、散走フォーラムを開催します。フォーラムのみの参加も可能です。

（雨天の場合は、常葉大学水落校舎でフォーラムのみ開催）

定員：20名（申し込み先着順）

費用：2500円程度（昼食・保険料・運賃を含む）

集合：園匠公園 解散：常葉大学水落校舎

申込み先：wbs08751@mail.wbs.ne.jp

主催：しずおかモビリティ研究会

共催：常葉大学、静岡市、静岡市景観文化推進ネットワーク協議会

後援：公益財団法人静岡観光コンベンション協会、街シマノ、LIFE CREATION SPACE GIVE

常葉大学水落校舎：静岡市清水区水落町1-4-1
乗車バス（送迎バス）より・徒歩約15分
JR「静岡駅」より徒歩15分・静岡駅南口「新静岡駅」より徒歩10分



第3回「静岡2.0」フォーラム
今、私たちができる「地域」づくり

第3回 「静岡 2.0」フォーラム
今、私たちができる「地域」づくり（全2回）

企画・運営：静岡 2.0

◆第1回 沼津会場 「地元学」から学ぶ手づくりの地域づくり

【概要】

日時：平成26年11月23日（日）10時30分～16時

会場：沼津市立図書館第4講座室

目的：地域住民が主体となり、自分の住む地域の魅力を発見し地域づくりに役立てる「地元学」の手法を学ぶ。同時に、参加者同士がつながり、今後続く連携をつくる。

講師：吉本哲郎氏（地元学ネットワーク主宰）

【内容】

1. 講演

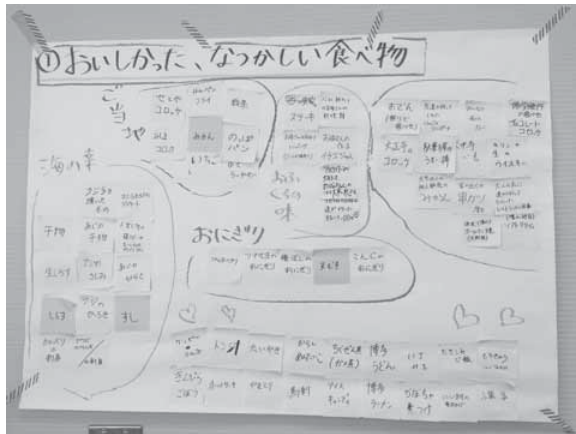
地元学を始めた経緯や今まで実践してきた地元学の事例についてお話していただいた。水俣病で疲弊した水俣市のため、自分たちの足元の環境を調べ、ものづくりや生活づくりに役立てていくための「地域資源のマップ」づくりから地元学は始まった。根底には、「水俣病のことは外部の人たちが調べてくれたが、実際にその地に住む水俣の住民は詳しく知らなかった」という事実がある。そこで、「まず自分たちで調べて、今に活かしてこう」、「自分たちのことは自分たちでやるという自治する力を据えないかぎりには、持続的な取り組みは不可能」という考えのもと地元学が進められてきた。

吉本氏は冷蔵庫を開けて『あれがない、これがない』と言って料理するのは二流、『あるもの』で料理するのは一流、『黙って』やるのは超一流であり、地域に住む普通の人々は超一流だ」とたとえを用いて述べ、地域に住む人々の持つ何気ない生活の中で培われた知恵や技術、魅力の価値を評価した。

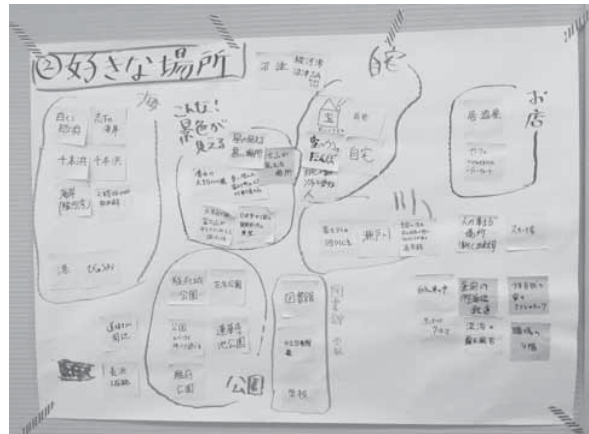
2. ワークショップ

①5項目インタビュー

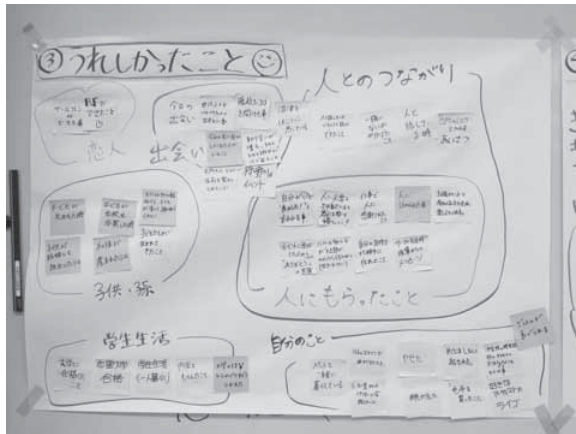
地元学では、地域の人々に様々なインタビューを行う。その体験版として（1）おいしかった、なつかしい食べ物、（2）好きな場所（3）嬉しかったこと（4）大事にしていること（5）あなたの地元を一言で表すと という五項目の質問で参加者同士でインタビューし合い、お互いの共通点などを探った。



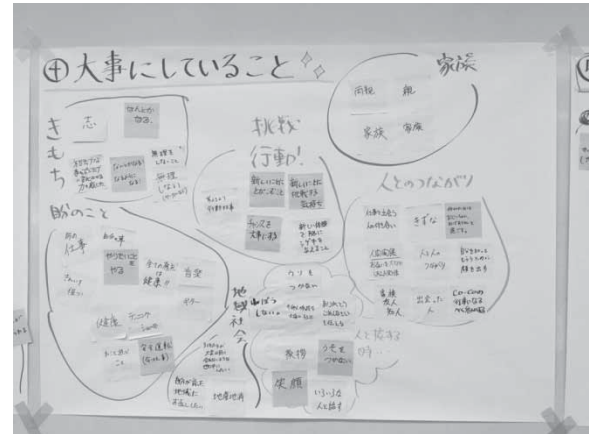
(上：インタビューで出た答え・問①)



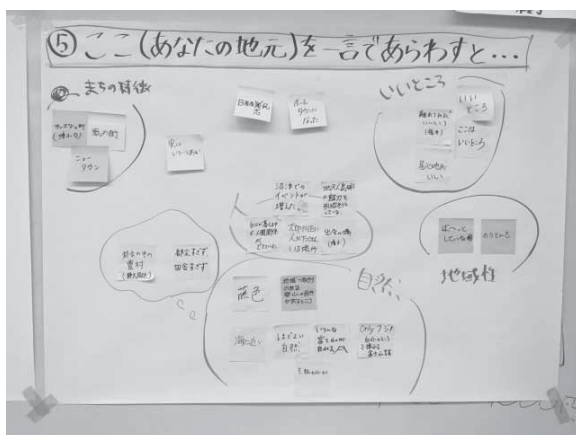
(上：インタビューで出た答え・問②)



(上：インタビューで出た答え・問③)



(上：インタビューで出た答え・問④)



(上：インタビューで出た答え・問⑤)



(上：ワークショップの様子)

②川の形を知るワークショップ

地域の個性を把握することを重視する地元学では、自分たちの住む地がどのようなところなのかを表現する。そのための手法の1つとして、地域に流れる川の形を見ることでどんな形に見えるのかを考える方法がある。当日のワークショップでは、会場である沼津市内

を流れる狩野川を地図上で色塗りして、その形がどんな形に見えるのかを参加者同士で考えた。

参加者からは「蝶の羽」「腕の血管」「蟻の巣」「葉脈」「鳥の羽」など様々な見え方が挙げられた。川の形は世界中でも、その地にしかない唯一無二のもので、地域におけるひとつの個性だと吉本氏は述べた。



(上：ワークショップの様子)



(上：ワークショップの様子)

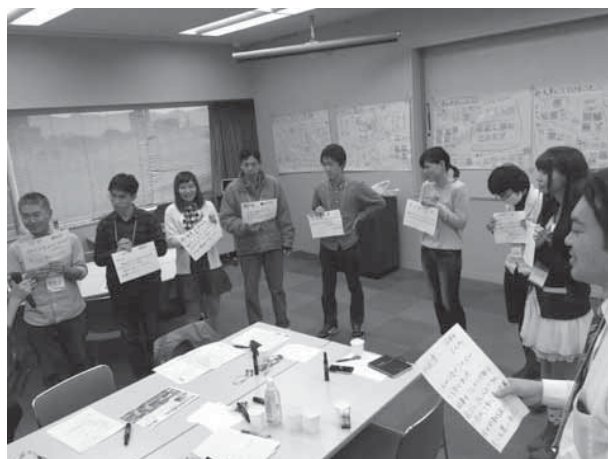
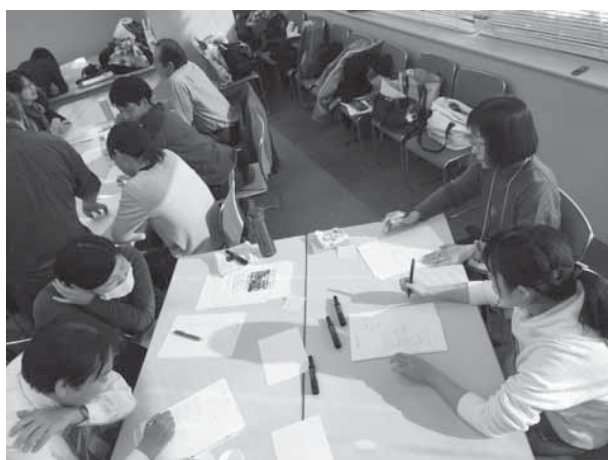
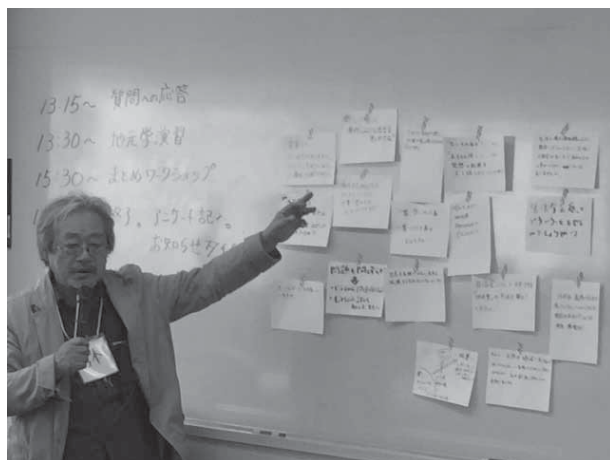
【フォーラムに寄せて】

本フォーラムでは、地域の魅力を地元に住む住民自身が発見し、それらを活かすという地元学の理念とその手法を学ぶことを目的として開催された。地元学では、住民自らが地域の活力を生み出していく過程に絵地図の作成や、街歩き、インタビュー等があるが、これらのアクティビティを静岡県内でも実践するきっかけになったと思われる。

基調講演と2種類のワークショップを通して、実際に体験しながら手法を学ぶとともに、フォーラムを通じて参加者同士に新たなつながりが生まれた。

今後の課題は、今回のフォーラムで得た知識を、実際に静岡で活かしていくことにある。開催地である沼津市では既に静岡 2.0 でも「沼津ひろば」というくくりで地域での活動が始まっている。この活動で今回の地元学を活かし、同時に、フォーラムの参加者に「沼津ひろば」への参加を促すことで、今回のできたつながりを継続していきたいと考えている。

【フォーラムの様子】



◆第2回—被災地から「人間のための復興」とは何かを学ぶ—

【概要】

日時：平成27年2月1日（日）13：00～17：00

会場：牧之原市役所榛原庁舎 4階会議室（牧之原市静波447-1）

目的：東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難で全国に散らばった富岡町民をつなげ、被災者の声を政策につなげる活動を行う市村高志氏と、その活動をともに行う山下祐介氏から、「人間のための復興」とは何かを学ぶ。

そして、大地震による被災が予想される静岡に住む私たちが、いつ訪れるかわからない「復興」のために今何ができるかを考え、伝え合い、新たな動きへの第一歩とする。

講師：市村高志氏（とみおか子ども未来ネットワーク理事長）

山下祐介氏（首都大学東京准教授）

【内容】

第1部：基調講演

基調講演は、市村氏・山下氏共著の『人間なき復興』の内容を山下氏が紹介しながら、市村氏が当時のエピソードを紹介するという形でご講演いただいた。

原発事故とそれによる避難に関する、私たち国民の「不理解」により、被災者が復興を目指すことをあきらめてしまったり、自ら「被災者」であることを断ち切ったりしてしまうという動きがあるとご講演いただいた。また、復興に当事者である被災者が参画していないこと、現在なされている復興が住民のためのものではなく、経済優先のものになっているなど、復興と当事者の想いの乖離や矛盾なども述べられた。富岡子ども未来ネットワークはそのような状況で、全国各地で富岡町民が集まって話をする「タウンミーティング」を開催し、そこから上がった声を集約し、政策につなげていく活動をしているとご講演いただいた。

第2部：ワークショップ（進行：静岡2.0）

市村氏・山下氏のご講演を受け、静岡に住む私たちが、今何ができるかについて、参加者の皆さんとともに考え、伝え合った。

「私たちが求める復興のために、あなたが1年以内にできることは何ですか」という問いでは、「まずはご近所さんからつながる」「地元へ愛着を持つ」「自分から動いて情報発信する」といった答えをいただいた。特に、「人が集まってつながりあう場をつくりたい」という答えをいただいたのが印象的であった。

【フォーラムに寄せて】

静岡県は将来、大地震が予想されており、津波による甚大な被災が懸念されている。また、静岡県は中部電力浜岡原子力発電所を有しているため、東日本大震災での福島県での出来事は、私たち静岡県民にとって他人事とはいえない。今回の静岡2.0フォーラムでは、原発事故による避難や復興を全身で感じている市村氏と山下氏に、現在の復興のあり方や人間のための復興とは何かということに参加者の皆さんと共有し、考えることができたのはとても有意義なことだと感じている。市村氏から、「何かあったときに関係性を築くのは難しい。だから、何か起きる前に関係性を築くのはとても大切」というお言葉をいただいたが、このフォーラムを通して多くの人が新たなつながりをもただけでなく、これからの生活でのつながりづくりのきっかけを提供することができたのではないかと考える。

今後は、このフォーラムで得たつながりを絶やすことなく、つながり続けていくと同時に、人と人がつながる場である「ひろば」をより拡大・活性化していく所存である。

フォーラムの様子



【市村高志氏・山下祐介氏】



【ワークショップの様子】



【意見交換の様子】

第3回

静岡 2.0 フォーラム

参加
無料

要申込

各日
定員
40名



今、私たちができる「地域」づくり

無縁化、震災、人口減少・・・私たちの未来は知らない変化を迎えようとしています。私たちのまちの変化とともにそれぞれの生活も大きく変わるでしょう。だから、これからの私たちのまちのことを一緒に考えませんか？今回は足元から地元を見直し、地元を楽しむ「地元学」を学び、「東日本大震災からの復興のあり方」を問い直す現場の方々のお話から、静岡の復興を考えます。一緒に私たちの未来について考えましょう！

第1回

2014年 **11月23日(土)** 10:30-16:00

日時・会場

沼津市立図書館 第4講座室

- 「地元学」から学ぶ手づくりの地域づくり -

地元学は地元で学ぶことから始める当事者主体の地域づくり、モノづくり、生活づくりです。地元学を通して、地域主体の地域づくりの手法を学び、演習ワークショップを行い、地元静岡について考えていきます。

吉本哲郎 氏

水俣生まれ、宮崎大学農学部卒。1971年水俣市役所に入り、都市計画課、企画課、環境対策課長、農林水産課長、水俣病資料館館長を経て2008年退職。現在は、2010年4月から鹿児島大学生涯学習教育研究センターリサーチアドバイザー、2010年からは総務省地域力創造アドバイザー 地元学ネットワーク主宰を務める。

著書に『風に聞け 土に着け 風と土の地元学』・『地域から変わる日本 地元学とは何か』（農文協 2001）、「私の地元学」（NEC クリエイト）、「地元学をはじめよう」（岩波書店 2008年）がある。

水俣再生に向け、水、ごみ、食べ物に気をつける住民協働の環境モデル都市づくりに参画し、お互いの違いを認め合い、距離を近づけて、話し合い、対立のエネルギーを水俣再生のエネルギーに変えていくことを提唱。みんなでやってきたことを地元学と名付け、国内外で実践している。

地元学の演習ワークショップを行います。

基調講演

第2回

2015年 **2月1日(日)** 13:00-17:00

牧之原市役所榛原庁舎 4階会議室

- 被災地から「人間のための復興」とは何かを学ぶ -

原発事故の避難で全国に散らばった住民をつなげる活動をされている方から、ひとのための復興とは何かを学び、被災前の静岡に必要なこと、私たちができることを考えていきます。

山下祐介 氏

1969年生まれ。首都大学東京准教授。専攻は都市社会学、地域社会学、環境社会学。とみおか子ども未来ネットワークが行う「タウンミーティング」の補佐とともに、富岡町から避難してきた人々への質的パネル調査を行っている。

著書に『限界集落の真実』（ちくま新書、2012）、『東北発の震災論』（ちくま新書、2013）など、共著に『人間なき復興』（明石書店、2013）などがある。

市村高志 氏

1970年生まれ。福島県双葉郡富岡町出身。東京電力福島第一原子力発電所の事故により、富岡町からの避難を経験。「NPO法人 とみおか子ども未来ネットワーク」の理事長を務め、自分たちの生活や古里の未来について考え、それらを実現することを目標に活動している。

共著に『人間なき復興』（明石書店、2013）がある。

ワークショップ 「今、私たちにできること」と題してワークショップを行います。

* 両日とも終了後、懇親会も予定しております。詳細は当日会場にてお知らせしますので、ぜひご参加ください。

お申込み お問い合わせ	※お名前、参加日、お住まいの市・町、ご連絡先（メールアドレス）をご明記ください from.shizuoka2.0@gmail.com [静岡 2.0 事務局]
主催	ふじのくに地域・大学コンソーシアム
企画・運営	静岡 2.0 [大学生発祥で地域の人々のつながりづくりをしている団体です]
共催・後援	共催：牧之原市地域政策課・静岡県立大学ふじのくに「みらい」共育センター [第2回] 後援：沼津市 [第1回]

第1回 沼津会場

もっと知りたい!

—「地元学」から学ぶ手作りの地域づくり—

「地元学」は地元の「あるもの探し」や地元について学ぶことから始める、地域の人々が主体となった地域づくり（モノづくり、生活づくり、人づくり）です。地元学を通して、地域の人による地域のための、楽しい地域づくりのコツを学びます。

午前は講師の吉本氏から「地元学」の基本を学び、午後は参加者のみなさんと「地元学」を応用したワークショップを行います。

2014年11月23日(日)10:30~16:00

会場：沼津市立図書館 第4講義室

講師：吉本哲郎氏（地元学ネットワーク主宰）

<内容>

午前：基調講演

「地元学」そのものや、吉本氏がこれまでに訪れた全国各地の事例等をお話しいたします。

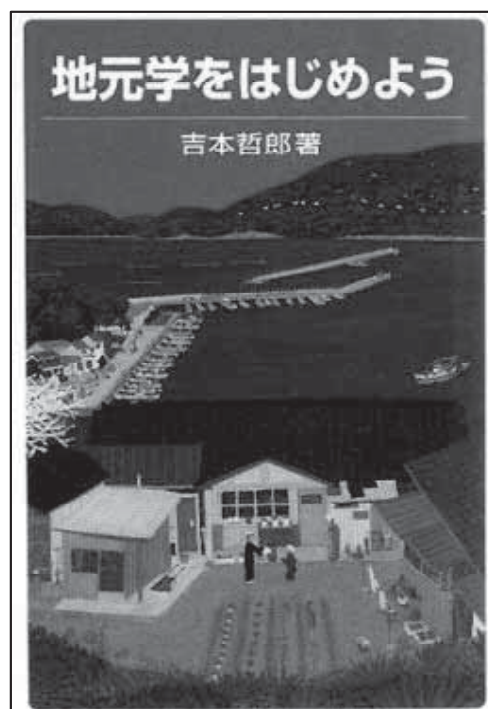
昼食：交流ランチ

参加者のみなさんと交流しながら昼食をとります。

※昼食はご持参ください。

午後：地元学ワークショップ

地元学を応用して、会場の地、沼津を題材に地域の魅力の発見の仕方、活かし方を学ぶ参加型の演習（ワークショップ）を行います。



講師紹介：吉本哲郎氏

水俣生まれ、宮崎大学農学部卒。1971年水俣市役所に入り、都市計画課、企画課、環境対策課長、農林水産課長、水俣病資料館館長を経て2008年退職。現在は、2010年4月から鹿児島大学生涯学習教育研究センターリサーチアドバイザー、2010年からは総務省地域力創造アドバイザー 地元学ネットワーク主宰を務める。著書に『風に聞け 土に着け 風と土の地元学』・『地域から変わる日本 地元学とは何か』（農文協 2001）、「私の地元学」（NECクリエイティブ）、「地元学をはじめよう」（岩波書店 2008年）がある。水俣再生に向け、水、ごみ、食べ物に気をつける住民協働の環境モデル都市づくりに参画し、お互いの違いを認め合い、距離を近づけて、話し合い、対立のエネルギーを水俣再生のエネルギーに変えていくことを提唱。みんなでやってきたことを地元学と名付け、国内外で実践している。

【お申込み・お問い合わせ】 静岡 2.0 事務局、担当：二條

E-mail : from.shizuoka2.0@gmail.com TEL:090-9943-9724

※お名前、参加日、お住まいの市・町、ご連絡先（メールアドレス）をご明記ください

【主催】 ふじのくに地域・大学コンソーシアム

【企画・運営】 静岡 2.0 [大学生発祥で地域の人々のつながりづくりをしている団体です]

【後援】 沼津市

第2回 牧之原会場

もっと知りたい!

—被災地から「人間のための復興」とは何かを学ぶ—

東北地震による原発事故の避難で全国に散らばった住民をつなげる活動を行いながら、『人間なき復興』を出版された（共著）山下祐介氏と市村高志氏をお招きし、被災した地域の中からの実の声として「人間のための復興とは何か」をお話いただきます。さらに、「静岡に住む、被災前の私たちが今から出来ること」について会場にいる全員で語り合い、聴き合いながら考えていきます。

2015年2月1日(日) 13:00~17:00 (12:30 開場)

会場：牧之原市役所榛原庁舎 4階会議室 (牧之原市静波4 4 7-1)

講師：山下祐介氏 (首都大学東京准教授)

市村高志氏 (NPO 法人 とみおか子ども未来ネットワーク理事長)

<内容>

第1部：基調講演

講師のお二人から、富岡町で起こった事やとみおか子ども未来ネットワークでの活動をもとに「人間のための復興とは何か」についてお話いただきます。

第2部：ワークショップ

基調講演を受け、静岡に住む私たちがいつ訪れるかわからない「復興」の為に今から出来ることを全員参加の対話で考えていきます。災害からの地域の復興を考えることは、日常の豊かさ、地域のセーフティネットに繋がります。多様な意見を大切にする語り合い・聴き合いの場で、私たちの地域づくりを考えましょう。

第3部：懇親会 (18:00~20:00、場所は会場近くを予定しています。)

参加者のみなさんと交流して繋がりを深めましょう。



講師（『人間なき復興』著者）プロフィール

山下祐介氏 (首都大学東京准教授)

1969年生まれ。九州大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程中退。弘前大学准教授などを経て、首都大学東京准教授。専攻は都市社会学、地域社会学、環境社会学。著書に『限界集落の真実』『東北発の震災論』『地方消滅の罫「増田レポート」と人口減少社会の正体』（ともにちくま新書）。共著に『「辺境」からはじまる』『「原発避難」論』（ともに明石書店）ほか。

市村高志氏 (NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク理事長)

1970年生まれ。福島県双葉郡富岡町住民、福島第一原子力発電所事故により避難を余儀なくされた富岡町民一人ひとりが、この苦難を乗り越え、心の復興を果たし「それぞれの新たな未来」「愛する人たちの未来」そして住民が主体となった「富岡町の新しいかたち」を実現していくことを目的とした「NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク」理事長。論考に「私たちに何があったのか——とみおか子ども未来ネットワーク」の二年間」（『現代思想』2013年3月号）。

【お申込み・お問い合わせ】 静岡 2.0 事務局、担当：宮西

E-mail : from.shizuoka2.0@gmail.com TEL:090-7679-1547 (代表電話)

★①お名前 ②お住まいの市・町 ③メールアドレス ④懇親会の出欠 をご明記ください。

【アクセス方法】会場へは主に以下の2つの方法がございます。

- ① 自家用車でのご来場 (榛原庁舎の駐車場をご利用ください。)
- ② 公共交通機関でのご来場
A. しずてつジャストラインの特急静岡相良線にて「静波海岸入口」で下車。徒歩10分。
B. 島田駅から初倉線に乗り、「静波2丁目」で下車。徒歩5分。

※来場方法に不安のある方はお気軽にご相談ください。

【主催】 ふじのくに地域・大学コンソーシアム

【企画・運営】 静岡 2.0 [大学生発祥で静岡の復興を見据えながら地域の人々のつながりをつくる団体]

【共催】 牧之原市地域政策課・静岡県立大学ふじのくに「みらい」共育センター

静岡の食を支える農の6次産業化と地域振興

静岡の食を支える農の6次産業化と地域振興（講演要旨）

○目的

わが国の食料自給率は先進国で最も低い。世界人口が急増して食料需要が高まる中であって、わが国の自給率も高めておくことが重要である。政府は、国の成長戦略の一つとして農業を挙げている。しかしながら、農業は収益性が低いため、従事者の減少と高齢化が進んでいる。この解決策として注目されるのが6次産業化であり、本講座で市民に向けて情報発信したい。

1 農の6次産業化への流通戦略

小本恵照（駒澤大学経営学部教授）

近年、流通企業が自ら農産物の生産や加工を行う6次産業化の事例が増えている。この企業行動は「企業の境界」を広げる行動として捉えることができ、企業の境界決定に関する代表的な理論には、取引費用理論と知識ベース理論がある。青果物に対象を絞り、取引実態の変化などを踏まえて6次産業化の分析を行うと、販路が限定される特殊な作物については取引費用理論による説明が当てはまることが判明した。一方、知識ベース理論は、複雑な調整が必要な活動を遂行する場合や、問題解決の方法が不明確な問題を解決する場合に説明力が高いことが判明した。この分析結果の妥当性を検証するため、6次産業化を精力的に行っている小売業2社に対して、インタビュー調査等による事例研究を行ったところ、知識ベース理論の説明力が大きいことが判明した。

2 垂直的分離・統合と6次産業化 —価格競争の下での3段階取引構造選択— 鈴木浩孝（静岡文化芸術大学文化政策学部准教授）

生産・加工・販売の各段階を要素とする準組織の構造が市場競争に与える効果という観点から、6次産業化に関する考察を行う。まず水平的競争を考慮しなければ、6次産業化は生産者と消費者の双方にとって有益である。ただし6次産業化に至る過程には生産者にとって有益でない構造もあることから、それに対しては政策的な支援や生産者自身による努力が必要となる。他方、競合相手との水平的競争まで考慮すれば、生産者にとって6次産業化は必ずしも有益ではない。財の同質性が高い状況での6次産業化は当該生産者のみならず他の生産者をも不利益の方に誘導しかねない。ゆえに6次産業化は財の差別化を伴う形で推進

されることが重要であり、特に今後多くの競合相手の参入が予想されるならば、その重要性は一層増すことになる。

3 農の6次産業化における農業者と消費者の心理

小杉大輔（静岡文化芸術大学文化政策学部准教授）

「6次産業化が私たちに何をもたらすのか」について、そこにかかわる農業者及び消費者の心理に焦点をあてながら論じる。まず、静岡県内外の農の6次産業化の事例を紹介し、それに取り組む農業者の信念や目標などの心的過程について論じる。続いて、農の6次産業化に関わると考えられる心理学的トピックの中から、農業者の「ワーク・モチベーション」と消費者の「食に関する情報処理」に焦点をあて、これらの観点から6次産業化の利点を紹介する。

4 浜松市における農の6次産業化支援への取組みと課題

浜松市産業部農林水産政策課

昨年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、①農業・食糧関連産業の国内生産額を100兆円から、2020年までに120兆円とする。②このうち、6次産業の市場規模を現状の1兆円から、2020年までに10兆円とすることが、国の目標として掲げられている。

それに向けた国の施策などを紹介しつつ、浜松市の取組みを報告する。そして、本市で農商工連携・6次産業化を推進するための関係機関との連携についても触れる。

5 ジビエによる中山間地活性化の試み

寺島健彦（常葉大学健康プロデュース学部准教授）

近年、国内の多くの地域で、シカや猪などの野生鳥獣による森林被害、農作物被害が問題となっている。静岡県内でもその被害は年々大きくなってきている。そのため、鳥獣被害対して、様々な制度や研究がなされている。これまでは、捕獲した鳥獣は廃棄されていたが、近年、その獣肉を活用し地域活性化を図る試みが多く報告されてきている。

本公演では、シカに焦点をあて、特に伊豆市での鹿肉利用普及のために行った事例を紹介する。具体的には、シカを含む野生鳥獣の処理施設建設、鹿肉の成分分析およびジビエ料理への応用についての事例を紹介する。

さらに、静岡県内におけるシカの被害軽減対策や、他県でのシカ肉利用状況に

についても報告する。

6 惣菜屋から農の6次産業化へ

小澤勇夫（株式会社知久総務課課長）

- ・株式会社知久の紹介
惣菜製造小売、化学合成された添加物を使用しない惣菜・弁当を販売
- ・農業参入の目的
惣菜の原材としての有機、特別栽培の野菜の比率を高めること
- ・企業の農業参入の始まり（規制緩和）
2005年 構造改革特区で農業参入
静岡県 株式会社の農業参入 第1号
- ・現在の知久屋農園の経営規模と有機 JAS の栽培手法
- ・行政の支援と耕作放棄地の解消
- ・農業部門・製造部門・小売部門・商品開発部門が連携した商品の提供
- ・農業生産部門の人材育成、企業的経営手法の確立と京セラアメーバ経営
- ・福祉法人との協働・環境に対する配慮
- ・農産物生産者との産直取引
- ・日本産の農産物加工品を海外へ
- ・農業参入を振り返って



農の6次産業化への流通戦略

ふじのくに地域・大学コンソーシアム
平成26年度共同公開講座
2014年11月8日
駒澤大学 小本恵照

1

問題意識

- 近年、大手小売企業や飲食企業で、農業生産への参入が相次いでいる。
- 小売・飲食業の農業参入は、「垂直統合」であり、「企業の境界」の決定問題に該当する。
- 企業の境界に関する代表的理論には、(1)取引費用理論、(2)知識ベース理論がある。
- 青果物に対象を絞る中で、事例研究を行い、上記の2つの理論の妥当性を検討する。

2

小売・飲食企業の農業参入事例

企業名	活動内容
イオン	2009年に農業子会社のイオンアグリ創設を設立して農業へ参入。2014年3月末の時点で、営業場を全国15カ所で展開し、農地面積は230ha、契約農家まで含めると1300haになる。
セブン&アイHD	2008年に農業生産法人を設立して農業へ参入し、「セブンファーム」を10カ所で運営(2014年7月現在)。
神戸物産	2008年に農業生産法人を設立して農業へ参入。2014年8月現在、約1500haを所有。2010年には畜産業にも進出。食品加工には1992年に参入。
パロー	2013年に農業生産法人を立ち上げ、農業に進出。インドネシアの直営農場から農産物を調達。
ローソン	2010年から農業生産法人「ローソンファーム」を設立し、全国17カ所で展開(2014年5月現在)。
モスフード	2008年に農業生産法人を設立し農業参入。野菜の全量は契約農家などを通じて調達。
ワタミ	2002年に農業生産法人「ワタミファーム」を設立。直営農場を10カ所で運営(2014年7月現在)。

(出所) 新聞記事やホームページなどの情報をもとに作成。

3

6次産業化の分析視角

- 原材料の調達から製品の生産・販売までの全ての活動を自社で遂行する企業はない。
□自動車生産:鉄鉱石の採掘、鋼板の生産はそれぞれ専門の企業に依存。
- 小売・飲食業も例外ではなく、大多数の企業は、消費者に対する製品や料理の販売を専業として行ってきた。
- 近年の6次産業化の動きは、事業の領域を変更するものと言える。⇒「企業の境界問題」

4

分析における留意事項

- 農業の内容は多種多様
- 農地法上の農地を利用しない農業
 - 養鶏や養豚などの畜産、きのこと類や種苗などの施設型農業など。
 - このタイプの農業では、法人形態や出資比率等に制約はなく、従来から企業が自由に直接参入し、企業経営が支配的。
- 農地法上の農地を利用する農業
 - 米
 - 青果物 ← 本分析の対象。

5

野菜生産の特徴

- 栽培方法が定型化されている
- 年数回の収穫が可能である
- 根強い地場産野菜ニーズがある
- 果実は収穫までに時間を要し、生産技術も高度である。
- 小売・飲食企業の農業参入は野菜が中心。

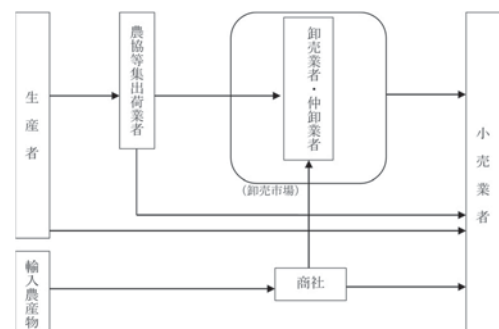
6

伝統的な農産物流通システム

- 卸売市場を経由する流通がシステムの中心を占めてきた
 - 卸売市場を経由した流通では、出荷者と実需者(小売業者等)は直接取引を行うことはない。
- 出荷者は卸売業者に、実需者は仲卸業者または売買参加者に取引を委託する。
 - 委託を受けた卸売業者と仲卸業者は、セリ・入札などの方法によって需給の状況を反映した出荷物の価格や分配を決定する。
 - 商品の引き渡しや代金決済も行う。

7

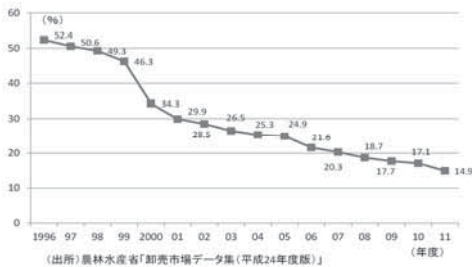
卸売市場を経由する流通システム



8

農産物流通システムの変容

- 取引に占めるセリ・入札取引の割合の低下
⇒ 相対取引の増加



9

相対取引の増加の背景

- 大型小売業・飲食業の成長。
- 大型小売業などは、数量の安定的確保を最優先する。⇒ 大きな価格変動
- 取引数量や価格等の交渉を、卸売市場での取引前に行う。
- セリ・入札ではなく、相対取引を行うことによって、数量の安定的な確保と価格変動を抑制することができる。

10

市場外取引の拡大

- 卸売市場を経由せず、需要家が生産者と直接的に取引を行う形態。
- 作付け前に契約が締結されることが多い。
- 市場外が増えている理由
 - 安定的調達に加え、生産履歴が明確となることによる消費者に対する安心・安全のアピール
 - 中間流通を省くことによるコスト削減など。
- 需要者のニーズに合わせた数量調整能力を持つ生産者の増加。

11

農業参入の形態

- 農業生産法人
 - 農地法に規定された一定の要件を満たした場合に認可される。
 - 農地の取得が可能。
 - 農業者以外の者の出資比率は拡大されてきた(2015年には50%未満になる)。
- 一般農業法人
 - 認可等の規制はないが、農地の取得はできず、リースとなる。期間は50年まで。
 - 利用できる農地の制限は撤廃された。

12

企業の境界の変化を説明する理論

- 取引費用理論
 - 取引の効率性を重視する理論
 - 異なる企業間での取引の効率が悪いならば(取引費用が大きいならば)、自社で生産を行う。
 - 契約を結ぶことが難しい、相手が不誠実な行動をする。
- 知識ベース理論
 - 個々の企業の(生産)能力の違いを重視する理論
 - 他の企業に対して、新たな生産方法などの知識を移転することが困難ならば、自社で生産を行う。
 - 相手に能力がない、知識を教えにくい。

13

事例研究: 神戸物産

- 「業務スーパー」という食品スーパーを中核事業とする兵庫県の中堅企業である。
- 業務スーパーは、フランチャイズ方式を用いて店舗展開を行っており、2014年4月末時点では669店舗を運営している。
- 食品スーパー以外の事業としては、「神戸クックワールドビュッフェ」や「Green's K」などがあり、主として飲食業への多角化を進めている。

14

農業への取り組み状況

- 業務スーパーなどで販売する食品の一部を、自社農場で生産し、自社工場で加工するという6次産業化を積極的に行う企業として注目を集める。
- 青果物の生産については、2008年にエコグリーン北海道(農業生産法人)を設立し、約1500haの農業用地を所有している。
- 畜産業や水産業も行う。
- 食品加工(2次産業)も行う。

15

農業進出への経緯(1)

- 1992年当時は、株式会社フレッシュ石守として食品スーパーを直営で3店舗経営。
- 大手スーパーに対抗するためには、PB商品が必要と判断した。
- しかし、PB生産を引き受けるメーカーいなかった。そこで、商取引で馴染みのあった、中国大連に工場を作り、メーカーの生産を受託。
 - 従業員も神戸物産が雇用した。
 - 製造ノウハウは、委託先のメーカーの指導を仰いだ。その過程で製造ノウハウを蓄積した。

16

農業進出への経緯(2)

- 神戸物産は、第1次産業ではなく、初めは第2次産業に進出した。
- 神戸物産は、当時から農業と外食業への進出を目指していた。
 - 農業を行うには、生産に見合った仕入れの力をつけておく必要があると判断して、業務スーパーという小売事業の拡大を優先させた。
- 農業参入の目的は、低価格かつ安定的な農産物の調達である。
 - 大手小売業の市場外取引の拡大などが影響。

17

農業進出の内容

- 2008年にむかわ町に所在する道有地231haをプロポーザル式入札によって入手。
 - 現在の所有農地は、約1500haに拡大。
- 農業用地取得に当っては、地元の農業関係者や町長の協力が大きかった。
- むかわ町での農業生産の特徴は、大規模農法に取り組んでいることである。
- 安定的な食糧確保のために、エジプトでも農業に取り組んでいる。

18



19



20

生産物と農法の改良

- じゃがいもと大豆が中心だが、小豆、長芋、黒豆、枝豆なども試みている。
- 大規模農法についてはノウハウがない状態から始めた。
- 欧米などへの視察などを行う中で、農法の改良に努めている。
- 農機の稼働内容や肥料の使用方法などで、海外は先進的であり、それに追いつくべく努力をしているのが現状である。

21

農業生産の課題

- 雑種地や雑木林などを開墾して農地にする取り組みを行っている。
 - 土作りが農業にとって重要であり、有機肥料をすき込むことを毎年行う必要がある。
- このため土作りに3年を要しており、農業は長期間のプロジェクトという認識を持っている。
- 採算でも、自然条件に左右される面が少なくなく、難しい事業との認識を持っている。
- 6次産業化では、生産から販売に至る、1次、2次、3次の調整が難しいとのことである。

22

イオンアグリ創造

- 株式会社イオンが2009年7月に設立した、農業生産を行う100%子会社。
- 2009年7月に「特定法人貸付事業制度」によって、牛久市で休耕地を借り受け、直営農場事業を開始。
- 一般の農業法人として設立。このため、地権者から農地をリースするという方法で農地を増やしてきた。
- 2014年3月末で農場は15カ所、農場面積は230haである。2015年度までに500haという目標を掲げている。

23

農地の内容など

- リースしている農地230haのうち休耕地は60haで、残りは既耕地。賃借期間は10年間が多い。
- リース対象となる農地の確保は、主として地方自治体から持ち込まれる案件となっている。
 - 既に持ち込まれた案件をこなしている状態。
 - 地方自治体と連携して動くことが多い。
- 農業生産法人化することも検討されたが、現時点では農業法人と農業生産法人とで大きな違いはないと判断し農業生産法人への転換をしていない。

24

農業生産のスキルについて

- 進出した地域で、優れた生産技術を持った農家から指導を仰いでいる。
- 農業生産には肥料や農薬が欠かせないが、それに関連する技術やスキルなどは肥料メーカーや農薬メーカーなどから技術指導などを受けている。
- 産学連携にも積極的であり、東京大学、東京理科大学、近畿大学などと共同した取り組みを行っている。
 - 植物の病理、収穫作業の負荷軽減のための機械開発、冬場の暖房費節約などについて、

25

独自の取り組み

- 富士通と組んで農業のIT化を進めている。
 - これまでは、農業生産者の勤や経験に頼る形で知識などが活用されてきた。
 - 知識をデータベース化する努力を続けている。
- 農場間の情報共有である。
 - 優れた生産方法をどこかの農場が発見したならば、他の農場でもその知識を共有し、応用することを進めている。
- センサーを利用した生産方法の改良がある。
 - 土のデータ(EC, Phなど)を計測し、地上の作物の状況と比較することで適切な対応を行う。
 - 雨で水分が増えた場合に、作物の状況をみて対応を考えるといったことができる。
 - トレーサビリティも確実になるとのことである。

26

生産している作物と販路

- イオンが多くの契約農家を抱えており、契約農家の生産状況との関係で作物を選択。
- その中で、消費量が多い作物や生産が比較的容易なものを選択している。
- 具体的な作物としては、小松菜、キャベツ、白菜、かぼちゃ、ねぎ、ほうれん草などが中心。
 - 比較的生産がやさしいキャベツなども結構難しい。
- 生産された農産物はイオンで販売されるが、約6割はカット野菜や惣菜などの加工に利用され、残りが生鮮野菜として販売されている。

27

参入の動機

- 既存の契約農家や卸売市場に大きな不満はない(福永庸明社長)。
- イオンでは市場外取引は全体の約40%。
- 農産物の安定的な調達には不安はない。
 - 農協が農産物の数量調整能力を高めており、イオンが必要な量を確保してくれる。
- 農業に関する知識の蓄積が主たる目的。
 - 原材料調達から販売に至るバリュー・チェーンの最適化を進めるためには、農業生産に関する知識が必要であるため。

28



29

事例にもとづく検討および結論

- 神戸物産とイオンアグリ創造は、いずれも特別な野菜を生産するのではなく、多くの農家が生産している作物を生産していた。
 - これは取引費用理論での説明には該当しない。
- 神戸物産とイオンアグリ創造のいずれについても、大規模農法あるいはIT活用といった手段によって、従来の農家とは異なる方法で生産性を高めようとしていた。
 - 既存の農家を説得して取り組むのは難しいため、自らが取り組むという知識ベース理論には合致する。

30

垂直的分離・統合と6次産業化

—価格競争の下での3段階取引構造選択—

静岡文化芸術大学

鈴木 浩孝

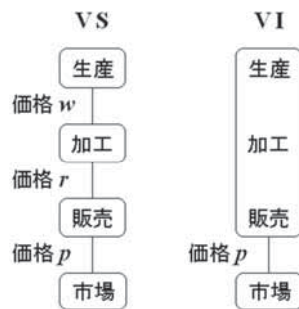
垂直的分離、垂直的統合

・従来の1次, 2次, 3次の形態

→ 垂直的分離(VS)
(Veritcal Separation)

・6次産業の形態

→ 垂直的統合(VI)
(Veritcal Integration)



6次産業化は有益か？(取引・競争面に関して)

・3段階からなる取引において生産者が取引構造を選択する状況の下で、その選択が取引・競争に及ぼす効果に焦点を絞り、6次産業化とそこに至る過程に関する考察を行う。

1次(生産) × 2次(加工) × 3次(販売) = 6次

- ・第1次産業 → 「生産者」
- ・第2次産業 → 「加工業者」
- ・第3次産業 → 「販売業者」

垂直的統合のメリット(生産者にとって)

- ・最終販売価格(p)を生産者が直接設定可能
- ・その価格の下での収入はすべて生産者が得る

垂直的統合のデメリット(生産者にとって)

- ・通常、垂直的統合にはコストがかかる
- ・分業による規模の経済を利用できない

本稿の分析では、垂直的統合にコストはかからず、また規模の経済は存在しないものとする。

↓

上記のような想定の下で、市場競争(取引上の立場)の観点から検討するのであれば、垂直的統合は明らかに有利に見える。

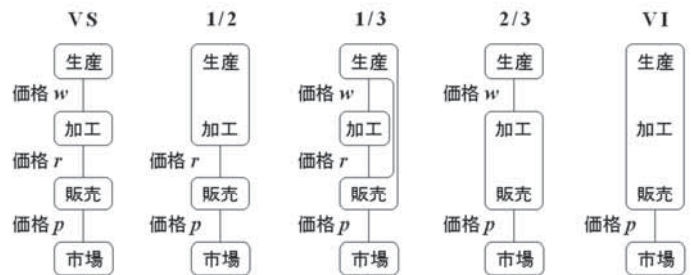
(∵1~3次の全段階において、自分の意思通りに決定できる。)

ならば生産者にとって垂直的統合の方が好ましいことは明白？

↓

否。水平的競争まで考慮するケースでは、むしろ上記のメリットを放棄する方が、結果的に有利となる場合がある。

3段階取引における、5種類の取引構造



4段階ゲーム

- ・第1段階: 生産者がVS, 1/2, 1/3, 2/3, VIのいずれかを選ぶ
- ・第2段階: 生産者が加工業者に価格 w を設定する
- ・第3段階: 加工業者が販売業者に価格 r を設定する
- ・第4段階: 販売業者が市場で価格 p を設定する

※ 第1段階の選択次第で(必然的に)省略される価格設定

1/2 → w , 2/3 → r , VI → w, r

解法: 後方帰納法

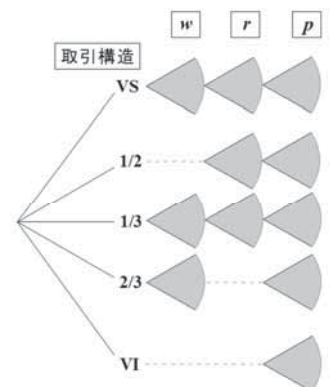
後手の選ぶ手は、先手の選ぶ手に依存する。

↓

先手はそれを見越して、自身にとって最適な結果を誘導する手を選ぶ。

↓

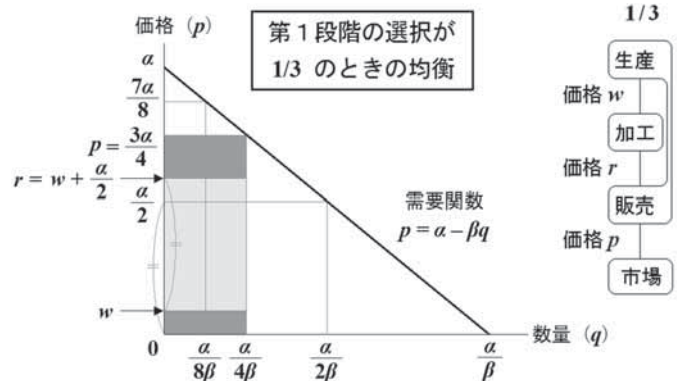
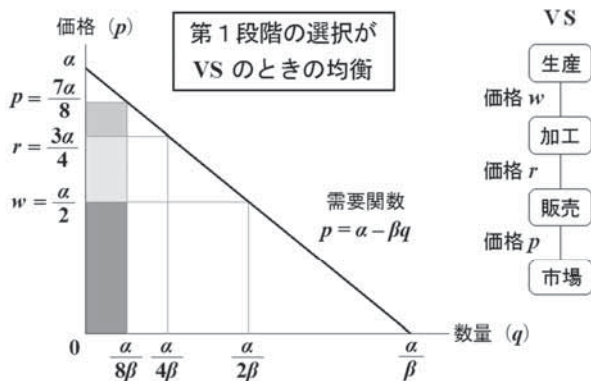
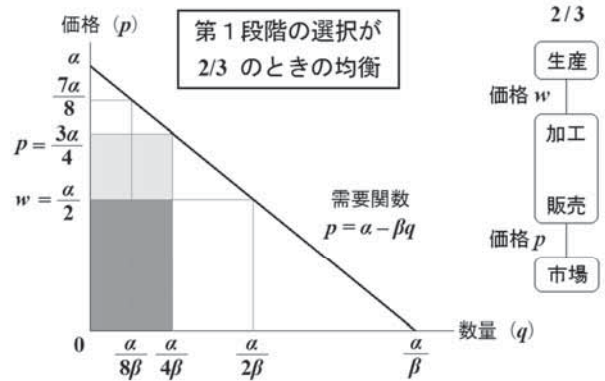
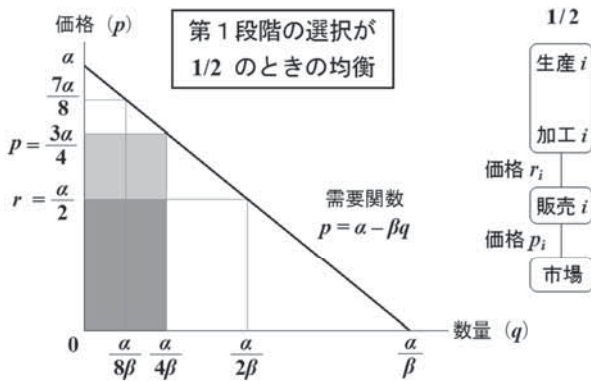
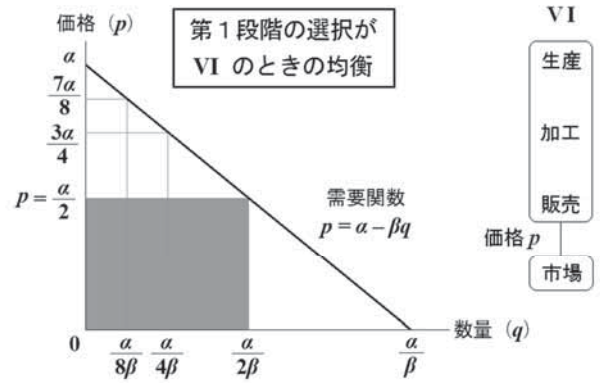
後手の手も決まる(均衡解)。



モデル分析(1): 水平的競争を考慮しない場合

財に対する市場での需要関数

$p = \alpha - \beta q$ p : 財の価格(操作変数)
 q : 財の数量(従属変数)
 $\alpha > 0$: (外生変数)
 $\beta > 0$: (外生変数)



分析(1)の結果①

生産者と消費者とで、利害関係は一致する
 (※1/3のケースのみ、やや異なる。→ ②参照)

消費者にとっての望ましさ(→ 価格 p が低いほど大)

$VS < 1/3 = 1/2 = 2/3 < VI$

生産者にとっての望ましさ(→ 利潤が大きいほど大)

$VS = 1/3 < 1/2 = 2/3 < VI$



6次産業化VIは消費者・生産者の双方にとって望ましい。

分析(1)の結果②: 1/3 のケースについて

1/3, 1/2, 2/3 の共通点:

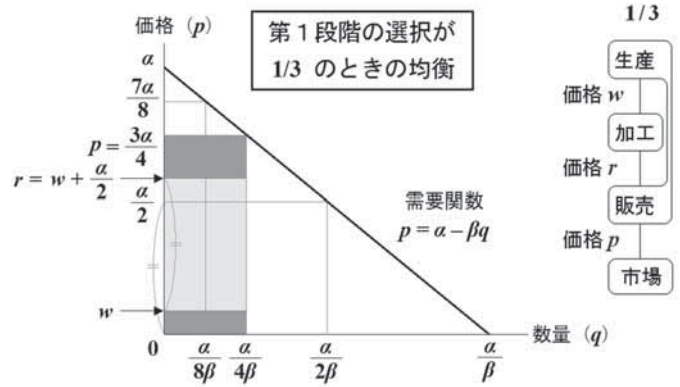
VSから垂直的統合が1回行われている状態に相当。
 → 消費者にとってはいずれも無差別。

1/3と1/2, 2/3との相違点:

垂直的関係で見た生産者の実質的な位置が「下流」
 → 生産者にとって 1/3 は、1/2, 1/3 とは異なる。

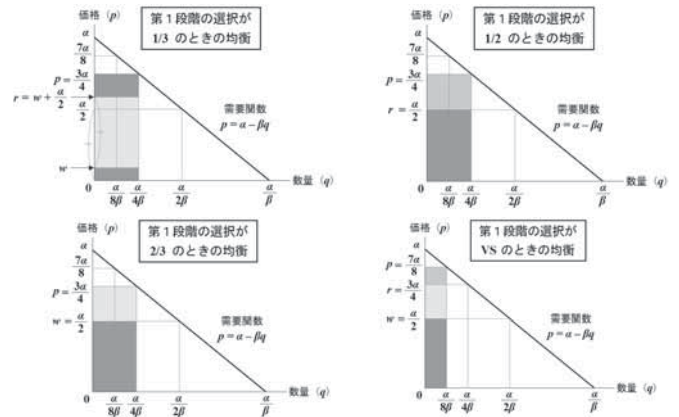
1/3の生産者の実質的な位置が「下流」となる理由

- 生産者としての生産者は、加工業者に財を販売(価格 w)で。
 - 販売業者としての生産者は、加工業者から財を購入(価格 r)で。
- 生産者にとって、 w の設定水準自体は意味を持たない。
(w を高く設定してもそれに応じて高めの r が返ってくる。) 意味を持つのは w と r の差額(←ただし販売業者が操作)。
- 生産者にとっての実質的な価格設定は、 p のみ。
- 価格設定面での上流・下流の立場は逆転する。



- 1/3での生産者の価格設定面での立場は、
1/2 (2/3)での販売(加工)業者のそれに等しい。
- 1/3での生産者の利潤
= 1/2 (2/3)での販売(加工)業者の利潤
= VSでの生産者の利潤 (VS = 1/3 < 1/2 = 2/3 < VI)

∴6次産業化(VI)に至る過程としての1/3の状態は生産者にとって魅力的でない。
これにより6次産業化への誘因が減じられているとすれば？
→ 誘因を高める支援策が必要(加工設備や技術面での)。



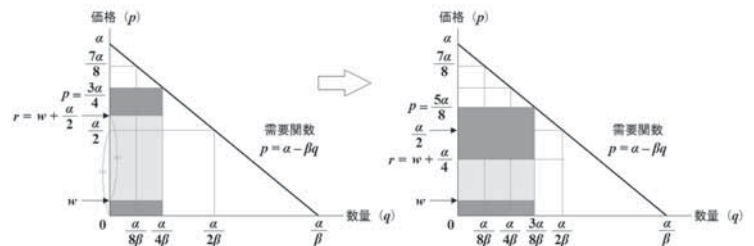
1/3の問題点に対する、生産者側の戦略

1/3のケース(生産委託)に伴う生産者にとっての問題点
= 自身に対して加工業者が有する取引価格面での交渉力
(つまり $r-w$ の大きさ)

- 生産者の交渉力がより高い場面での生産委託ならば、問題は抑制される。
- ※ $r-w$ を0に近づけられれば、
→ 実質的な価格設定段階は p のみ
→ 1/3でありながらも、VIと同等の効果

図解:加工業者の取引価格面での交渉力が半減した場合

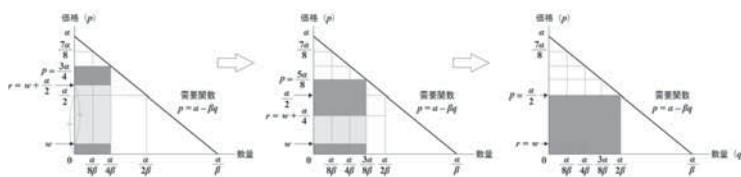
加工業者の取引価格面での交渉力低下に伴い、
1/3時の生産者の利潤はVI時の値に近付いていく。



モデル分析(2):水平的競争を考慮する場合

4段階ゲーム($i=1,2$)

- 第1段階: 生産者 i がVS, 1/2, 2/3, 1/3, VIのいずれかを選ぶ
- 第2段階: 生産者 i が加工業者 i に価格 w_i を設定する
- 第3段階: 加工業者 i が販売業者 i に価格 r_i を設定する
- 第4段階: 販売業者 i が市場での価格 p_i を設定する

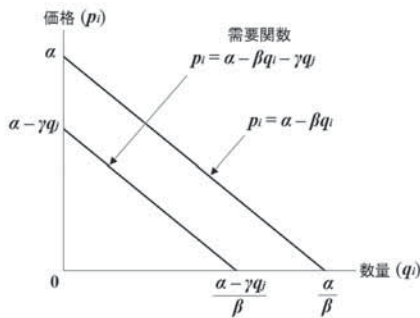


第 i 財に対する市場での需要関数

$$p_i = \alpha - \beta q_i - \gamma q_j$$

($i=1,2, j=1,2, \text{ and } i \neq j$)

p_i : 第 i 財の価格
 q_i : 第 i 財の数量
 $\alpha > 0$: (外生変数)
 $\beta > 0$: (外生変数)
 $\gamma \in [0, \beta]$: (外生変数)
 財の間の同質性の程度



$\gamma \in [0, \beta]$: 財の間の同質性の程度を表す値

$$\begin{cases} p_1 = \alpha - \beta q_1 - \gamma q_2 \\ p_2 = \alpha - \beta q_2 - \gamma q_1 \end{cases} \Rightarrow \begin{cases} q_1 = \frac{(\beta - \gamma)\alpha - \beta p_1 + \gamma p_2}{\beta^2 - \gamma^2} \\ q_2 = \frac{(\beta - \gamma)\alpha - \beta p_2 + \gamma p_1}{\beta^2 - \gamma^2} \end{cases}$$

$$\beta \geq \gamma$$

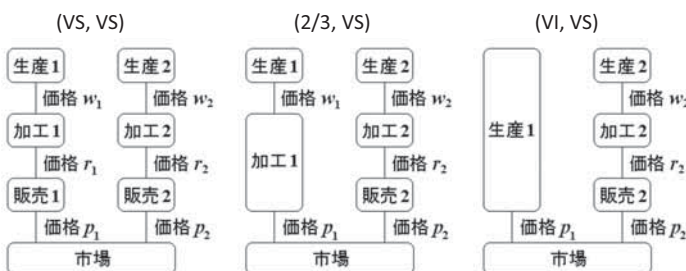


| 第1財の価格低下に伴う、第1財の需要の増加 |
 \geq | 第2財の価格上昇に伴う、第1財の需要の増加 |

分析(2-1): 競合相手の取引構造選択が VS のとき、
 自分にとっては5種類の取引構造のうちどれが最適か？

分析(2-1)の結果:

γ の値により自身にとっての最適な取引構造は異なる。



$0 < \gamma < 0.86\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VI

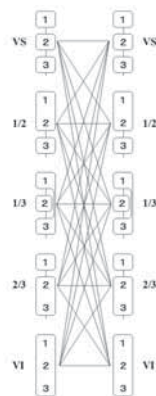
$0.86\beta < \gamma < 0.99\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は 2/3

$0.99\beta < \gamma < \beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VS

財の同質性の程度が大きいほど、垂直的統合よりも垂直的分離が相対的に有利となる。

分析(2-2):

競合相手の各取引構造選択
 に対し、自分にとっては
 5種類の取引構造のうち
 どれが最適か？



分析(2-2)の結果

① 相手が VS のとき: 前述の通り。

② 相手が 1/2 のとき

$0 < \gamma < 0.85\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VI

$0.85\beta < \gamma < \beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は 2/3

③ 相手が 2/3 のとき

$0 < \gamma < 0.88\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VI

$0.88\beta < \gamma < \beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は 1/2

④ 相手が 1/3 のとき

$0 < \gamma < 0.68\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VI

$0.68\beta < \gamma < \beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は 2/3

⑤ 相手が VI のとき

$0 < \gamma < \beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VI

分析(2-3): 取引構造選択の均衡解

均衡 = 「相手の選択に対して、自分が最適な選択をしている」ことが、双方向で成り立っている状態。

(例) 相手が VS のとき(再掲)

$0 < \gamma < 0.86\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VI

$0.86\beta < \gamma < 0.99\beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は 2/3

$0.99\beta < \gamma < \beta \rightarrow$ 自身にとって最適構造は VS

\therefore 「 $0.99\beta < \gamma < \beta$ では (VS, VS) は均衡」は明らか。

分析(2-3)の結果

$0 < \gamma < 0.88\beta$ → (VI, VI)

$0.88\beta < \gamma < 0.99\beta$ → (VI, VI) < (2/3, 1/2) < (1/2, 2/3)

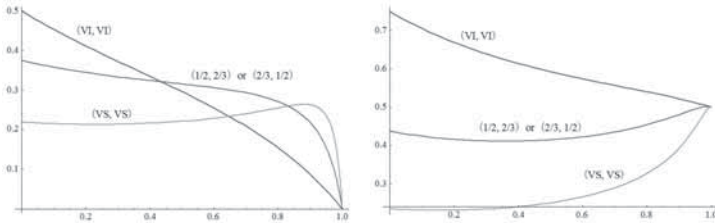
$0.99\beta < \gamma < \beta$ → (VI, VI) < (2/3, 1/2) < (1/2, 2/3) < (VS, VS)

- ・ γ の値の上昇に伴い、(VI, VI) 以外の均衡も生じる。
- ・ また (VI, VI) 以外の均衡では、(VI, VI) 均衡時よりも生産者の利潤は大きい。

均衡として実現する4パターンでの比較(2)

結合利潤(生産+加工+販売)

社会的厚生



ジュースに関する取組例:

通常のみかんやオレンジを原料としたものの販売にとどまらず、特有の果肉色を持つ**ブラッドオレンジ**を原料としたものを試作中。(加工過段階については他社に生産委託)

↑

「1/3のケースでの問題点に対する適応策」に相当。

(原料の重要性が極めて大きい状況での生産委託ならば、1/3でもVIと同等の効果が理論上得られる。)

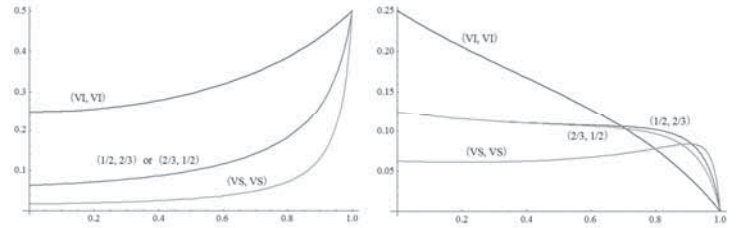
分析(2)のまとめ(水平的競争を考慮する場合)

- ・ 生産者にとって6次産業化は必ずしも有益ではない(消費者および社会全体にとっては望ましい)。
- ・ 財の同質性が高い状況での6次産業化は、それを選択する生産者自身に不利益をもたらすのみならず、その選択が他の生産者の最適反応戦略を変化させることを通じて、他の生産者をも不利益の方に誘導しかねない。
- ・ 6次産業化は財の差別化を伴う形で推進されることが重要であり、特に今後多くの競合相手の参入が予想されるならば、その重要性は一層増す。

均衡として実現する4パターンでの比較(1)

消費者の厚生

生産者の利潤



事例

分析結果と現実との整合性を確認するため、2014年4月に**スズキ果物農園**(浜松市浜北区; 代表 = 鈴木幸隆氏) に対して聞き取り調査を行った。

取組品目:

ジャム、ジュース、チップス、シロップ、アイスクリーム等

右図: 差別化戦略により、結婚式の贈答品としての新たな需要も獲得したジャム。



分析(1)のまとめ(水平的競争を考慮しない場合)

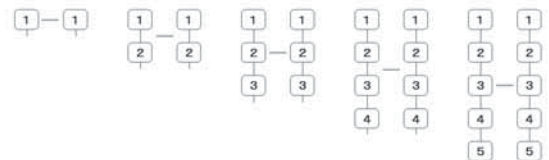
- ・ 6次産業化は生産者と消費者の双方にとって有益である。
- ・ ただし6次産業化(VI)に至る過程(1/2, 2/3, 1/3)の中で、生産委託(1/3)は生産者にとってメリットがないという問題点がある。(それにより6次産業化への誘因が減じられている可能性もある。)
- ・ 上記の問題に対しては(加工面絡みの)政策的な支援が必要と考えられるが、生産者による交渉力向上の努力によっても解決可能である。

本稿の理論研究上の位置づけ

継起的複占の状況下での価格競争を論じた先行研究

(1) Coughlan and Lal (1992)

- ・ 取引段階数1~5の範囲を分析対象としている。
- ・ そのもとで、「財の同質性が高まるほど、生産者にとっては取引段階数の多い状況が好ましい」ことを導いている。

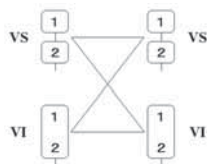


・ただし、取引段階数は外生扱いであり、競合相手と常に対称的であるという想定のもとでの分析に過ぎない。

・その結果として、Coughlan and Lal (1992)と同様の結論に加え、さらに以下の3つの結論を導いている。

(2) Cyrenne (1994), 成生(1994)

・取引段階数1～2の範囲を分析対象とし、**取引構造選択を内生化した**分析を行っている。

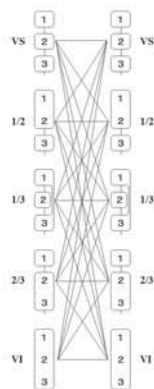


- ① 財の同質性が高い領域では、(VI, VI)と(VS, VS)の複数均衡状態となる。
- ② 複数均衡の状況では、(VI, VI)よりも(VS, VS)の方が常に利潤が大きい。
- ③ 取引構造の選択が非対称となるような均衡は**生じない**。

(3) 鈴木 (2015)

・取引段階数1～3の範囲を分析対象とし、**取引構造選択を内生化した**分析を行っている。
(Cyrenne (1994), 成生(1994)の拡張版)。

・そのもとで、Cyrenne (1994), 成生(1994)での前記②までの結論が依然成立することを確認するとともに、③に関しては「取引構造の選択が非対称となるような均衡も**生じ得る**」という、新たな結論を導出している。



農の 6 次産業化における農業者と消費者の心理

静岡文化芸術大学 文化政策学部 小杉大輔

農の 6 次産業化と農業者のワーク・モチベーション

心理学では、ワーク・モチベーション(仕事へのやる気、動機づけ)に関する研究が数多くおこなわれてきた。そこからの理論の一つ

個人の達成できる業績(P = performance)は、主にその人の能力(A = ability)とやる気(M = motivation)との積によって決定されると考えられ、「 $P = A \times M$ 」で表されるという(宮城, 2009)。

心理学では、このやる気、動機づけには、大別すると 2 つの種類があると考えられている。

→「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」

前者は、外的な報酬によって動機づけられること、たとえば、収益や給料、地位、権限などのために働くことをさす。一方、後者は、仕事そのものが報酬となっている状態をさす。

内発的動機づけによる行動には、自らの成長・発達のための行動、興味関心からの行動、価値観にもとづいた行動、知的な欲求からの行動などがある(宮城, 2009)。

また、内発的動機づけによる行動には、熟達志向性と自律性、自己決定性という特徴があるという(鹿毛, 1994)。熟達志向性は、知識や技能を追及し、深めようとするものであり、内発的動機づけによる行動は、周囲の状況に対する理解を促進し、能力や技能を高めることから得られる喜びや満足であるので、限りなく持続する強力な動機づけとして機能する。

また、自律性や自己決定性は、自主的な行動を認められることを意味するので、さまざまな創意工夫が試みられ、積極的な行動が起こる。このように、内発的動機づけの理論は、人々が与えられた仕事の中に、自らの楽しみや好奇心、成長や熟達などの刺激を見出すことで動機づけを高め、積極的で自立的な仕事への取り組みを維持できる可能性を示唆している(白樫, 2009)。

先に挙げたなかじま園やうなぎいもプロジェクトの事例からは、それぞれの仕事に携わる人たちが内発的に動機づけられていることが印象づけられる。イチゴやイモの生産方法や品質管理にこだわる姿、独自の商品を開発し、ブランド化に向けて創意工夫する姿、人材を育成し、地域貢献しようとする姿は、内発的動機づけの強さを感じさせる。そして、強力な内発的動機づけに支えられ、これらの 6 次産業は高い業績を収め、結果として高い収益という外的な報酬も得ることにつながっている。

農業者にとって、6 次産業化には、ワーク・モチベーションを高める要因が多く存在するといえる。また、逆に、ワーク・モチベーションの高い農業者にとって、6 次産業化への取り組みは、そのやる気を長期的に維持し、自らの仕事の有意義感、満足感を与えてくれるものと考えられる。

若者を農業にひきつける

いうまでもなく、日本の農業において、農業者の高齢化は大きな問題であり、後継者の確保や育成は最重要課

題の一つであると考えられる。一方、高齢化社会において若者が希少価値になってくることは、農業に限ったことではない。優秀な若者の確保や、採用した若者の丁寧な育成は、さまざまな業種において重要視されている。したがって、農業には、人材確保・育成の面で、他の業種との競争力をつけることが求められているといえる。

いくら農業の仕事そのものに魅力があっても、農家出身ではない若者が新規に農業を立ち上げることは非常に困難である。若者を農業に招き入れ、農業を存続、発展させるためにも、6次産業化によって農業の企業化を図ることが重要なのである。

そして、通常の企業が新入社員に集合研修をおこない、その後にOJT(On the Job Training; 職場研修)などで新人を一人前に育てていくように、全くの素人の新入社員を一人前に育てていくシステムを農業の企業化を通じて確立していくべきである(中里, 2013)。

6次産業化と消費者の心理 リスク・コミュニケーション

現代の消費者は、「情報を食する」ともいえる(日下部・和田, 2011)。とくに食の安全・安心に人は細心の注意を払い、それを脅かすような事態に対しては、強い嫌悪感情を抱く。

農の6次産業では、生産から加工・販売までの過程が見えやすく、情報が得やすいことから、消費者の食の安全・安心に関する不安や不満は低いものと思われる。これは、6次産業化の利点の一つであり、表1の成功要因の一つにも数えられている。しかしながら、とくに生産者が、加工・販売へと事業を拡大するケースにおいては、そのプロセスにおいてさまざまなハザード(危害要因)が存在することを認識しておかなければならない。

この障壁には、食品におけるリスクコミュニケーションの問題が関連している。これは、食品のハザードに関する情報を関係者間(ステークホルダー)で共有したり意見交換することである(日下部・和田, 2011)。

生産者にとって、リスク・メッセージをわかりやすく伝えることが重要であり、また、それを伝えたいうえで、どのような対策をとっているのか、つまり安全についての情報を伝えることが、消費者の安心につながる。

農の6次産業では、商品の差別化・ブランド化のために、産地や生産者のアピール、有機栽培やトレーサビリティなど安全・安心面の取り組みが積極的におこなわれている。食の安全・安心のハードルの高さは障壁であるが、それを乗り越えることができれば、「強み」を得ることになる。

参考文献

- 鹿毛雅治 1994 「内発的動機づけ研究の展望」『教育心理学研究』第42巻、第3号、345-359
- 日下部裕子・和田有史 2011 『味わいの認知科学 舌の先から脳の向こうまで』頸草書房
- 中里幸聖 2013 「農業の企業家は若者の新規就農を目玉に」大和総研グループ Web サイト コラム 2013年9月2日
- 日本政策金融公庫農林水産事業 2013 「平成24年度農業の6次産業化等に関する調査」『AFCフォーラム別冊情報戦略レポート③』 http://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/topics_111202_1.pdf
- 白樫三四郎編『産業・組織心理学への招待』有斐閣ブックス

表1 農業の6次産業化の成功要因（日本政策金融公庫 2013）

①「生産・加工技術」に強みを持つ経営

農産物の生産方法や品質管理にこだわり、品質の高さや独自性を強みに差別化し、販路を確保している経営。価格設定についても、経費を踏まえて市場価格に左右されない「再生産価格」を基に設定したり、品質の高いものを消費者の生活水準に合った価格帯で提供するなどの工夫を行っている。

②「ブランド化」に強みを持つ経営

高品質な自社商品の差別化を進めブランド化に成功した経営。他に真似のできない独自技術での商品開発により、高級品としてのブランドを確立しているところや、さまざまなコンテストでの受賞歴を重ねることで地道にブランドを築き上げている経営が多い。

③「マーケティング」に強みを持つ経営

売上向上につながるマーケティングが奏功した経営。「作っただけでは売れない」ことも認識しており、自分たちで如何にして販売するかという意識の共有を重視している。また、無料試食や収穫体験などで自社商品のファンを拡大し、長期的な利益につなげようとする姿勢も見られる。

④「人材確保・育成」に強みを持つ経営

人材確保・育成に力を入れている経営。マネジメント研修や先進事例の視察で集客ノウハウを学ばせるなど、将来の幹部候補として幅広い視野を持った人材の育成に努めている。6次産業化により経営の幅が広がったことで、跡継ぎとなる子供達が帰郷したりなど、跡継ぎが決まったことで、周囲の農家が安心して農地を貸してくれるようになり、規模拡大が進んだ事例もある。

⑤「女性の活躍」に強みを持つ経営

女性の活躍が経営にプラスとなっている経営。女性は主婦として普段から料理を行っていることから、食品加工や調理に向いていると考える経営者が多く、こうした知識・経験を活用して、取引先の使用目的にあわせた商品の企画・提案を女性従業員に任せているところもある。

⑥「食の安全・安心」に強みを持つ経営

無農薬栽培や有機栽培など食の安全・安心をPRすることで差別化を図っている経営。生産履歴の表示や植物向上の設置などにより安全・安心をわかりやすくPRしているところもある。また、輸出にあたって、日本より厳しい海外の在留農薬基準をクリアしているところや、農場HACCPを取得し生食用として卵を輸出しているところもある。

⑦「地域からの支援」に強みを持つ経営

地域の協力を得て経営が行なわれている経営。地域の農業者が集まって大規模化し、農業機器を共有することで営農コストを縮減する集落営農を行っているところが多い。地域農産物を扱う直売所の開設や、地域の生産者から農産物を買って加工し、ブランド化して販売するなど、地域の活性化を目指そうとする動きも見られる。

⑧「輸出・海外生産」に強みを持つ経営

輸出や海外での現地生産に取り組んでいる経営。輸出にあたっては、現地でのパートナーでありさまざまな販路を持っている輸入業者（輸入代理店）と協力体制を構築できるかが成功の鍵と考えているところが多い。また、輸出を安易に考えると国内でのブランドに傷がつくおそれもあると考える一方で、現地の商習慣では、日本における買取りや前払いといった制度は受け入れられないことが多く、ある程度のリスクを引き受ける覚悟がないとビジネスが始まらないと考えるところもある。

農の6次産業化に関心をもったきっかけ

▶ テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」

2012年9月20日放送 「農業を変えるか？6次産業」



▶ http://kotokyoto.co.jp/images/koto_shuzai_big/tiekirarri.pdf

農の6次産業化における 農業者と消費者の心理

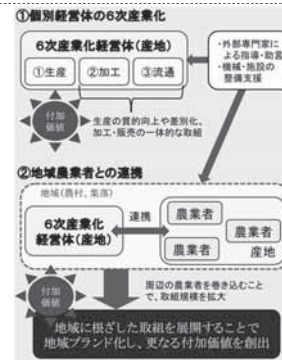
静岡文化芸術大学 文化政策学部 小杉大輔

静岡県のWebサイト



▶ <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-110/rokujisangyou.html>

経営発展型・事業連携型



▶ http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/491/655/101101_shingikai_shiryou8.pdf

静岡県の事例：経営発展型

- ▶ 静岡市でイチゴを生産者する有限会社「なかじま園」
- ▶ 平成23年4月に農林水産省総合食料局が発表した6次産業化先進事例(100事例)にも選ばれている

静岡県の事例：経営発展型



▶ 日本経済新聞 2010年1月22日

なかじま園のWebサイト



▶ <http://www.ichigo15.jp/beParticular.htm>

静岡県の事例：経営発展型



静岡県事例：事業連携型

- ▶ 「うなぎいもプロジェクト」 浜松市
- ▶ 平成23年10月に法認定を受けている。



<http://unagiimo.hamazo.tv/e5716524.html>



<http://unagiimo.hamazo.tv/>

静岡県事例：事業連携型



<http://www.unagiimo.com/>

静岡県事例：事業連携型



<http://www.unagiimo.com/project1.html>

うなぎいもぷりん



静岡県事例：事業連携型



<http://unagiimo.hamazo.tv/e5343166.html>

6次産業化の成功要因の検証

表1 農業関係事業者の成長要因 (日本経済新聞 2013)

①「農業」は3次産業(食品)の付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

②「ブランド」による付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

③「マーケティング」による付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

④「人材確保」による付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

⑤「農産物の生産」による付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

⑥「農産物の加工」による付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

⑦「農産物の販売」による付加価値
農産物の生産から加工・包装・販売までを一貫して行うことで、生産者から消費者まで一貫してつながることで、生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。生産者から消費者までの利益を確保できる。

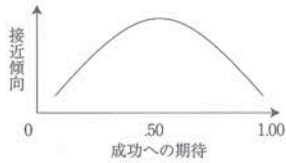
ワーク・モチベーション① 6次産業化と動機づけ

- ▶ 心理学では、ワーク・モチベーション(仕事へのやる気、動機づけ)に関する研究が数多くおこなわれてきた。そこからの理論の一つ。
- ▶ 個人の達成できる業績(P = performance)は、主にその人の能力(A = ability)とやる気(M = motivation)との積によって決定されると考えられ、「 $P = A \times M$ 」で表されるという。

外発的動機づけと内発的動機づけ

- ▶ 心理学では、このやる気、動機づけには、大別すると2つの種類があると考えられている。「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」である。
- ▶ 前者は、外的な報酬によって動機づけられること、たとえば、収益や給料、地位、権限などのために働くことをさす。一方、後者は、仕事そのものが報酬となっている状態をさす。

アトキンソンの達成動機理論



■ 図 1-5 成功への期待と接近傾向との関係 (Atkinson, 1957 より作成)

- ▶ 達成動機(自己の能力を発揮して独自のやり方で課題を成し遂げようとする動機)が高い人の動機づけは、正否が五分五分のとき最大になる。

白樫三四郎 2009 「産業・組織心理学への招待」有斐閣ブックス

ワーク・モチベーション② 若者を農業にひきつける



<http://www.moku-moku.com/>

ワーク・モチベーション② 若者を農業にひきつける

- ▶ いうまでもなく、日本の農業において、農業者の高齢化は大きな問題であり、後継者の確保や育成は最重要課題の一つであると考えられる。一方、高齢化社会において若者が希少価値になってくることは、農業に限ったことではない。
- ▶ 優秀な若者の確保や、採用した若者の丁寧な育成は、さまざまな業種において重要視されている。したがって、農業には、人材確保・育成の面で、他の業種との競争力をつけることが求められているといえる。

ワーク・モチベーション② 若者を農業にひきつける



<http://www.moku-moku.com/>

ワーク・モチベーション② 若者を農業にひきつける

- ▶ 本来、農業は魅力的な仕事である。
- ▶ そこに、6次産業化によってさらなる魅力—たとえば、仕事のやりがい、社会的な価値—を付加させることにより、この業種は、さらに多くの若者を引き付けるものになると考えられる。

ワーク・モチベーション② 若者を農業にひきつける 農業女子



2014年7月14日日本経済新聞

2014年10月28日静岡新聞

消費者の心理的側面 食に関する情報処理①リスク・コミュニケーション



http://www.nikkei.com/article/DGXNASDC2200H_S4A720C1MM8000/



<http://www.buzznews.jp/?p=135644>

消費者の心理的側面 食に関する情報処理①リスク・コミュニケーション

- ▶ 食の安全・安心のハードルの高さは、多くの6次産業者がぶつかる障壁となっているようである。
- ▶ しかし、それを乗り越えることができれば、「強み」を得ることになる。

まとめ

- ▶ 農の6次産業は、誰もがゼロから始められる事業であるという印象はない。
 - ▶ 成功事例について調べ、紹介する中で、逆に6次産業化の難しさを学んだように思われる。
-

まとめ

- ▶ その一方、農の6次産業は、やりがいのある仕事であり、ワーク・モチベーションを高く維持することのできる仕事である。
 - ▶ 今後の農の6次産業化の発展を考えるうえで重要になるのは、意欲ある優秀な人材、とくに若い人材をいかにして就農させていくのかという点であろう。
-

浜松市における農の6次産業化 支援への取組みと課題

平成26年11月8日(土)
浜松市 産業部 農林水産政策課

- ◆6次産業化とは、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用して新たな付加価値を生み出す取組。
(1次 × 2次 × 3次 = 6次産業)
- ◆平成26年6月24日に閣議決定された「日本再興戦略」改訂2014において、6次産業化の市場規模を現状の1兆円から、2020年に10兆円にするという成果指標を掲げている。
(2010年度：1.2兆円 ⇒ 2012年度：1.9兆円 *試算値)
- ◆この10兆円の目標達成に向けて、国内のバリューチェーンを有機的に結合し、農林漁サイドが食品産業サイドの付加価値をより多く取り込むことができるよう、農林漁業者主導の取組に加え、多様な事業者による地域資源を活用した地域ぐるみの6次産業化を推進する。



国の動き(その1) 「攻めの農林水産業の推進」

「強い農林水産業(産業政策)」とともに「美しく活力ある農山漁村(地域政策)」を実現するため、農林水産業と地域の活性化を表裏一体で進めることが重要であるとしている。

(農林水産業・地域の活力創造プラン)

美しいふるさとを守る農林水産業

農林水産省 抜粋資料

○「攻めの農林水産業」については、地域の潜在力を活かし、農林水産業の6次産業化や輸出の促進等、農林水産業を産業として強くする取組と、美しい棚田の保全など農林水産業の有する多面的機能の発揮の両者を車の両輪として具体化を進めているところ。

農林水産業の位置づけ

- 我が国は古来より「瑞穂の国」と呼ばれ、農林水産業は「国の基(もと)」
- 農林水産業は食料供給のみならず、息をのむほど美しい棚田などが果たす多面的機能を通じ国民生活に不可欠な存在
- 我が国の精緻な農林水産業は「ものづくりDNA」の源泉

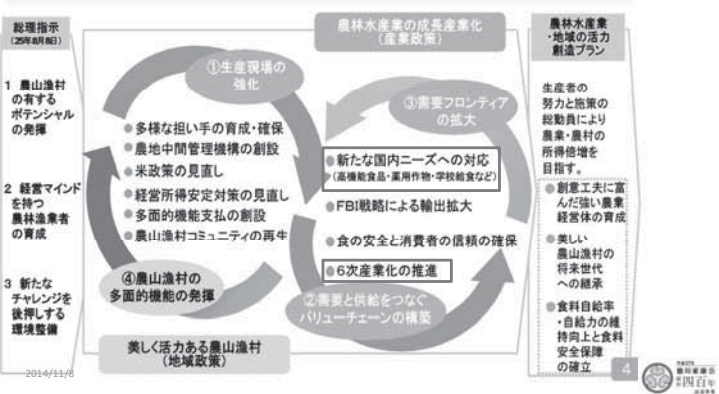
農山漁村の潜在力

- 丹精込めた食への技術と伝統
- 世界に評価される日本食とおもてなしの心
- 世界有数の森林・海洋資源
- 農山漁村にある再生可能エネルギーのポテンシャル

国の動き(その2) 「攻めの農林水産業のための農政の改革方向」

農林水産省 抜粋資料

①生産現場の強化、②需要と供給をつなぐバリューチェーンの構築、③需要フロンティアの拡大、④農山漁村の多面的機能の発揮を柱に、産業政策と地域政策を車の両輪として、「攻めの農林水産業」を展開。これにより、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を創り上げ、農産・農村全体の所得増進を目指す。



浜松市の農業の特徴

浜松市の地形は、天竜川の急峻な中山間地、扇状地に広がる下流域の平野部、河岸段丘の三方原台地、そして浜名湖から太平洋沿岸部によって形成され、特色ある農産物が生産されている。

農業産出額	
平成18年(2006)	億円
1 甲州市	724
2 都城市	698
3 新潟市	655
4 浜松市	540

(生産農業所得統計)

主な農産物の産出額	
農産物	産出額(千円)
みかん	1,533
米	273
きく	237
肉用牛	172
メロン	161
茶(生葉)	142
生乳	141
鶏卵	136
ちんげんさい	135
かんしょ	127

このほか、切り枝、ねぎ、ばれいしょ、セルリーなどが挙げられる。



浜松市の「農工商連携・6次産業化の支援①」

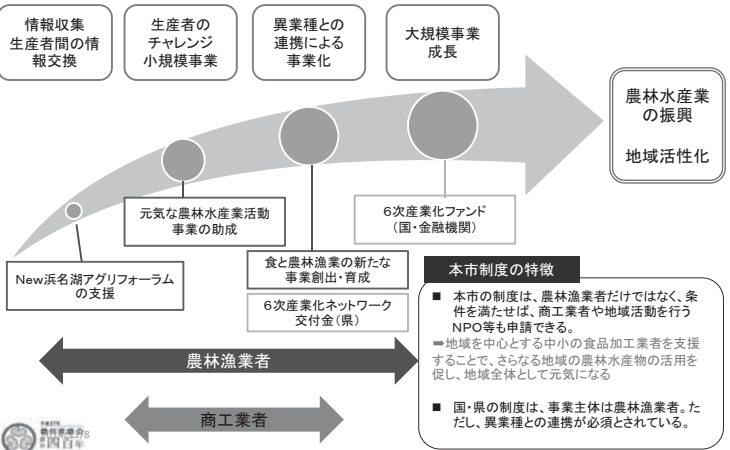
浜松市の「農工商連携・6次産業化の支援①」

農工商連携・6次産業化の推進

農林水産業の6次産業化を推進し、多彩な農林水産物の高付加価値化や商品化を支援する。(戦略計画2014)

平成24年度まで	平成25年度から
<p>「アグリビジネスセミナー」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な農業技術や6次産業化事業の情報提供 ・専門支援機関の協力のとも、事業の相談会の開催 <p>農工商連携・6次産業化の啓発 異業種とのマッチングの場の提供</p>	<p>浜松市未来を拓く農林漁業育成事業費補助金</p> <p>1次産業である農林漁業と2次産業の工業、3次産業の商業や観光業等を組み合わせた6次産業化・ブランド化をさらに推進し、農林漁業の付加価値の向上や新たな価値の創出、新規販路の開拓を図ることで、農林漁業そして食料関連事業を活性化し、雇用と所得を生み出し、次世代へとつなげることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 食と農林漁業の新たな事業創出・育成 浜松市の豊かな地域資源(農林水産物、伝統食、バイオマス、農山漁村の景観等)を活用した新商品の開発、新サービスの提供 ◆ 元気な農林水産業活動事業 本市の農林水産業の強化、振興または農山漁村の活性化を図る事業(例)地域の特産物の振興に寄与する事業、本市の農林水産物の商品化、ブランド化に繋がる事業、新たな販路開拓事業
<p>間接的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者が6次産業化を認識・検討 ・経営意識をもつ生産者の育成 ・異業種との交流 	<p>直接的支援</p> <p>6次産業化・ブランド化の地域のモデルとなる事業を育成し、他の事業者による情報を提供することで、次に続く事業者を生み出す。</p>

浜松市の「農工商連携・6次産業化の支援②」



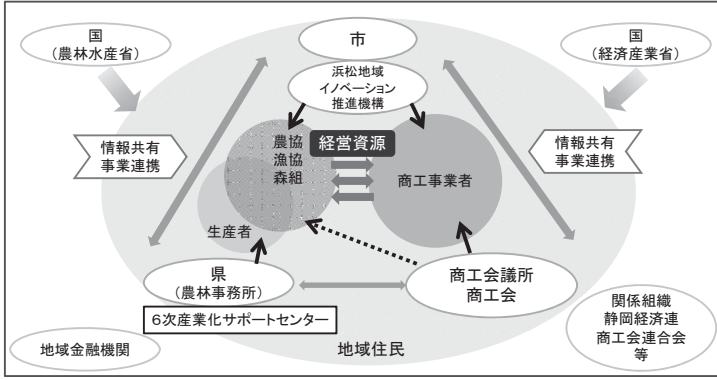
浜松市の「農工商連携・6次産業化の状況」

1. 国の制度

施策名称	法令	件数	事業例
農工商連携事業計画認定	農工商連携促進法(経産省・農水省)	7	● 高品質な茶葉を使用した高級ボトリング茶の開発及び販売 【ロイヤルブルーティーンジャパン+南カタタ田園】
6次産業化事業計画認定	6次産業化・地産地消法(農水省)	6	● 浜松産サツマイモを利用した加工食品の開発と販売体制の構築 【(株)コスモグリーン庭好】 ● フラッドオレンジを活用した商品開発と「たか」シリーズのブランド化 【スズキ果物農園】
6次産業化助成事業	同上	4	● 3種類の新作コロッケの試作・開発 【(和)三畜産】 ● 業ねぎのロシア向け生鮮品新規輸出事業 【ロシア輸出促進協議会】

2. 市の助成金(浜松市未来を拓く農林漁業育成事業費補助金)

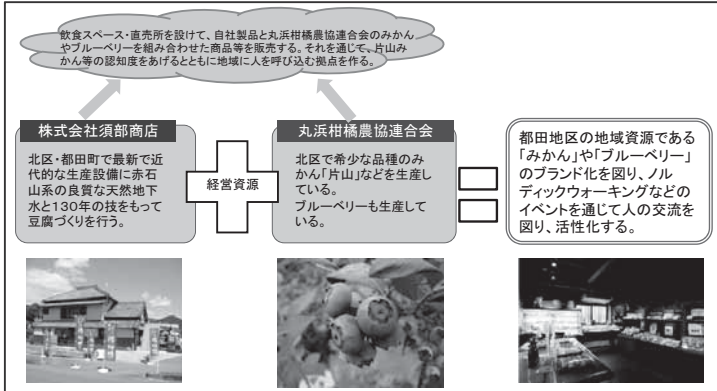
年度	助成金名称	提案数	採択数	事業例
25年	食と農林漁業の～	14	8	給食向け地元農産物ピューレ・ペーストの製造及び販売
	元気な農林水産業活動～	36	16	春野天狗山椒をブランド化する開発企画
26年	食と農林漁業の～	14	7	丸浜柑橋連グローバルGAP取得事業
	元気な農林水産業活動～	16	13	浜松特産のガーベラを使って街を元気に!



市：県や商工会議所と連携しながら、6次産業化や農工商連携事業について総合的に支援。補助金等で資金的に応援。
 県：国から6次産業化サポートセンター業務を引き継ぎ実施。6次化の事業相談や事業認定への準備などの支援を行う。
 国：関東農政局浜松地域センターの担当者が、事業認定された事業についてフォロー。認定に向けた新たな事業の掘り起しを県と協力して行っている。
 商工会議所等：農業者と商工業者のマッチングなど農工商連携に係る支援を実施。

事業例②

地域資源のブランド化・地域交流



2014/11/8

新しい動き・今後の課題

- ◆ とびあ浜松農業協同組合が、浜松商工会議所の会員に。
- ◆ 浜松商工会議所が、「浜松産の食材でヒット商品を作ろう！プロジェクト」をスタート。
- ◆ 浜松市内若手農業者が実行委員となり、県と市がサポートして開催した「New浜名湖アグリフォーラム」で、若手生産者が自らの事業プランを語りはじめた。

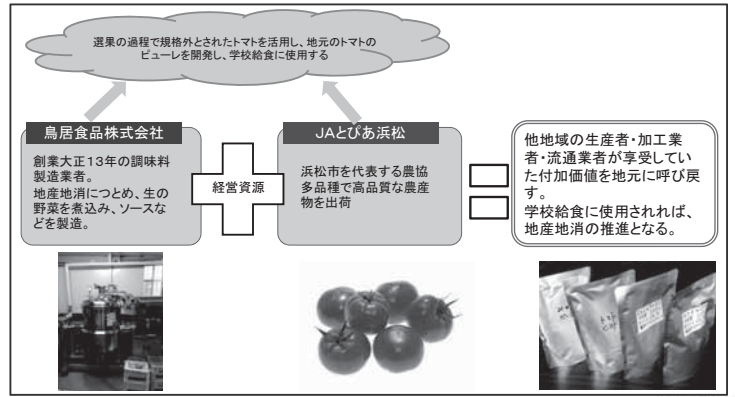
- 目まぐるしい変化が起きている状況のなかで、生産者・事業者が本当に望む支援内容の把握と具体的な対応策
- 国や県を含む、他の機関とのより効果的な連携策と、役割分担の明確化
- 浜松市の今後を担う若手農業者の事業プラン実現に向けた適切なサポート体制

本市の1次産業の将来イメージの構築と共有化

2014/11/8

事業例①

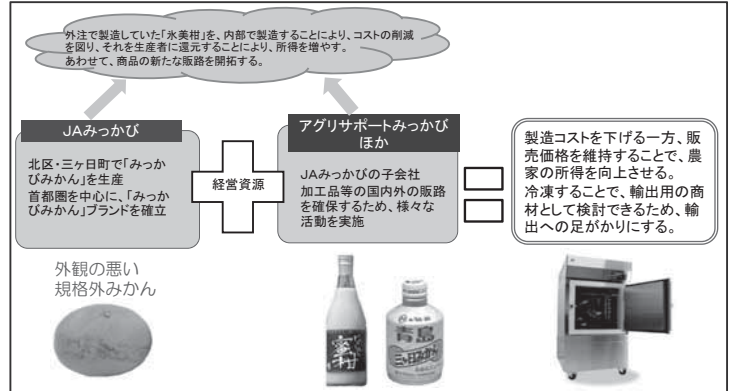
商品の開発・新サービスの提供



2014/11/8

事業例③

コスト削減による所得の向上・新規販路開拓



2014/11/8

ご清聴ありがとうございました。

浜松市 産業部 農林水産政策課
電話：457-2334

2014/11/8



株式会社知久「知久屋」

□ 成り立ち

昭和32年 食料品店として創業

□ 事業展開

お惣菜・お弁当等の中食をメイン

□ 基本理念

健康とおいしさの追求

2

会社概要

本部 浜松市西区桜台
 資本金 7,366万円
 売上げ 46億円 ※2014年3月期
 事業所 本社工場・第二工場
 知久屋店舗 49店

従業員 760名
 正社員120名・パート社員640名

3



化学合成添加物、合成保存料、
 合成着色料を使用しない食品作り



安全で美味しいお惣菜のために

旬の美味しい、新鮮な野菜

化学合成農薬を使わない
 化学合成肥料を使わない
 有機肥料で栽培する農業

企業参入の始まり・耕作放棄地の再生



重機による再生作業



耕作放棄の廃棄物の撤去



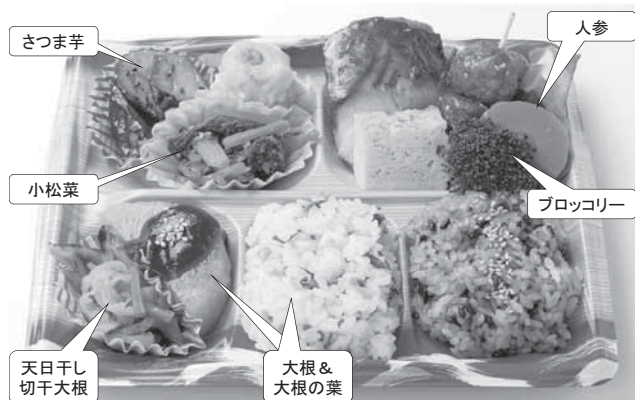
再生農地



現在の農業経営規模

- 耕作面積 約17ヘクタール
- ビニール温室 3ヶ所
- 正社員 9名、
パート20名、臨時雇用で運営
- 年間 約40種類の野菜を生産

知久屋農園弁当



農園の直送サラダ



福祉施設の皆さんとともに



天ぷら廃油でバイオ燃料

食物廃油 再生利用のボイラー



食と環境の絵画展(スイス国際交流)



ふじのくに地域・大学コンソーシアム
平成26年度共同公開講座

静岡の食を支える 農の6次産業化と 地域振興

2014.11.8 [土] 13:00~16:10
[開場12:30]

[会場]
静岡文化芸術大学 大講義室(南278)

- 1** 農の6次産業化への流通戦略
13:00~13:30 小本恵照(駒澤大学経営学部教授)
- 2** 垂直的分離・統合と6次産業化
13:30~14:00 鈴木浩孝(静岡文化芸術大学文化政策学部准教授)
- 3** 農の6次産業化における農業者と消費者の心理
14:00~14:30 小杉大輔(静岡文化芸術大学文化政策学部准教授)
- 休憩
- 4** 浜松市における農の6次産業化支援への取組みと課題
14:40~15:10 浜松市産業部農林水産政策課
- 5** ジビエによる中山間地活性化への試み
15:10~15:40 寺島健彦(常葉大学健康プロデュース学部准教授)
- 6** 惣菜屋から農の6次産業化へ
15:40~16:10 小澤勇夫(株式会社 知久総務課課長)

司会進行 米屋武文(静岡文化芸術大学文化政策学部教授)



申込方法

氏名、所属、連絡先(電話・FAX・E-Mailなど)を明記の上、ふじのくに地域・大学コンソーシアム宛にお申込みください。

[定員] 150名

参加無料
事前申込制
先着順

主催：静岡県
一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム
静岡文化芸術大学

静岡の食を支える農の6次産業化と地域振興

わが国の食料自給率は先進国で最も低い。世界人口が急増して食料需要が高まる中において、わが国の自給率も高めておくことが重要である。政府は、国の成長戦略の一つとして農業を挙げている。しかしながら、農業は収益性が低いため、従事者の減少と高齢化が進んでいる。この解決策として注目されるのが6次産業化であり、本講座で市民に向けて情報発信したい。

PROFILE

小本 恵照 駒澤大学経営学部教授

東京大学経済学部経済学科卒業、慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程単位取得退学。ニッセイ基礎研究所主任研究員、静岡文化芸術大学教授などを経て現職。専門は経営学。現在は、主として小売・飲食業を対象に、企業理論、経営戦略、経営組織、組織間関係に関する研究を行っている。

小杉 大輔 静岡文化芸術大学文化政策学部准教授

京都大学大学院文化研究科博士後期課程修了、博士(文学)。静岡理工科大学総合情報学部講師などを経て現職。専攻は発達心理学であり、乳幼児期の認知発達や大学生の学びへの動機づけを主たる研究テーマとしてきたが、最近では、産業・組織心理学、とくに消費者行動に関する研究も行っている。

小澤 勇夫 株式会社 知久総務課課長

明治大学卒業後、遠州鉄道株式会社に入社し、観光、運輸、総務部門等で勤務した後、株式会社知久にて、総務・農業部門を担当している。株式会社知久は、2003年、構造改革特区により農業参入し、惣菜製造小売会社の農業生産部門として、化学合成肥料・化学合成農薬を使用しない野菜栽培を行っている。

鈴木 浩孝 静岡文化芸術大学文化政策学部准教授

京都大学農学部卒業後、スズキ株式会社入社(監査役室所属)。京都大学大学院経済学研究科博士課程を経て現職。博士(経済学)。専門は寡占理論に基づく応用ミクロ経済学。市場の構造や企業間の競争形態についての数理的な分析を通して、取引制度や競争促進政策のあり方を研究している。

寺島 健彦 常葉大学健康プロデュース学部准教授

愛媛大学農学部卒、静岡県立大学大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻修了。博士(食品栄養科学)。株式会社桃谷順天館研究員、静岡県任期付研究員(農林技術研究所茶業研究センター)などを経て現職。専門は栄養化学、食品機能学。研究テーマは、食品成分の機能性に関する研究。

米屋 武文 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

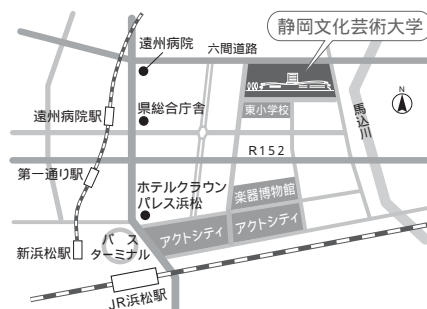
名古屋大学大学院農学研究科博士課程修了。農学博士。静岡県立大学短期大学部助教授、ハワイ大学客員研究員、ケニア共和国ジャモケニヤツ農工大学客員教授などを経て、2001年から現職。現在は「伝統食文化の発掘と育成」、「米粉食品の開発」などを研究テーマとしている。NPO法人浜松百姓のチカラ顧問。

| a | c | c | e | s | s |

[徒歩] JR浜松駅から徒歩15分

[バス] 浜松駅バスターミナル
10番のりば遠鉄バス「文化芸術大学」下車

駐車場がありませんので、車での来場はご遠慮ください。



お申込み

- 定員は150名で、先着順に受付します。
- 氏名、所属、連絡先を明記の上、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム宛にE-mail・FAXでお申込みください。
- 会場に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

お名前		
所属(会社・団体・学校名)		
連絡先	TEL	FAX
	E-mail	

[お問い合わせ] 一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

FAX ▶ 054-249-1820

E-mail ▶ mail@fujinokuni-consortium.or.jp

大学共同授業「人間と環境」
～「地球発」の新しい価値観の創造～

◇大学共同授業（西部地域連携事業）

- 1 開講期間 平成26年10月4日（土）～平成26年12月13日（土）の8土曜日
 2 講義会場 静岡文化芸術大学(浜松市中区中央2-1-1 TEL 053-457-6111)
 3 講義テーマ 「人間と環境」－「地域発」の新しい価値観の創造－

現在、自然・歴史・文化等の地域資源を活用した地域の活性化、B級グルメ・地域産品・観光・スポーツ等を利用した各自治体のプロモーション活動、また、環境保全・医療・科学等における産学官連携による地域社会の課題解決への取り組み等が、各地域で行われ、その事例を通して、「地域発」の新しい価値観が社会に発信されつつあります。

平成26年度の共同授業では、これらの事例や社会的背景を紹介しながら、これからの「地域」の可能性やあり方について、受講生とともに学ぶ機会とします。

- 4 講義日程 9:30～12:40 第1回のみ9:15よりガイダンスを実施

期 日		担 当 講 師 ・ テ ー マ	
第1回	10月4日 (土)	ガイダンス	9:15～9:30
		第1講 第2講	静岡大学 情報学部 准教授 赤尾晃一 コンテンツ創発による、地域の新たな価値観 ——ロケ誘致、聖地巡礼、ご当地アイドル——
第2回	10月11日 (土)	第3講 第4講	浜松学院大学 短期大学部 准教授 加藤 智 学校が変わる、地域が変わる これからの時代の教育の可能性
		第5講 第6講	静岡産業大学 経営学部 講師 熊王康宏 地場産業における心理評価の役割
第4回	10月25日 (土)	第7講 第8講	静岡大学 工学部 教授 犬塚 博 新しい計測技術で三ヶ日みかんや浜松メロンをより魅力的に
		第9講 第10講	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 教授 古川和稔 地域包括ケアシステムを見据えた自立支援介護の実践
第6回	11月15日 (土)	特別公開講座 第11講 第12講	富士宮やきそば学会 会長 渡邊英彦 ご当地グルメのブランド化と地域活性化ビジネスモデルの構築
		第13講 第14講	静岡理工科大学 教育開発センター 特命教授 沼倉 昇 遠州可睡斎の「活人剣碑」及び「護国塔碑」の解釈と鑑賞
第8回	12月6日 (土)	第15講 第16講	常葉大学 健康プロデュース学部 准教授 木村 佐枝子 学生を中心とした大学の社会貢献 ——ボランティア活動における教育的意義——

○講義時間 ① 9:30～11:00(90分)②11:10～12:40(90分)

◇講義概要について

第1回〈第1・2講〉平成26年10月 4日(土) 9:30~12:40

◆講師 静岡大学 情報学部 准教授 赤尾晃一

◆講義テーマ コンテンツ創発による、地域の新たな価値観
——ロケ誘致、聖地巡礼、ご当地アイドル——

◆講義の目的・内容

映画・ドラマ・アニメ・ゲームなどコンテンツに地域が取り上げられることで、新たな価値観が生まれ、観光振興などにつながる事例が増えている。「コンテンツ・ツーリズム」と総称される。フィルム・コミッション事業によるロケ誘致、主にアニメのロケハン先(背景などの参考にした場所)を観光客が訪れる“聖地巡礼”などの事例を紹介するとともに、その可能性と限界について履修者と議論したい(第1講)。いずれも全国的メディアに取り上げられることで地域が再注目される「トップダウン型」と言える。一方、B級グルメ・ゆるキャラ・ご当地アイドルという「地域振興三点セット」は地域からの「ボトムアップ型」の価値創発と言える。とくに後二者について議論したい(第2講)。

◆参考図書等

岡本健『n次創作観光 アニメ聖地巡礼/コンテンツツーリズム/観光社会学の可能性』
NPO 法人北海道冒険芸術出版, 2013

山村高淑『アニメ・マンガで地域振興』東京法令出版, 2011

.....

【講師プロフィール】

- 1 専門分野 マスコミュニケーション論, 大衆文化論
- 2 主な研究テーマ 電子メディア(とくにソーシャルメディア)による, コンテンツビジネスの変容
- 3 主な論文、著作、社会的な活動等
平林久和との共著『ゲームの大学』メディアファクトリー, 1996
世相風俗観察会編『現代世相風俗史年表 1945-2008(増補新版)』河出書房新社, 2009

第2回〈第3・4講〉平成26年10月11日（土） 9：30～12：40

◆講 師 浜松学院大学 短期大学部 准教授 加藤 智

◆講義テーマ 学校が変わる、地域が変わる これからの時代の教育の可能性

◆講義内容

「教育は国家百年の計」と言われるように、これからの時代をつくっていく子どもたちへの教育こそが、これからの国家や地域の発展のカギを握っている。

本講義では、近年メディアが大きく取り上げ話題となっている「学力テスト」や「学力低下」といったトピックについて取り上げ、一方的な情報を鵜呑みにするのではなく、批判的な視点をもって今後の教育の在り方について考えられるように、様々なデータをもとに検討する。さらには、現在大きく変わりつつある学校教育の現状についても紹介し、これからの時代に求められる資質や能力、これからの教育において期待される学校と地域の関係性、そして学びの場としての地域の可能性を明らかにする。

受講生がそれぞれの立場でこれからの教育の在り方に関心をもってくれることを期待している。

◆参考図書等 特になし

.....

【講師プロフィール】

1 専門分野 教育学・教科教育学（生活科）

2 主な研究テーマ

生活科・総合的な学習の時間と地域社会への子どもの参加

3 主な論文、著作、社会的な活動等

【論文】「これからの時代に求められる資質能力を育む総合的な学習の時間における「子どもの参加」に関する研究」浜松学院大学短期大学部研究論集第10号、2014年（刊行予定）

【著作】『探究的・協同的な学びをつくる』三恵社、2013年（共著）

【社会的活動】日本生活科・総合的学習教育学会常任理事

第3回〈第5・6講〉平成26年10月18日（土） 9：30～12：40

◆講師 静岡産業大学 経営学部 講師 熊王康宏

◆講義テーマ 地場産業における心理評価の役割

◆講義内容

食の都である静岡県、特に遠州地域では、世界に誇れる地場産業が非常に多く、“ものづくり”が積極的になされている。“ものづくり”における商品開発・商品企画は、企業にとって利益の根源であり、食品の場合、人の感性・官能といった、いわゆる心理評価によって技術化が進められている。人の過去の経験や、その時代の風潮などに影響を受けた複雑な心理評価の関係性を、科学的な手法によって明らかにすることで、快適な生活環境のデザイン、感動できる商品開発が可能となる。

本講義では、これまで地場産業・企業において課題解決してきた心理評価による種々の商品開発事例から、人の心理という曖昧な評価が支える大きな役割を紹介し、感動できる「地域発」の新しい価値観の創造について解説していく。

◆参考図書等 特になし

【講師プロフィール】

1 専門分野 感性工学、経営工学、心理学

2 主な研究テーマ
ものづくり心理学による感動できる商品開発

3 主な論文、著作、社会的な活動等

著書(共著)：快適な生活環境設計 人間生活工学 丸善株式会社(2004)、

食の官能評価入門 光生館(2009)、感動と商品開発の心理学 朝倉書店(2011)

研究論文：官能評価による生ハムの食感品質と購買評価に関する研究 日本官能評価学会誌(2010)、感性評価による生菓子の食感品質に関する研究 日本感性工学論文誌(2014)

第4回〈第7・8講〉平成26年10月25日（土） 9：30～12：40

◆講 師 静岡大学 工学部 教授 犬塚 博

◆講義テーマ 新しい計測技術で三ヶ日みかんや浜松メロンをより魅力的に

◆講義内容

この大学共同授業を受けに来ている皆さんは、大部分文系の学生さんと思われます。その為、理系の学問分野である工学技術や計測技術には難しいとか関係ないというイメージを持っているかもしれません。でも、そんな工学技術が地元の果物の商品価値を高め、より魅力的にすることに役立っているのです。

消費者にとってより魅力的な美味しい果物は、やはり甘くて適当な歯応えを持った物です。それらを切らずに調べられたら付加価値を付けて高く売ることが出来ます。その様な目的の計測器を使って、三ヶ日みかんは既に甘さの全数検査が行われていますし、スーパーではスイカや桃やメロンの糖度を表示しています。メロンの食べ頃を正確に判断する試みも始まっております。その様な人々の役に立つ計測技術とそれを使ってのビジネス展開のお話を、実物を見せながら文系の学生さんにも分かり易くご紹介させていただきます。

◆参考図書等 特になし

.....

【講師プロフィール】

1 専門分野 デジタル計測、デジタル信号処理

2 主な研究テーマ

デジタル技術を用いた新しい計測器の開発
非接触非破壊での甘さや硬さの測定

3 主な論文、著作、社会的な活動等

犬塚博：「非接触非破壊ハンディ型硬さ測定器」 ケミカルエンジニアリング， Vol. 57, No. 1, pp. 24-30, (2012).

ヤマハ技術講座社外講師

ヤマハ・ヤマハ発動機・アスモを初めとする地元企業と共同研究

ホームページ： <http://teils.eng.shizuoka.ac.jp>

第5回〈第9・10講〉平成26年11月8日（土） 9：30～12：40

◆講師 聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 教授 古川和稔

◆講義テーマ 地域包括ケアシステムを見据えた自立支援介護の実践

◆講義内容

介護福祉の観点から今後の地域のあり方を考える際、念頭におかなければならないのは、2025年を目途に構築を推進している地域包括ケアシステムである。これは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指すシステムである。このシステムを構築するためには、元気な高齢者はいつまでも元気に暮らし、要介護高齢者は出来る限り自立性を取り戻していくような支援が不可欠である。最新の自立支援介護では、地域の施設が連携して次々と要介護高齢者の自立性を回復している例や、家族介護教室を開催して認知症の症状を大きく改善させた例が多数報告されている。本講義では、実践例を紹介しながら、「地域発」の観点から今後の介護福祉実践のあり方について解説する。

◆参考図書等 小平めぐみ、古川和稔、竹内孝仁（監）ほか、『介護の生理学』
秀和システム、2013.

.....
【講師プロフィール】

1 専門分野 介護福祉、高齢者福祉、リハビリテーション、障害者福祉

2 主な研究テーマ

福祉人材の確保・育成に関する研究

自立支援介護の実践・教育に関する研究

障害者、高齢者が地域で暮らし続ける方策に関する研究

3 主な論文、著作、社会的な活動等

【著書】介護の生理学（共著、秀和システム、2013）、

介護福祉士養成テキスト『生活支援技術Ⅳ』共著、建帛社、2013）など

【論文】感情労働とバーンアウトからみた障害者福祉施設に勤務する新任職員の現状、保育・教育・福祉研究、11、2013、介護福祉士の早期離職に関する質的研究、自立支援介護学、3(2)、2010、介護実習における学生と施設職員の関係形成プロセス、介護福祉学、15(1)、2008 など

【社会的な活動】宇都宮市地域密着型サービス運営委員会会長、栃木県障害者施策推進審議会委員、宇都宮市地域包括支援センター運営協議会委員、宇都宮市社会福祉審議会委員など

第6回〈第11・12講〉平成26年11月15日（土） 9：30～12：40

◆講師 富士宮やきそば学会 会長 渡邊英彦

◆講義テーマ ご当地グルメのブランド化と地域活性化ビジネスモデルの構築

◆講義内容

他地域では知られていないその地域独特のご当地グルメを使って活性化をはかり、地域の経済効果を上げる。

他地域の人々へどのような情報発信をするか。

ご当地グルメをブランド化し、それを持続させるための戦略。

言葉だけではなく形にすること。→商品化することにより一層の話題性、ストーリーへとつなぐ。

知的財産（商標登録によるブランド化）を利用し、他業種への波及効果をあげる。

◆参考図書等 特になし

.....

【講師プロフィール】

1 専門分野 地域ブランドとマーケティング戦略

2 主な論文、著作、社会的な活動等

著書 「ヤ・キ・ソ・バ・イ・ブ・ル」

「B級ご当地グルメで500億のまちおこし」

* 総務省の地域づくり委員

第7回〈第13・14講〉平成26年11月29日（土） 9：30～12：40

◆講 師 静岡理科大学 教育開発センター 特命教授 沼倉 昇

◆講義テーマ 遠州可睡斎の「活人剣碑」及び「護国塔碑」の解釈と鑑賞

◆講義内容

袋井市の可睡斎には、日清・日露の二大戦に関係した「活人剣碑」及び「護国塔碑」と呼ばれるモニュメント（漢文）がある。

「活人剣碑」は日清戦争の下関講和会議中に日本人暴漢に襲われた清国全権大使・李鴻章と、その治療に当たった軍医総監・佐藤進（順天堂大学第三代堂主）との、剣をめぐるエピソードを刻む。一方、「護国塔碑」は我が国の命運を賭けた日露戦争の戦没者八万人余を慰霊・顕彰するために建立された。しかも護国塔そのものは時の建築界の第一人者・伊東忠太の設計で、今も可睡斎の蓮華峰に堂々と聳え立つ。

講義では、日清・日露戦争の歴史的経緯や映像資料等に触れながら、前半は「活人剣碑」を、後半は「護国塔碑」を中心に、碑文の訓読・解釈と鑑賞を行う予定である。併せて、我が国の近代化の歩みを振り返り、今、話題の日中・日韓の外交関係をどのようにしたらよいのか、皆さんと考えてみたい。

◆参考図書等

- ・『李鴻章』（岡本隆司 岩波新書 2011年）
- ・『外科医 佐藤進』（常陸太田市 1981年）
- ・『日置黙仙老師満漢巡錫録』（田中靈鑑 非売品 1907年）
- ・『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（加藤陽子 朝日出版社 2009年）
- ・『「坂の上の雲」と日露戦争』（山川出版社 2009年）

.....

【講師プロフィール】

1 専門分野

教職指導（高校教員養成）

2 主な論文、著作、社会的な活動等

社会的な活動

- ・磐田市人権擁護委員
- ・磐田市立豊田中学校学校協議会委員長

第8回〈第15・16講〉平成26年12月6日（土） 9：30～12：40

◆講師 常葉大学 健康プロデュース学部 准教授 木村 佐枝子

◆講義テーマ 学生を中心とした大学の社会貢献
—ボランティア活動における教育的意義—

◆講義内容

本講義では、学生を中心とした地域連携の取り組み事例をもとに、ボランティア活動の理論と方法論を実践的に学ぶことを目的とする。「べき」論ではなく、新たな社会構想へとつなげる方法論を習得する。

ボランティア活動の基礎的知識を習得するとともに、ボランティア活動を実践する基本的技法も習得することにより、単なる机上の空論にとどまらず、地域や社会へと開かれたボランティア活動を、自ら企画し実践できる力を身につけることを目標とする。

事例のフォトセッション、ポストイット方式による演習を行う。

◆参考図書等

- ・「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」, 藤田久美, ふくろう出版,
- ・「Win-Winの社会を目指して」, 前林清和, 晃洋書房

.....
【講師プロフィール】

1 専門分野

社会貢献学・ボランティア教育・健康心理学

2 主な研究テーマ

- ・大学の社会貢献・地域貢献に関する研究
- ・ボランティア活動を通じた人間形成に関する研究

3 主な論文、著作、社会的な活動等

- ・東日本大震災における大学生ボランティアの語り—グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析から—, 社会貢献学研究 1-1, 2013
- ・警察署と大学の協定による地域防犯ボランティアの取り組み—地域における学生ボランティアの意義—, 人間文化第33号, 2013

特定非営利法人 NGO 活動教育研究センター理事, 大学生等による部活動支援ボランティア検討委員会委員 (静岡県教育委員会), 社会貢献活動支援士

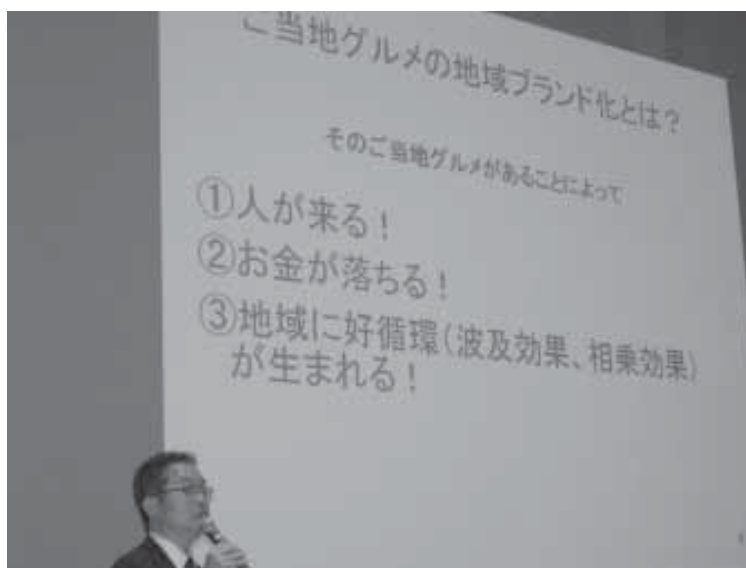
大学共同授業特別講座

「ご当地グルメのブランド化と地域活性化ビジネスモデルの構築」

日時 11月15日(土)

講師 富士宮焼きそば学会会長 渡邊英彦氏

9年間で経済効果439億円という実績をあげた「富士宮やきそば」の事例から、地域の経済効果を上げる方法、地域の人々への情報発信、ブランド化させたご当地グルメを持続させるための戦略など、渡邊会長の経験に基づいて講義を行った。



2014. **11/15** 土

9時30分～12時40分

会場 静岡文化芸術大学 講堂

定員 300人 (入場無料)

※どなたでもご参加いただけます。当日、直接会場にお越しください。
なお、定員を超えた場合は、入場をお断りすることがございます。
※会場には、駐車場がありませんので、公共交通機関等をご利用ください。

「人間と環境」 — 「地域発」の新しい価値観の創造 —

ご当地グルメのブランド化と 地域活性化ビジネスモデルの構築

9年間で経済効果439億円という実績をあげた「富士宮やきそば学会」の事例から、他地域では知られていない、その地域独特のご当地グルメを使って活性化を図り地域の経済効果を上げる方法などについて紹介します。

他地域の人々へ、どのような情報発信をしていくか、ご当地グルメをブランド化しそれを持続させるための戦略とは何か、言葉を形にしてさらに商品化することで話題性を持たせ、その後のストーリーにつなぐ方法とは何かを経験に基づいてお話しします。



富士宮やきそば学会 会長

講師

渡邊 英彦 氏

■お問い合わせ先: 富士のくに地域・大学コンソーシアム
西部地域連携事業実施委員会事務局(静岡文化芸術大学 地域連携室)
電話:053-457-6105 FAX:053-457-6123

■主催: 富士のくに地域・大学コンソーシアム 西部地域連携事業実施委員会 共同授業部会
(静岡大学工学部・情報学部、静岡産業大学、静岡理工科大学、聖隷クリストファー大学、
常葉大学浜松キャンパス/浜松大学、浜松学院大学・短期大学部、静岡文化芸術大学、浜松市、
磐田市、袋井市)

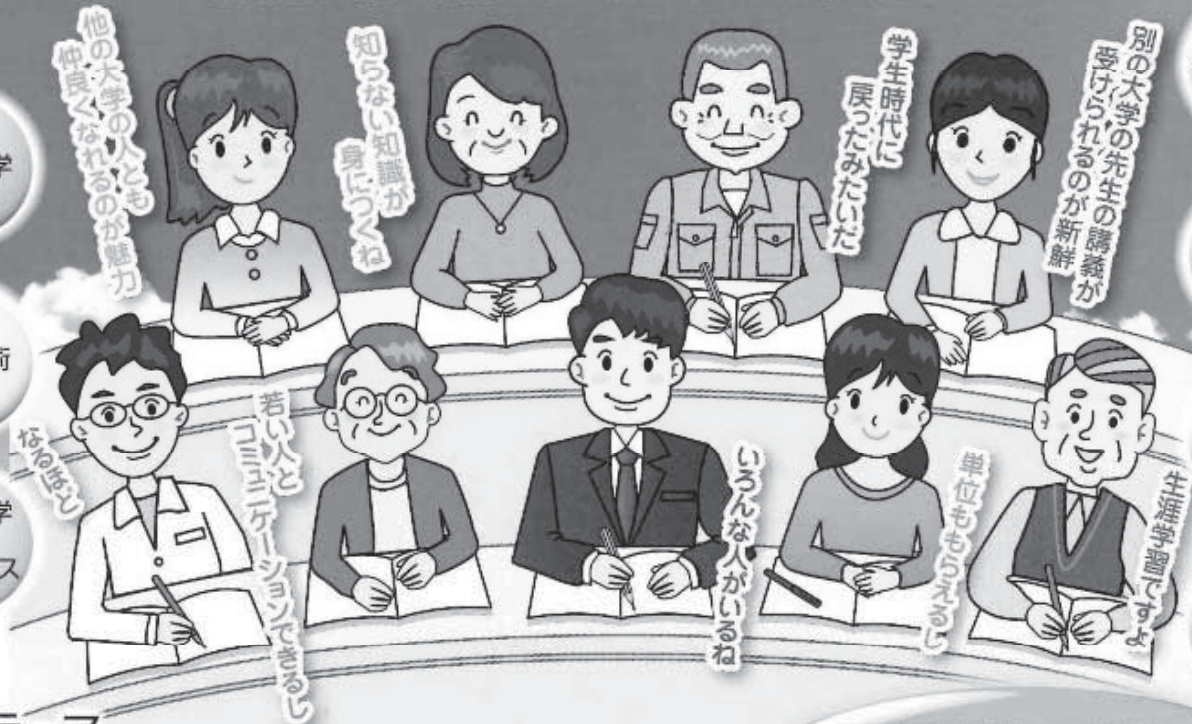
大学共同授業

一般市民の方も受講できます。お早めにお申し込みください

静岡大学

静岡文化芸術大学

常葉大学
浜松
キャンパス



聖隷
クリスチャー
大学

浜松
学院大学
短期大学部

静岡
理工科
大学

静岡
産業大学

講義テーマ

「人間と環境」～「地域発」の新しい価値観の創造～

講義スケジュール日程／担当講師／講義内容

第1回 10/4 (土) 9:30～12:40	静岡大学 情報学部 准教授 赤尾晃一 コンテンツ創発による、地域の新たな価値観 ～ロケ誘致、聖地巡礼、ご当地アイドル～
第2回 10/11 (土) 9:30～12:40	浜松学院大学 短期大学部 准教授 加藤 智 学校が変わる、地域が変わる これからの時代の教育の可能性
第3回 10/18 (土) 9:30～12:40	静岡産業大学 経営学部 講師 熊王康宏 地場産業における心理評価の役割
第4回 10/25 (土) 9:30～12:40	静岡大学 工学部 教授 犬塚 博 新しい計測技術で 三ヶ日みかんや浜松メロンをより魅力的に
第5回 11/8 (土) 9:30～12:40	聖隷クリスチャー大学 社会福祉学部 教授 古川和徳 地域包括ケアシステムを見据えた 自立支援介護の実践
第6回 11/15 (土) 9:30～12:40	富士宮やきそば学会 会長 渡邊英彦 ご当地グルメのブランド化と 地域活性化ビジネスモデルの構築
第7回 11/29 (土) 9:30～12:40	静岡理工科大学 教育開発センター 特命教授 沼倉 昇 遠州可睡齋の「活人剣碑」及び「護国塔碑」 の解釈と鑑賞
第8回 12/6 (土) 9:30～12:40	常葉大学 健康プロデュース学部 准教授 木村 佐枝子 学生を中心とした大学の社会貢献 ～ボランティア活動における教育的意義～

受講生募集!

一般市民の方も受講できます。

会場 **静岡文化芸術大学**

浜松市中区中央二丁目1-1

期間 **平成26年10月4日(土)**
～**平成26年12月6日(土)**
※全8回(左記スケジュール日程参照)

定員 100名程度

資格 **学生**(上記7大学に在籍している学生)(受講料無料)
※所定の成績を修めれば、在籍する大学の単位として
認定することができます。

一般市民の方 高校卒業もしくは
同等の学力を有すると認められる方

・聴講生(受講料 8,000円) 単位は取得できません。

・科目等履修生(受講料 22,000円)

レポート提出及び出席状況等による成績基準を満たせば
「静岡産業大学」の単位を取得できます。

受付 学生：各大学教務担当 一般市民：静岡大学工学部

申込 募集要項をご覧の上、お申し込みください。
※募集要項は各大学、及び各市にございます。

申込期間 学生：在籍する大学が定める期間内
一般市民：平成26年7月1日(火)～8月1日(金)

お問い合わせ先	単位認定校	一般市民受付	共同授業運営委員会事務局	ふじのくに地域・大学コンソーシアム 西原地域連携事業実施委員会事務局
	TEL.(0538)37-3852 静岡産業大学 教務・学生スタッフ	TEL.(053)478-1006 静岡大学工学部 教務係	TEL.(053)439-1433 聖隷クリスチャー大学 教務事務センター	TEL.(053)457-6105 静岡文化芸術大学 地域連携室

ふじのくに地域・大学コンソーシアム / 静岡大学、静岡文化芸術大学、常葉大学浜松キャンパス、聖隷クリスチャー大学、浜松学院大学短期大学部、静岡理工科大学、静岡産業大学/浜松市、磐田市、袋井市
西部地域連携事業実施委員会事務局

一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

420-0839

静岡市葵区鷹匠 3-6-1 静岡県総合研修所もくせい会館

電話 054-249-1818